年報

令和元年度

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

Faculty of Nursing

令和元年度　年報

目次

〇頭言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

〇組織図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

〇学校行事　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

〇入試状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

〇教職員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

〇委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

〇教育活動

学部

‣臨床看護学コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

‣災害看護学コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　50

大学院

‣高度実践看護コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・　73

‣高度実践助産コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・　79

‣高度実践公衆衛生看護コース　・・・・・・・・・・・・・　86

‣看護科学コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・　91

‣博士課程　・・・・・・・・・・・・・・・・・　95

〇業績

臨床看護学コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　97

災害看護学コース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　118

品格・品性を備えた看護学部

平成 22 年（2010 年）４月に、「東が丘看護学部」としてスタートした本学部も 10 周年を迎えました。この間の平成 26 年（2014 年）には、「東が丘・立川看護学部」（臨床看護学コース，災害看護学コース）となり、200 名の定員を抱える大規模な看護学部が誕生しました。大学院は、平成 22 年のスタート段階では、修士課程「高度実践看護」コース（NP 養成）のみでしたが、平成 24 年には、「高度実践助産コース」、平成 28 年には「看護科学コース」、「博士課程（看護学)」、令和元年には「高度実践公衆衛生看護」コースを設置し、看護に係る高度実践者及び研究教育者の養成に努めてきました。

令和２年度から、「東が丘看護学部」「立川看護学部」の 2 つの学部に分かれて再スタートを切ることになりましたので、10 年間継続して発刊してきました年報も、今回が最終巻となります。

本学部、そして個々の教員の①教育、②研究、③地域・社会活動を年度毎に振り返り、自ら評価（「自己評価・自己点検」）するために年報として記録に残すことにしてきました。発刊当初は、紙媒体での年報でしたが、現在は、web 上で公開し、多くの方々からの評価を受け、各自のリフレクションの一つの手段として活用することも意図してきました。

研究、社会貢献活動は、アウトカムを可視化しやすく、自己評価も他者評価も比較的容易ですが、教育活動については客観的な評価が難しいのが現実です。教育活動は、本学部の教員がもっとも心血を注いでいる活動でもあり、教員としてのモチベーションにもつながり、重要と考えてきました。卒業生をフォローするシステム等を構築し、臨床現場との連携を図りながら、教育のアウトカム評価の方策を模索していくことが今後の課題であると考えています。

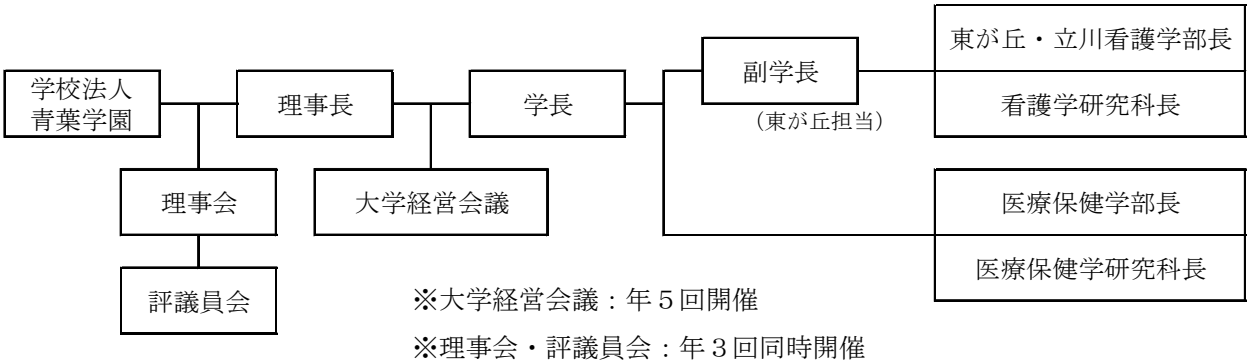
専門職としての心意気、能力、情熱を備え、対象者のみなさまから信頼される自律した看護師、助産師、保健師を育成することが本学部の大きな目標の一つです。

教育，研究、社会貢献の３つの活動のバランスを図り、多様化するニーズに応えることができる柔軟性のある大学、そして、品格，品性を備えた大学であり続けることを期待して、最終巻の巻頭言とさせていただきます。

令和２年３月２日

研究科長　草間朋子

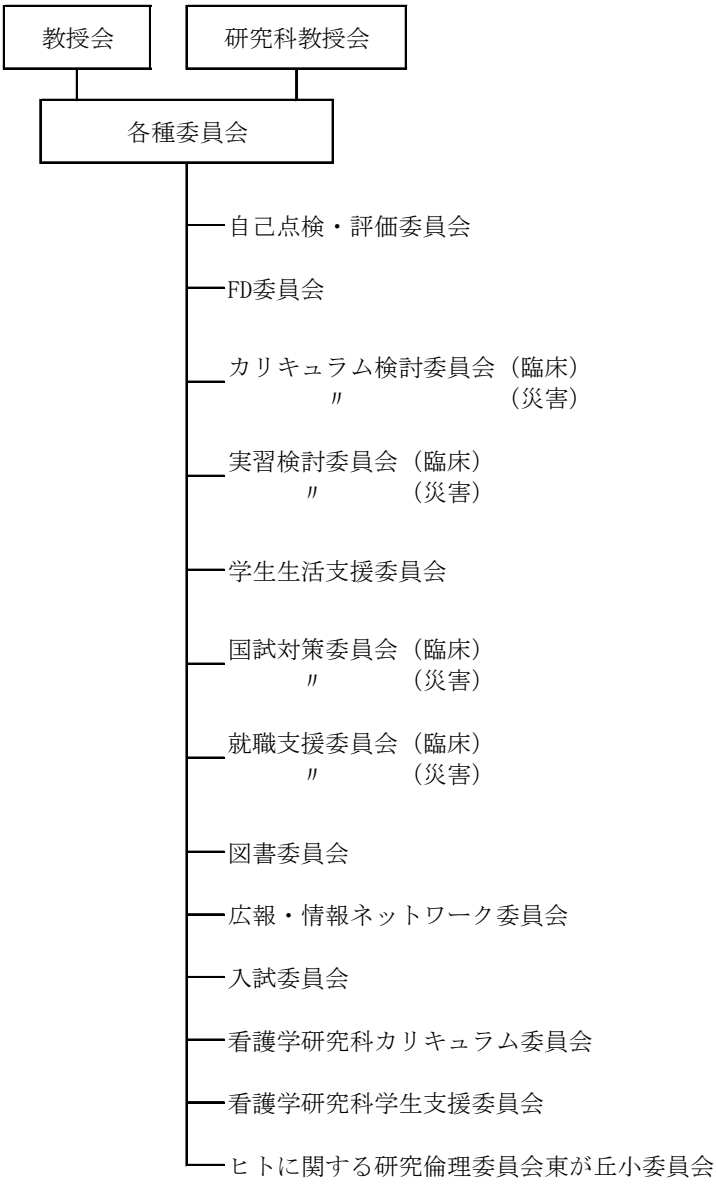
１．組織図

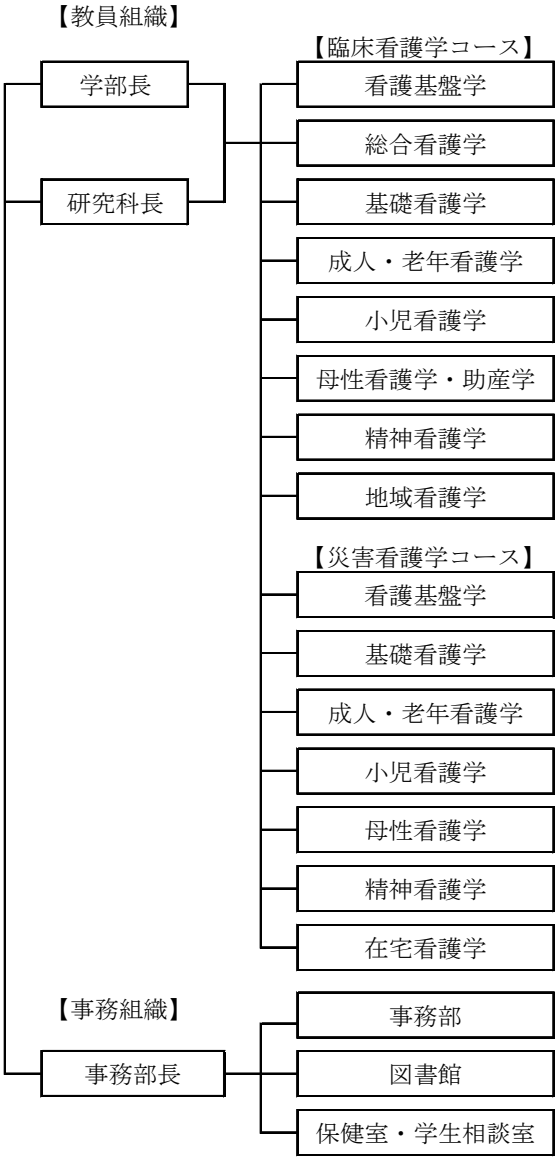


※大学経営会議：年５回開催

※理事会・評議員会：年３回同時開催

東が丘・立川看護学部の運営組織





２．学内行事の概要

２－１．学年暦

【　前　期　】

4 月

1 日　学内ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（1～4 日）、新入生ガイダンス(臨床)
2 日　健康診断
3 日　入学式
5 日　新入生ガイダンス(災害)
8 日　前期セメスター授業開始

5 月

7 日　在宅看護学実習(臨床～6/28)
9 日　新入生合宿研修(～5/10)
13 日　在宅看護学実習(災害～7/5)
27 日　看護過程展開実習(災害～6/7)

6 月

3 日　看護過程展開実習(臨床～6/14)
14 日　スポーツ大会
24 日　看護学体験実習(臨床～6/28)

7 月

1 日　看護学体験実習(災害～7/5)
16 日　看護学統合実習(臨床・災害～7/26)
27 日　オープンキャンパス(東が丘)

8 月

8 日　夏季休業開始(～9/30 まで)
18 日　オープンキャンパス(立川)
20 日　各論実習－母性看護学実習等(災害～R2/2/7)

9 月

3 日　各論実習－母性看護学実習等(臨床～R2/2/14)
13 日　ひがしが丘保健室

【　後　期　】

10 月

1 日　後期セメスター授業開始
13 日　東が丘・立川看護学部見学会(東が丘)中止
19 日　東が丘・立川看護学部見学会(立川)

11 月

3 日　医愛祭(～4 日まで)
10 日　指定校・公募推薦入学試験

12 月

1 日　開学記念日
2 日　老年看護学実習(臨床・災害～12/12)
6 日　国立病院機構病院説明会
11 日　卒業生との懇談会(臨床)
18 日　卒業生との懇談会(災害)
28 日　冬季休業開始(～R2/1/5)

1 月

24 日　一般入学試験 A 日程

2 月

4 日　一般入学試験 B 日程
5 日　国家試験壮行会(東が丘・立川)
12 日　就職支援講座(災害)
18 日　一般入学試験 C 日程
17 日　日常生活援助展開実習(臨床・災害～2/21)
20 日　就職支援講座(臨床)

3 月

3 日　学位記授与式・修了式
13 日　ひがしが丘保健室　中止

２－２．オープンキャンパス

7 月 27 日(土)に国立病院機構キャンパス、8 月 18 日(日)に国立病院機構立川キャンパスで実施された。受験生、父母等を合わせ、国立病院機構キャンパスでは 457 名、国立病院機構立川キャンパスでは 682 名の参加があった。

なお、概要は以下の通りである。

【国立病院機構キャンパス】

会場 ： 国立病院機構キャンパス　本館 1 階～2 階

１）全体説明会(学部紹介) (体育館　9:30～15：00 の間に 2 回実施　1 回 50 分程度)

【内　容】

・学長挨拶「大学の理念」(初回のみ)

・学部理念とカリキュラム紹介

・キャンパスライフ「在学生体験談」

・クラブ紹介

２）全体説明会(入試説明) (HM301 教室　10:35～13：40 の間に 2 回実施　1 回 30 分程度)

【内　容】

・入試広報「入試概要・面接対策」

３）全体説明会(総合問題対策講座) (HM201 教室　11:50～13:55 の間に 2 回実施　1 回 45 分程度)

【内　容】

・看護系大学入試に詳しい予備校講師による本学の過去の「総合問題」に基づく分析と解説

４）個別相談コーナー　(HM205 教室、HM206 教室、学生ホール)

・東が丘・立川看護学部個別相談

・医療保健学部、千葉看護学部個別相談

・入試総合相談

・就職・奨学金・学生寮相談

・在学生と話そう

・海外研修展示

５）体験コーナー

・成人･老年看護学(1 階 HM104 実習室)

普段何気なく生活している中で、役にたつかもしれない情報がみられるかも！？

からだの音を自分の耳できき、ナースウエアを着て看護師になりきろう！

未来のあなたを創造できるブースです！

・看護基盤学(2 階 HM209 実習室)

放射線の測定をしよう！顕微鏡でラットの臓器細胞をみよう！

・基礎看護学(1 階 HM107 教室)

テーマ：基礎看護学 ～夢への第一歩～バイタルサイン測定や手浴を体験することができます。また在学生との懇談会も開催しております。

・大学院高度実践看護コース(2 階 HM204 演習室)

臨床推論体験：事例を用いて臨床推論をしてもらいます。エコーも展示し NP によるエコー検査を説明します。JNP へのインタビューを含めた動画上映、教科書や授業風景などの展示。

・大学院高度実践助産コース（1 階 HM106 実習室）

テーマ：2 つの命を守る助産師

内容：受精から出生、新生児までの命のつながりと母と子二つの命に寄り添いケアする助産師の役割と疑似体験する

・大学院高度実践公衆衛生看護コース

骨密度測定、体組成計および簡易保健指導の実演をします。

・大学院個別相談（2 階 HM209 教室）

大学院看護学研究科の教育内容について質問にお答えします。

６）東京医療センター見学会

1 グループ約 10 名の 6 編成で、所要時間は約 60 分の病院見学を実施。

午前午後各 1 回に分けて、東京医療センター看護部の案内のもと実施された。

【立川キャンパス】

会場 ： 立川キャンパス　本館 1 階～3 階

１）全体説明会(学部紹介) （体育館　9:30～14:00 の間に 2 回実施　1 回 60 分程度)

【内　容】

・学長挨拶「大学の理念」(初回のみ)

・学部理念とカリキュラム紹介

・キャンパスライフ「在学生体験談」

・クラブ紹介「ACT,ひいりんぐぽっと」

２）全体説明会(入試説明) （体育館　10:45～14:45 の間に 2 回実施　1 回 30 分程度)

【内　容】

・入試広報「入試概要・面接対策」

３）全体説明会(総合問題対策講座) （TM203 教室　12:10～12:55　45 分程度)

【内　容】

・看護系大学入試に詳しい予備校講師による本学の過去の「総合問題」に基づく分析と解説

４）個別相談コーナー　(TM304 教室、TM202 教室)

・東が丘・立川看護学部個別相談

・大学院個別相談

(高度実践看護コース、高度実践助産コース、高度実践公衆衛生看護コース、看護科学コース、博士課程)

・医療保健学部、千葉看護学部個別相談

・入試総合相談

・就職・奨学金・学生寮相談

・在学生と話そう

・海外研修展示

５）体験コーナー

・精神看護学(2 階 TM202 教室)

『こころの健康測定』

① 日常生活のストレスを計ってみよう

② エゴグラムでこころの状態をチェックしてみよう

③ お酒と健康について考えてみよう（体質判定体験）

・在宅看護学(1 階実習室)

『在宅看護に触れてみよう！！』

『自分の体力を測ってみよう！！』

・基礎看護学(1 階 TM102 教室)

『基礎看護学の部屋へようこそ！』

①血圧測定

②体位変換

③衛生学的手洗い

④フィジカルアセスメント（心音・肺音の聴診）

６）災害医療センター見学会

1 グループ約 10 名の 6 編成で、所要時間は約 60 分の病院見学を実施。

午前午後各 1 回に分けて、災害医療センター看護部の案内のもと実施された。

２－３．東が丘・立川看護学部見学会

本年度の見学会は、10 月 13 日(日)に国立病院機構キャンパスで予定されていたが、台風の為中止となった。

なお､10 月 21 日(日)の国立病院機構立川キャンパスでの見学会は予定どおり実施された。

受験希望者、父母等を含め合計 51 組の参加があった。

２－４．個別見学会

下記の日程で個別見学会を実施した。

・国立病院機構キャンバス

令和元年 5 月 29 日(水)、10 月 13 日(日)※、10 月 29 日(火)、10 月 31 日（土）

※台風の為中止。

・国立病院機構立川キャンパス

令和元年 6 月 24 日(月)、10 月 19 日(土)

高校生・受験生・保護者を合わせ延べ 137 名が参加。

２－５．公開講座等の開催（FD 企画を含む）

① 31.4.18(木) 17:00～18:00　H2511

テーマ:「東が丘・立川看護学部、看護学研究科～FacultyMember の連携・協働をとおして～」

講　師: 草間　朋子（副学長、看護学研究科長）

② 1.5.15(水)　16:30～17：30　HM301 教室

テーマ:「実習評価の基本と実際」

講　師: 竹内　朋子（東が丘・立川看護学部　准教授）

③ 1.8.30(金)　17:00～18:00　HM301 教室

テーマ:「東京医療保健大学紀要について」

講　師: 小西　敏朗（副学長、医療栄養学科長、紀要委員会委員長）

④ 1.12.20(金)　17:15～18:45　HM201 教室

テーマ:「テキストマイニングについて」

講　師: 堀田　昇吾　（東が丘・立川看護学部　講師）

⑤ 2.3.19(木)　講演　16：00～17：30　H2511 教室（ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染拡大防止の為、延期。）

テーマ:「体験者から見た医療事故について」

講　師: 豊田　郁子（NPO 法人「架け橋」理事長）

２－６．学友会活動

1)スポーツ大会

学友会の全学行事である、スポーツ大会が 6 月 14 日(金)に、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催された。東が丘・立川看護学部、医療保健学部、千葉看護学部あわせて、学生 190 名が参加した。

2)大学祭（医愛祭）

全学行事である医愛祭が 11 月 3 日(土)・4 日(日)に世田谷キャンパスで開催され、本年は 2 日間で 1,270 名と昨年を上回る来場者数となった。

東が丘・立川看護学部からは、「身体の響きを聞き分けよう」と題して、白衣を着用写

真撮影をしたり、シェイクベイビー、小児モデル心拍聴診等を行いました。

３．入試状況

３－１．令和２年度入学者選抜状況（選抜試験は令和元年度に実施）

概　要

東が丘看護学部看護学科及び立川看護学部看護学科（東が丘・立川看護学部看護学科については、学部改組により募集停止。）、大学院看護学研究科の入学者選抜の概略は以下のとおりである。

３－１－１．東が丘看護学部看護学科及び立川看護学部看護学科

〇東が丘看護学部　※（　）は、昨年度の東が丘・立川看護学部看護学科　臨床看護学コースの実績、ただし定員は学部定員数

試験区分	試験日	定員Ⓐ		志願者数Ⓑ			受験者数Ⓒ			競争倍率 Ⓒ/Ⓐ		合格者数			入学予定者数		
指定校推薦入試	11月10日(日)	(40)	20	臨床	(18)	22	臨床	(18)	22	－	1.1	臨床	(18)	22	臨床	(18)	22
公募制推薦入試	11月10日(日)	(40)	20	臨床	(53)	40	臨床	(53)	40	－	2.0	臨床	(40)	36	臨床	(40)	36
センター試験利用入試 前期	1月18日(土) 19日(日)	(15)	7	臨床	(209)	184	臨床	(209)	184	－	26.3	臨床	(70)	62	臨床	(11)	2
一般入試　A日程	1月24日(金)	(30)	15	臨床	(162)	109	臨床	(161)	108	－	7.2	臨床	(37)	50	臨床	(10)	32
一般入試　B日程	2月4日(火)	(50)	25	臨床	(283)	217	臨床	(250)	177	－	7.1	臨床	(54)	57	臨床	(10)	15
一般入試　C日程	2月18日(火)	(20)	10	臨床	(88)	95	臨床	(80)	76	－	7.6	臨床	(16)	19	臨床	(15)	8
センター試験利用入試 後期	1月18日(土) 19日(日)	(5)	3	臨床	(8)	5	臨床	(8)	5	－	1.7	臨床	(5)	3	臨床	(2)	0
合計		(200)	100	臨床	(821)	672	臨床	(779)	612	－	6.1	臨床	(240)	249	臨床	(106)	115

〇立川看護学部　※（　）は、昨年度の東が丘・立川看護学部看護学科　災害看護学コースの実績。ただし定員は学部定員数

試験区分	試験日	定員Ⓐ		志願者数Ⓑ			受験者数Ⓒ			競争倍率 Ⓒ/Ⓐ		合格者数			入学予定者数		
指定校推薦入試	11月10日(日)	(40)	20	災害	(20)	19	災害	(20)	19	－	1.0	災害	(20)	19	災害	(20)	19
公募制推薦入試	11月10日(日)	(40)	20	災害	(55)	49	災害	(55)	49	－	2.5	災害	(41)	41	災害	(41)	41
センター試験利用入試 前期	1月18日(土) 19日(日)	(15)	7	災害	(99)	173	災害	(99)	173	－	24.7	災害	(41)	61	災害	(2)	2
一般入試　A日程	1月24日(金)	(30)	15	災害	(114)	145	災害	(111)	143	－	9.5	災害	(23)	43	災害	(10)	19
一般入試　B日程	2月4日(火)	(50)	25	災害	(157)	196	災害	(131)	164	－	6.6	災害	(50)	53	災害	(32)	21
一般入試　C日程	2月18日(火)	(20)	10	災害	(41)	69	災害	(34)	52	－	5.2	災害	(5)	17	災害	(7)	15
センター試験利用入試 後期	1月18日(土) 19日(日)	(5)	3	災害	(3)	5	災害	(3)	5	－	1.7	災害	(2)	3	災害	(1)	1
		(200)	100	災害	(489)	656	災害	(453)	605	－	6.1	災害	(182)	237	災害	(113)	118

○　推薦入試

１）指定校推薦入試

（１）対象

本学を第一志望する（専願）とし、下記①と②に該当する者

①令和２年３月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が３．８以上の者

（２）選抜方法

調査書・総合問題・面接を総合的に評価し選抜した

２）公募制推薦入試

（１）対象

本学を第一志望する（専願）とし、下記①と②に該当する者

①令和２年３月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が３．５以上の者

１）選抜方法

調査書・総合問題・面接を総合的に評価し選抜した

○　一般入試

１）一般入学試験　前期・後期

（１）試験科目

必須科目　英語（１００点）選択科目　国語総合【現代文のみ】、数学Ⅰ・数学Ａ、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から２科目選択（各１００点）

２）センター試験利用入学試験　前期・後期

（１）試験科目

必須科目　英語【リスニングを含む】（１５０点）

選択科目　国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学Ａ、生物、化学、生物基礎・化学基礎から２科目利用（３科目以上受験している場合は高得点のものを利用（各１００点）

３－１－２．大学院看護学研究科

・前期９月７日(土)及び後期１２月１４日（土）に実施しました看護学研究科の入学試験結果は、次のとおりです。

修士課程 コース(定員)	出願者数	受験者数	合格者数	備　考
高度実践看護コース （２０名程度）	３３名	３２名	２２名	
高度実践助産コース （１０名程度）	１９名	１８名	９名	内訳 助産師免許取得プログラム　９名 （１名辞退届提出あり） 助産師(有資格者)プログラム　０名
高度実践公衆衛生看護コース （若干名）	２名	２名	２名	
看護科学コース （若干名）	１名	１名	１名	
合計	５５名	５３名	３４名	
博士課程（２名）	1名	1名	1名	
看護学研究科 合計	５６名	５４名	３５名	

※いずれの値も前期及び後期の合算値になります。

○　選抜方法

［修士課程］

筆記試験、面接及び出願書類を総合して判定

１）筆記試験

（高度実践看護コース、高度実践助産コース、高度実践公衆衛生看護コース）

看護学に関する総合的な基礎知識を問う問題。

必修問題２問、選択問題３問から１問を選択。試験時間１２０分

（看護科学コース）

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問う問題。

また、一部の問題は、英語の能力を問う問題。合計３問。辞書持ち込み可。

２）面接試験

一人１５分程度

［博士課程］

学力試験・面接の結果が一定の基準に達した者から、学力試験・面接の結果及び出願書類を総合的に評価して判定

１）筆記試験

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問う問題。

また、一部の問題は、英語の能力を問う問題。合計３問。辞書持ち込み可。

２）面接試験

一人１５分程度

４．教職員名簿

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
	大学院看護学研究科長	草間　朋子	副学長/教授	22.4.1　採用
	東が丘･立川看護学部長	山西　文子	副学長/教授	25.4.1　採用
臨床看護学コース	看護基盤学	今井　秀樹	教授	22.4.1　採用
		酒井　一夫	教授	27.10.1 採用
		小野　孝二	教授	25.4.1　採用
		小宇田　智子	准教授	22.4.1　採用
		日髙　未希恵	助教	28.4.1　採用
	総合看護学	山西　文子	教授	25.4.1　採用
		岩本　郁子	准教授	24.4.1　採用
		浦中　桂一	講師	29.4.1　採用
		早坂　奈美	助教	22.4.1　採用
	基礎看護学	松山　友子	教授	22.4.1　採用
		高橋　智子	講師	25.4.1　採用
		久保田　貴博	助手	30.4.1　採用
		髙田　菜々子	助手	30.4.1　採用
		伊部　有美子	助手	30.8.1　採用
		吉田　貴恵子	助手	1.7.1　採用
	成人・老年看護学	竹内　朋子	准教授	25.4.1　採用
		松本　和史	准教授	27.4.1　採用
		原口　昌宏	講師	28.4.1　採用
		松田　謙一	講師	31.4.1　採用
		井本　由希子	助教	31.4.1　採用
		野田　恵美子	助手	31.4.1　採用
		岡村　美帆	助手	31.4.1　採用
	小児看護学	中島　美津子	教授	28.4.1　採用
		玄　順烈	准教授	26.4.1　採用
		山田　恵子	助教	30.4.1　採用
	母性看護学・助産学	齋藤　益子	教授	30.4.1　採用
		朝澤　恭子	准教授	26.4.1　採用
		平出　美栄子	准教授	28.4.1　採用
		加藤　江里子	講師	26.4.1　採用
		小嶋　奈都子	助教	22.4.1　採用
		加藤　知子	助教	26.4.1　採用

		篠原　枝里子	助教	29.4.1	採用
		杜　稀衣	助手	30.8.1	採用
	精神看護学	田中　留伊	教授	22.4.1	採用
		中村　裕美	講師	22.4.1	採用
		菅原　裕美	助教	31.4.1	採用
	地域看護学	佐藤　潤	准教授	22.4.1	採用
		駒田　真由子	助教	29.4.1	採用
		嶋谷　圭一	助教	31.4.1	採用
	その他	金子　あけみ	准教授	22.4.1	採用
災害看護学コース	看護基盤学	高木　晴良	准教授	26.4.1	採用
		堀田　昇吾	講師	25.7.1	採用
		今井　淳子	助教	30.4.1	採用
	基礎看護学	岩満　裕子	准教授	26.4.1	採用
		福島　芳子	講師	30.4.1	採用
		栗林　好子	助教	26.4.1	採用
		松山　妙子	助教	29.6.1	採用
		山田　泰子	助手	29.4.1	採用
	成人・老年看護学	福田　淑江	准教授	26.4.1	採用
		藤村　朗子	准教授	27.4.1	採用
		櫻井　敬子	講師	29.4.1	採用
		岩渕　起江	講師	24.4.1	採用
		折元　美雪	助教	28.4.1	採用
		三浦　由紀子	助教	28.4.1	採用
		苅田　明子	助教	29.4.1	採用
		大場　久美	助手	31.4.1	採用
	小児看護学	久保　恭子	教授	28.4.1	採用
		宍戸　路佳	講師	31.4.1	採用
		武田　智晴	助教	29.4.1	採用
	母性看護学	衣川　さえ子	教授	29.4.1	採用
		黒澤　範子	講師	29.4.1	採用
		吉田　亜希子	助教	27.4.1	採用
	精神看護学	村松　仁	教授	31.4.1	採用
		田野　将尊	講師	27.4.1	採用
		小川　賀惠	助手	31.4.1	採用
	在宅看護学	桜井　礼子	教授	27.4.1	採用

テイラー　栄子	講師	29.4.1	採用
小山　珠美	助教	27.4.1	採用
篠﨑　真弓	助教	30.4.1	採用

事務職員	役職	氏名
	部長	利光　重信
	副部長	中田　太一
	部長代理(立川担当)	内田　智明
	主任(東が丘担当)	齋藤　容子
	主任(大学院担当)	鎌田　りみ
	主任(大学院担当)	菊池　広訓
	主任(立川担当)	上山　淳
	職員	岡田　友理
	職員(立川担当)	細井　智世
	職員(立川担当)	大隈　瑠美
	職員	小宮　咲紀
	職員	島田　和雄
	図書館司書	町田　玲彦
	図書館司書	飯嶋　正敏
	図書館司書	加藤　亜樹
	図書館司書	栗原　真理
	図書館司書	長坂　由美
	図書館司書	宮崎　千晶
	図書館司書	伊藤　梓
	図書館司書	宮崎　千晶
	図書館司書	遠藤　一恵
	保健室・相談室担当	原田　直美
	保健室	戸谷　益子
	保健室	清水　容子

5. 委員会活動

自己点検・評価委員会

構成員

高木晴良（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、久保恭子、加藤江里子、小嶋奈都子、小山珠美、菊池広訓

活動内容

2019 年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、平成 30 年度の年報を編集・作成し、WEB ページからアクセスできるように公開した。

http://www.thcu.ac.jp/faculty/higashigaoka/pdf/index/higashigaoka-annual_h30.pdf

FD委員会

構成員

高木晴良（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、久保恭子、加藤江里子、小嶋奈都子、小山珠美、菊池広訓

3. 活動内容

以下のFD企画を企画・開催した。

4 月 18 日 「東が丘・立川看護学部について　～教員としての心得～」（草間　朋子副学長）

5 月 15 日 「実習評価の基本と実際」（竹内　朋子　先生）

8 月 30 日「東京医療保健大学紀要について」（小西　敏郎　医療栄養学科長、紀要委員会委員長）

12 月 20 日「テキストマイニングについて」（堀田　昇吾　先生）

3月 19 日 「体験者からみた医療事故について」（豊田　郁子　理事長 （NPO 法人「架け橋」））

（なお、3 月 19 日のFD企画は、Covid-19 の感染拡大防止のため延期となった）

看護学科カリキュラム検討委員会

臨床看護学コース

構成員

松山友子（委員長）、竹内朋子（副委員長）、山西文子（学部長）、今井秀樹、田中留伊

齋藤益子、佐藤　潤、中島美津子、利光重信（事務部長）、斎藤容子（事務員）

活動内容

本委員会は、本学部の教育の資質向上に向け、カリキュラムの充実及び教育環境の整備などに関する年間実施計画に沿い、以下の活動を行った。

1)　カリキュラムの運用について

H27 年度および留年生に適用する H26 年度・H24 年度カリキュラムは、教育計画に基づき予定通りに運用できた。また、2020 年度の学部の独立に向け、東が丘看護学部の 3 つのポリシー（アドミッション、ディプロマ、カリキュラム）とカリキュラムの特長を踏まえ、カリキュラムの一部修正案を文部

科学省に申請した。

2)　卒業認定および成績・進級等の学生の成績評価について

4 年次生の卒業及び1～3 年次生の進級の可否を判定するための資料を作成し、教授会に報告した。

3)　教育環境の整備（教材・教具）について

「看護学実習室・臨床検査学演習室関連物品一覧・配置図」を半期ごとに更新した。施設・設備の改善に関しては要望を事務部に提出した。今年度は昨年度の要望が反映され、視聴覚設備が整備された。

4)　履修案内・シラバスについて

Web シラバスへの移行に当たり、全学の「シラバス作成要領」にしたがい、東が丘看護学部のガイドラインを作成した。全シラバスがガイドラインどおりに作成されているかを委員会で確認したが、初回であるため課題については次年度以降に継続して検討することとした。

災害看護学コース

構成員

桜井礼子（委員長）、高木 晴良（副委員長）、岩満裕子、衣川さえ子、久保 恭子、村松仁、福田 淑江、内田智明（立川事務部長代理）、大隈 瑠美、上山 淳（事務）

活動内容

本委員会は、教育の質向上を目指し、災害看護学コースの特色あるカリキュラムの構築、国立病院機構立川キャンパスの教育環境の整備などの課題について、年間実施計画に沿い、以下の活動を行った。

1）カリキュラムの運用について

今年度は平成 27 年カリキュラムが中心の運用となったが、カリキュラムは予定通りに実施できたと考える。

2）成績・進級等の学生の成績評価について 1～3 年次生の進級、4 年次生の卒業の可否について、進級要件および卒業要件に従い資料を教授会に提示し、承認を得る手続きを行った。

3）教育環境の整備（教材・教具）について

立川キャンパスの教材および実習室の整備、および第 2 別館の実習室の仕様について検討を行った。また実習室の整備では、各領域の WG メンバーを中心として、物品収納等の検討と年 2 回の実習室整備を実施した。

４）学部申請に伴うカリキュラムの検討および現行のカリキュラム評価

学部申請のためのカリキュラム検討では、学部の教育目的として「地域から信頼される看護師の育成」を掲げ、これまでの災害看護学コースの特色を踏まえ、1 年次に災害看護学 I の科目を新設し、1 年次から災害看護学の系統的な学習と実践力を育成、さらに 4 年次には災害看護をテーマとした看護研究（卒業研究）を通し災害看護学を考究するカリキュラムとした。

また、現行のカリキュラムの評価を行い、指定規則の変更点などの情報を共有し、次年度か

らのカリキュラム改訂につなげる予定である。

実習検討委員会
臨床看護学コース
構成員
竹内朋子（委員長）、岩本郁子（副委員長）、酒井一夫、朝澤恭子、玄順烈、佐藤潤、高橋智子、中村裕美、松田謙一、加藤知子、菊池広訓（事務部）

本委員会は、東が丘・立川看護学部（臨床看護学コース）の看護学実習教育の質向上を目指し、年間計画に沿い、以下の活動を実施した。

1）看護学実習計画

2019 年度および 2020 年度の実習計画を策定した。また、2021 年度の実習日程を決定した。

2）看護学実習連携会議

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター看護部との共催で、実習指導者と大学教員が参加する会議を 4 回（うち 1 回は新型コロナウイルス感染症対策により資料会議）開催した。今年度は、医療安全に向けた看護学実習指導の連携について取り組み、実習指導者と大学教員の間で共通理解を得た。また、昨年度取り組んだ看護学実習指導における看護技術教育の連携に関する成果を、第 39 回 日本看護科学学会学術集会で公表した。

3）看護学実習施設に対する説明会

実習病院、老人保健施設、訪問看護ステーション等の実習担当者を招き、15 施設から 42 名が出席した。はじめに全体会として、本学部の実習教育への取り組みに関して副学長および実習検討委員会が説明し、次いで領域ごとの分科会として、実習指導に関する意見交換等を行なった。説明会・分科会共に好評であり、継続した開催を希望する意見が多かった。

4）看護技術経験表

2019 年度の 4 年次生 104 名を対象に、173 項目の看護技術の修得・経験状況を集計した。2018 年度より、到達度低水準項目（60%以上の学生が、卒業時到達レベルに達していない項目）に対する具体的な対策を看護学実習連携会議で討議し、教員と実習指導者が連携して積極的に取り組んできた。その結果、今年度は「到達度低水準項目ゼロ」を達成した。また、厚生労働省の看護基礎教育検討会の指針を受け、2020 年度の看護技術経験表を一部改訂した。

5）臨地実習要項

2020 年度の学部改組を受け、2020 年度の臨地実習要項を一部改訂した。

6）インシデント対策

看護学実習におけるインシデントについて、毎月の委員会で情報を共有すると共に、今年度の報告書を集計・整理し、対策を協議した。今年度報告されたインシデントには、患者に直接的な影響が生じたものはなかった。

災害看護学コース
構成員

久保恭子（委員長）、田野将尊（副委員長）、桜井礼子、藤村朗子、黒沢範子、福島芳子、宍戸路佳、堀田昇吾、松山妙子、内田智明　細井智世（事務部）

1） 看護学実習計画

2019年度および2020年度の実習計画を策定した。また、2021年度の実習日程を決定した。

2） 看護学実習施設に対する説明会

2019 年度 6 月 27 日（木）に開催した。実習施設から 40 名、大学側から 25 名の教員が参加した。前半、副学長より本学の実習教育への取り組みについて、後半は実習における学生の思考判断力を強化するための取り組みについて説明を行った。

3） 年2回の看護学実習連携会議の開催

災害医療センター、村山医療センター、共済立川病院の3病院の看護学実習連携会議ワーキンググループのメンバーと本学実習委員会委員のメンバーで看護学実習連携会議の日程、内容の調整を行い、年2回、実習指導者と大学教員が出席する会議を開催した(1回目参加者 60 名。2回目参加者 54 名)。今年度 1 回目のテーマは『看護学実習における課題とその解決方法～学習促進のための情報共有について』、2 回目のテーマは『看護学実習におけるカンファレンスの運営について』、メンバー間で討議した。次年度は施設側の働き改革による会議の縮小等もあり、実習連携会議を 2 回開催するうちの 1 回を看護学実習施設に対する説明会後に実施する予定である。年 1 回の看護学実習施設に対する説明会と年 2 回の看護学実習連携会議の実施により、実習環境の整備が行われ、指導者・教員との相互理解が深まり、学生への効果的な実習指導につながったと考える。

4） インシデント対策

看護学実習におけるインシデントについて毎月の委員会で教育的な観点から情報共有をすると共に、2019 度の報告書を集計・整理した。インシデント数は 8 件であり、患者の安全安楽に関するものが 3 件、個人情報保護に関するもの 4 件、物品破損・紛失が 1 件であった。報告されたインシデントは患者に直接的な影響がなかった。本年度より、新たなインシデント報告書のフォーマットを使用したが使用方法等に大きな問題はなかった。

5） 看護技術経験表

178 項目の看護技術の修得・経験状況を集計した。到達度低水準項目（60%未満）は 14 項目あり、前年度と比べ、到達度低水準項目は横ばいである。これらの項目は手術方法や術後管理などの診療や治療の変化から、学生が経験しにくい内容であり、今後、モデル人形等の演習物品の整備を行い、学内演習を強化していくこと等を確認した。本年度より、災害看護に関する看護技術の経験項目を 5 つ追加したが、これらの項目はすべて到達度 93%を超えていた。

6） 実習要項の修正

実習要項の見直しを行った。学生の身だしなみに関すること、学生の実習の積み重ねや課題を把握するために実習ポートフォリオの活用について検討した。

7） 実習における手指消毒の方法について

実習時に行っている手指消毒の方法を確認、見直を行った。今後の手指消毒の方法につい

て、主として病棟に設置されている手指消毒剤を使用することとした。

学生生活支援委員会
臨床看護学コース
構成員
田中留伊(委員長)、玄順烈(副委員長)、朝澤恭子、岩本郁子、加藤江里子、高橋智子、篠原枝里子、菅原裕美、戸谷益子、利光事務部長、岡田事務員
活動内容
1）健康管理
学生の健康状態の把握と感染症予防や拡大防止対策を重点項目として活動した。今年度も 1 年生の結核健診は、T-SPOT 検査を実施した。
2）学年担任・コンタクトグループ
1 年次生の合宿研修では「4 年後の自分」をテーマとしたグループ討議と発表会を企画・運営した。また、コンタクトグループは年 2 回のミーティングを実施した。学生が主体的に取り組む姿が見受けられるようになった。
3）学生生活実態調査
今年度は本部から依頼された内容も含めて、学生生活実態調査を 11 月に実施した。
4）学友会活動の支援
スポーツ大会や大学祭（医愛祭）等の全学行事に対応した。また、定例となった東京医療センターとの協同による、七夕飾りやダカーポの演奏によるコンサート、クリスマスツリーの展示では患者さんからも好評を得ている。
5）学生対応
学生の相談(学習に関すること、将来の進路に関すること等)や学業継続(休学・退学等)に関する事項について対応した。学生の生活実態を把握し、教育活動に活かす目的で 11 月に実施した。
災害看護学コース
構成員
村松　仁（委員長)、藤村朗子（副委員長）桜井礼子、岩満裕子、福島芳子、岩渕起江、篠崎真弓、清水容子（保健室)、内田智明（事務部)、大隈瑠美（事務部）
活動内容
1)健康管理
学生の健康管理（健康診断に関する企画運営、健康状態の把握、 感染症予防と拡大防止)を中心に活動した。
2)学年担任･コンタクトグループ
1年次生については、新入生合宿研修における学科研修において、学生の関係構築及び相互交流を目的に｢4年後の自分｣をテーマにしたグループ討議に関する企画運営を行った。

また、コンタクトグループミーティングは、担当教員及び学年間の関係構築と相互交流を目的に、5月と12月に開催した。グループ内での教員及び学生間における関係構築と相互交流が図られ、学生の満足度も高かった。また、各学年担任においては、担当学生の大学生活や学修等の相談業務などを行い、学生生活に関する支援を行った。

3)学生生活実態調査

学生生活の実態を把握し、よりよい教育活動につなげる目的で12月に実施した。災害看護学コースの回答率は93.1%であった。

4)サマーコンサート

8月に災害医療センターで、ダ・カーポの演奏によるサマーコンサートの企画運営、支援を災害医療センターと共同で行った。来場者も多く好評であった。

5)学友会活動・卒業関連事業の支援

スポーツ大会、大学祭(医愛祭)等の全学行事への支援、卒業アルバム委員、卒業を祝う会委員、同窓会委員等の選出と活動支援を行った。

6)災害訓練

統合実習と災害看護学Ⅰの授業の一環として、災害医療センターの災害訓練(9月と1月に実施)に参加した。9月は、統合実習の一環として災害看護学コース4年次生が患者役や搬送者役として参加した。1月は、災害看護学Ⅰの授業の一環として災害看護学コース2年次生が参加し、合わせて1年生がボランティアとして参加した。

国家試験対策委員会

臨床看護学コース

構成員

松本和史（委員長），小宇田智子（副委員長），玄順烈，浦中桂一，高橋智子，中村裕美，嶋谷圭一，井本由希子，小嶋奈都子，日髙未希恵，利光重信，中田太一，齋藤容子

活動内容

委員会の目標を「看護師国家試験全員合格」と「国家試験に対する学校文化の構築」とし，1年次生から 4 年次生まで計画的に対策を行った．

1） 1-3 年次生への対策

低学年から国試への動機づけを図り，学習を強化するために，各学年年間 1-2 回の国試ガイダンス，1-2 回の業者模擬試験を実施した．また，学生の希望に合わせたテーマで視聴覚教材や教員による国試対策講座を実施した．図書館に解剖生理や病態生理に関連する視聴覚教材や図書を配架し、学習環境の改善を図った．

2） 4 年次生への対策

年間 5 回のガイダンス，5 回の業者模擬試験を実施した．学生への個別の支援は，ゼミ単位で行った．委員会ではゼミ間の情報交換を実施し支援について検討した．特に，模擬試験の結果により学習強化が必要な学生を選定し，ゼミと連携しながら支援を強化した．また，学

習強化学生には，夏季休暇に臨時業者模擬試験を実施した．ゼミ内での国試対策を推進するために，各ゼミに国試対策用の参考書や問題集を 5 冊ずつ配布した．さらに，7 月から 1 月に教員による国試対策講座を 19 コマ行った．9 割近くの 4 年次生が出席し，満足度の高い取り組みであった．

災害看護学コース

構成員

岩満裕子（委員長）、櫻井敬子（副委員長）、高木晴良、テイラー栄子、田野将尊、栗林好子、吉田亜希子、武田智晴、今井淳子、内田智明、上山淳

活動内容

委員会の目標は、継続して「看護師国家試験全員合格」とし以下の活動を行った。

1）国試ガイダンス、業者模擬試験計画の立案・実施

1～4 年生に対してのガイダンスは、各学年担当者がこれまでの傾向から課題事項を抽出後、内容を再検討し実施した。4 年生にはガイダンス、業者模擬試験を各 6 回実施した。すべてのガイダンスで国試対策講義を含めた問題を提示し実施する時間を設けた。

2）4 年次生

・ 模試結果が合格ライン未達成学生に対する支援

模試結果は、所属するゼミに周知しゼミ対応とした。12 月の模試結果で学習強化が必要な学生を委員会で検討し、ゼミで対応困難学生は委員会で対応した。

・ 教員による国試対策講座の実施

各教員の協力をえて、4年次生全員を対象とし 12 月～1 月にかけ 14 コマ実施した。

3）既卒者

委員会で、模試及び講義資料等の送付、大学に来られる既卒者には個別指導を実施した。

就職支援委員会

臨床看護学コース

構成員

佐藤潤（委員長）平出美栄子（副委員長）、浦中桂一、原口昌宏、駒田真由子、利光重信（事務部）、岡田友理（事務部）

活動内容

本委員会は学生の就職・進学に関する支援を充実させるため、以下の活動を行った。

1）就職支援活動

就職支援活動として、就職ガイダンス、外部講師を招いての就職支援講座（インターンシップ対策講座、面接対策講座、履歴書・自己紹介書の書き方講座、小論文対策講座）、国立病院機構就職説明会、卒業生との懇談会を実施した。また、4 年生の就職活動の実態を把握する目的で今年度より新たに就職活動実態調査を行った。

2）奨学金貸与支援

奨学金支援としては、東京医療センターおよび災害医療センターの奨学金について情報提供の支援を実施した。
災害看護学コース
構成員：福田淑江（委員長）、黒澤範子（副委員長）、福島芳子、櫻井敬子、堀田昇吾、三浦由紀子、苅田明子、内田智明（事務部）、細井智世（事務部）
活動内容
学生の就職・進学に関する支援を目的として、以下の活動を実施した。
・就職支援活動として、学生の就職に向けてのスケジュールに対応して、就職ガイダンス、就職支援講座（インターンシップ対策講座、面接対策講座、履歴書・自己紹介書書き方講座、小論文講座〔基礎編・実践編〕、メイク講座）を実施した。採用試験の時期が早まっていることから、学生のニーズに応え開催時期を早めた。
・就職先を決めていく情報取集の機会として国立病院機構就職説明会、卒業生との懇談会を実施した。卒業生との懇談会は 2 回目となり、16 施設 17 名の卒業生を招聘し、体育館のオープンスペースで開催した。3 年次生の満足感も高く、さらに充実した内容としたい。
・就職後、早期に退職する卒業生も見受けられることから、次年度については職業人としての成長の支援の一つとして卒業生を母校に招き、ホームカミングを企画したい。

図書委員会
構成員
酒井　一夫（委員長）、村松　仁(副委員長）、テイラー　栄子、松田　謙一、山田　恵子、図書館　町田　玲彦、加藤　亜樹、伊藤　梓、事務部　菊池　広訓
活動内容
利用者、特に学生の利便性の一層の向上を念頭に活動した。
1）学生の利用満足度向上に資するため、関連委員会（カリキュラム委員会、実習検討委員会、学生生活支援委員会、および国家試験対策委員会）の意向調査を行い、希望図書を図書委員会経費にて購入した。
2）海外研修報告書の展示等、学生の活動に資する情報の提供に努めた。
3）東が丘図書館および立川図書館で計 94 件の寄贈図書と 28 タイトルの寄贈雑誌を受け入れた。
4）独立行政法人　国際協力機構（JICA）の広報誌を受け入れることとした。全学的な方針である「国際展開」に貢献するものである。
5）図書の除籍・廃棄
東が丘図書館および立川図書館における除籍・廃棄の手順を定め、これに沿って除籍・廃棄を行い、新規導入図書のための配架スペースの確保に努めた。
6）月次報告の作成
東が丘、立川両図書館の利用実績および各種データベースへのアクセス状況を月次報告としてとりまとめた。図書館の運用状況を把握し、運用の効率化や利用者へのサービス向上につなげる。

7) ウェブ会議の実施
2019 年度は全ての委員会会議をウェブ会議として実施し、効率的な委員会運営を行った。

1. 広報・情報ネットワーク委員会
2. 構成員
小野孝二（委員長）、松本和史（副委員長）、田野将尊、原口昌宏、宍戸路佳、嶋谷圭一、折元美雪、早坂奈美、
掛川裕史（入試広報部）、西村聡明（入試広報部）、菊池広訓（事務部）
3. 活動内容
- 平成 30 年度大学案内および大学院案内の作成、活用を行った。
- 高校教員対象大学説明会（ベルサール八重洲）個別相談会を開催
- 全学部対象ミニオープンキャンパス～AO・公募制対策～（五反田）個別相談会と学生発表を開催
- オープンキャンパス（船橋・世田谷・東が丘・五反田・立川）個別相談会を開催
- 高校教員対象入試説明会（立川）個別相談会を開催
- 東が丘・立川看護学部見学会（東京医療センター・災害医療センター）個別相談会・病院見学を開催
- 高校教員対象入試説明会（立川）を開催
- 全学部対象入試説明会～一般入試教科別対策講座～個別相談会を開催
- 本学ホームページの教員データベースを新規登録・更新し、東が丘・立川看護学部独立に伴い、東が丘看護学部、立川看護学部それぞれホームページを開設した。
- 学報「こころ」を 2 回発行し、教育活動や学生支援の PR 活動を行った。
- 自由ヶ丘学園高等学校、京華女子中学高等学校、都立南平高等学校、都立豊多摩高等学校にて出張講義を実施した。

看護学研究科カリキュラム委員会・学生支援委員会
構成員
山西文子（委員長）、今井秀樹（副委員長）、斉藤益子、平出美栄子、佐藤潤、岩本郁子、中村裕美、利光(事務部長)、菊池事務員、鎌田事務員
活動内容
看護学研究科「高度実践看護コース」、「高度実践助産コース」、「高度実践公衆衛生看護コース」「看護科学コース」、「博士課程」に関する教育計画、実施、評価等に係る質向上のための検討を行った。各コースのカリキュラムや教育・研究に関する取り組みとその評価、単位取得状況等を確認し、研究科教授会への報告及び学籍異動に係る審議等の案件の決定を行った。
他に「高度実践看護コース」に関する臨床教授会は、3 箇所の各実習施設で年 2 回実施し、

より良い実習をするための「実習要項の検討」および実習終了後の評価、手順書の評価等を行ってきた。また、学内においては、臨床実習指導に関する指導者間の指導の統一化を図るため、情報交換を含めて実習指導担当者会を毎月 1 回、年間 4 回実施した。

9 期生に対し、研修管理委員会を開催し、21 区分 38 特定行為の特定行為研修修了基準を満たしていることを審査し、12 名全員の修了が認定された。

「高度実践助産コース」は助産師国家試験合格 100%を目指し、模擬試験や個別指導を実施した。分娩件数が一人 10 例以上になるよう実習施設を二か所(埼玉病院、東邦大学病院)増やし、前年度より件数は増えてきた。

「高度実践公衆衛生看護コース」については、2 名の院生が入学し、カリキュラムがスタートし、「感染症マネージメント」の科目は公開で他のコースの院生も出席し、学長の講義が開催された。年 2 回地域住民を対象に実施していた「まちの保健室」をカリキュラムに入れることとして計画することになった。

博士課程においては、本年度 3 回生の修了生を輩出するため、研究課題毎に外部専門家による審査委員を 1 つの課題に対して複数依頼し、学内の審査委員とともに審査会を開催し評価を実施、修了生 3 人が認定された。博士論文および修士論文の「不合格者」の取り扱い(申し合わせ)の検討を行った。

学生支援委員会においては、大学院生の在籍に関する事項、就職、進学の面接指導などを実施した。就職率100%。「高度実践看護コース」の就職先の医師、看護部長、本学修了生による「施設説明会」を開催し、修了生の活躍ぶりの一旦も紹介され有効であった。

（臨床看護学コース）

【看護基盤学】

1. 教育方針

看護基盤学領域は、将来看護師となる人として必要な教養、知識のみならず専門にこだわらない広い視野に立った物の見方を学ぶために重要な分野の教育を担当している。同領域に所属する教員の出身学科は看護学科のみならず多岐に及び、その長所を生かして人間の生命を自然科学的、倫理学的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じる能力を有する看護師育成を目指す。さらに社会医学分野の講義や臨床検査学演習等を通じて、スキルミックスやチーム医療の重要性を教授することにも力点を置いている。

2. 科目名

1） 自然科学の基礎　１年次前期

小宇田智子、高木晴良、小野孝二

〈教育内容〉

専門基礎分野， 専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物，化学， 物理， 数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした. 学生によって各内容の理解度に大きな差があるため， 基礎的な内容について， 動画やイラスト等を利用して理解しやすいように工夫した． また， 学生の個別の質問に応じ， 全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した.

次年度も学生間で知識の差があると予想される． そのため， 学生には予習および復習を促し， 授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し， 高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す.

2）自然科学の基礎（災害看護学コース）　１年次前期

小宇田智子、高木晴良、小野孝二

〈教育内容〉

専門基礎分野， 専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物，化学， 物理， 数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした. 学生によって各内容の理解度に大きな差があるため， 基礎的な内容について， 動画やイラスト等を利用して理解しやすいように工夫した． また， 学生の個別の質問に応じ， 全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した.

次年度も学生間で知識の差があると予想される． そのため， 学生には予習および復習を促し， 授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し， 高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す.

3） 臨床検査学演習　２年次前期

酒井 一夫、今井 秀樹、小野孝二、小宇田 智子、日高 未希恵、木下 貴之、伊東 丈夫

〈教育内容〉

診断・治療の基礎として活用されている臨床検査の原理を理解し、意義を学ぶことを目

的として演習を実施した。組織学検査、心電図、血液検査、尿検査、染色体検査、放射線検査の各項目につき、試料の観察や測定を通して、その基本原理を学ぶとともに、解剖生理と病態に関する理解を深めた。東京医療センターの協力を得て、実際に病院において臨床検査がどのように実施されているかの見学も実施した。この病院見学が学生たちの印象に残っているように見受けられた。

次年度は、病院見学と、実験室での演習をより関連付けるような工夫を凝らしたい。

4) 臨床薬理学演習 2年次生後期

小宇田智子、矢田部恵

〈教育内容〉

1年次生で得た薬理学の知識をもとに，治療対象となる患者の状況（年齢，性別，生理的状態など）による薬物動態の知識，作用と薬効について理解させることを目標とした．主に，臨床現場で使用されている薬物の使用目的，作用機序，有害作用・禁忌などについて，随時，解剖生理学や疾病の成立ちの知識を確認しながら概説した．

次年度は，臨床的な投与時の看護のポイントなどについても取扱い，より臨床に近い形での教育を目指す．

5) 看護研究の基礎　3年次　前期

酒井一夫、今井秀樹、小野孝二、小宇田智子、佐藤潤

〈教育内容〉

エビデンスに基づく看護に資する看護研究を実施する素地を形成することを目標に講義を実施した。看護学における研究の意義、研究を開始するにあたっての基礎となる情報の集め方から始め、研究手法の分類と進め方、倫理的配慮、研究のまとめ方にいたるまでの一連のプロセスについて概要を講義した。

次年度は、より具体的な研究(例えば卒業研究)を題材として取り上げる等の工夫をし、より具体的な事例に即した講義を目指したい。

6) 実用医療英語　3年次　前期

酒井一夫、今井秀樹

〈教育内容〉

医学の現場に近い教材を選び、講義を実施した。講義にあたっては、教科書(視覚教材)に加え、聴覚教材も活用しつつ、学生が自ら参加できる工夫を施し、関連専門用語・フレーズの習得に努めた。

次年度は、学生側からの発表の機会を増やす等の工夫を行い、全体としての英語コミュニケーションの能力向上に資するような講義を目指したい。

7) 公衆衛生学 2年次生後期

今井秀樹、日髙未希恵、堀田昇吾

〈教育内容〉

単なる国家試験対策ではなく、ヒト集団の健康像は様々な環境因子から影響を受けな

がら具現化されること、また，ヒトの生活はヒトを含んだ生態系を改変させて行くことを理解させることを目標とした。特に「環境」とはヒトあっての「環境」であり，ヒトの健康に影響を与えてこそ「環境問題」が「環境問題」たり得ることをわからせるために，環境保健学的問題については多くの時間を割き最新のデータを踏まえながら概説した。来年度も内容のアップデートを行う。

8）英語論文の購読　3 年次生前期

酒井一彦、今井秀樹

〈教育内容〉

英語で書かれた原著論文を独力で読めるようにすることを目標とした。医学英語読解のためのテキストを採用したが、例年通り学生にとっては英語の授業として 1 年間のブランクがあったこともあって難解な内容であると認識されたようである。

次年度は、より学生の能力に即した内容を教授できるように工夫する。

9）　英語論文のクリティーク　4 年次　前期

酒井一夫　各領域担当教員

〈教育内容〉

英語原著論文の検索法を示し、各学生が興味のある英語原著論文を選定した。論文の内容は、各領域における卒業研究に関連のあるものとした。次いで、英語論文の構造、独特の言葉遣い等について解説したのち、選定した論文を精読し、発表と討論を行った。指定された英語論文を精読し、卒業研究グループの中で発表と討論を行った。

来年度は、学生の関わりをさらに促進する工夫をしたい。

【総合看護学領域】

1. 教育方針

アクティブラーニングの導入科目を積極的に増やし、本学のアクションプランの目標 100%達成に向かって領域担当の科目は努力する。学生には自ら考える、考えさせる対応を工夫し、時々共有する。また、出来るだけ現実に近い形で知識の統合、判断の根拠、思考のプロセスを繰り返し、技術の実施、評価というPDCAサイクルを廻せるように支援する。また、チームの一員としてのセルフマネジメントの重要性も再確認する機会であり、臨地実習最後の纏めである。臨床への第一歩がスムーズに踏み出せるように 4 年間の纏めでもあり、社会への橋渡し的な位置づけである。学生には、実習病院の一つの病棟の全ての媒体を用い、必要な情報を主体的に収集し、計画し、実践し、評価していくプロセスを体験し、その重要性・大切さを認識させたい。

2. 科目名

1）看護倫理　1 年次後期

岩本郁子

〈教育内容〉

本科目は看護実践における倫理の重要性、倫理的問題の解決方法を理解し，看護の対象の人権擁護の視点から，看護師としての責務を追究する姿勢の育成を目的としている。

実習経験が少ない 1 学年後期の学生が自分の問題としてイメージできるよう毎回の授業で，倫理的判断が必要な事例を配布し，その事例の倫理的問題をどのようにとらえ判断するかについて記載する小課題レポートの時間を設定した。また，最新の医療倫理に関するニュースの提示、学生が臨地実習で使用する「実習要項」を教材として取り上げ，倫理的問題に対する関心を高めるよう工夫した。テキストは自己学習に活用できるよう事例の多いものを選択している。看護場面における倫理的問題の分析と対処について検討するグループワークを設定している。看護倫理の事例を提示し，小西の 4 ステップモデルの枠組みシートで個人ワークをし、そのシートをもとに次の講義時間に、3 名 1 組でグループワークをし、部分的な発表とコメントを行った。小課題レポートを活用したディスカッションの設定が次年度の課題である。

2）看護理論　2 年次後期

岩本郁子

〈教育内容〉

看護学の基礎となる看護理論の意義を理解し，主な看護理論の特徴と実践への活用について考察し看護の奥深さ、面白さに関心を持ち，看護実践への活用の試みを行えるようにすることが講義の目的である。10 名の看護理論家と 4 つの中範囲理論についてその理論の特徴と看護実践における有効性について取り上げた。授業開始時に毎回、看護理論の機能要素（人間、環境、健康、看護）等に関する学生の考えを記載する時間を 10 分程度確保した。授業最終日に記載したものを学生に返却し，自らの看護観、その根底にある看護理論に興味が持てるよう工夫した。必要時記載内容について次の講義でフィードバックした。

本科目は 2 年次後期の講義であり，12 月に老年看護学実習が設定されているため、実習前に講義を設定し、 実習での理論の活用を課題レポートとし、評価の対象とした。自己の看護実践を看護理論を活用して分析しており期待以上のレポート内容であった。来年度の課題は取り上げる理論家を学生のレディネス、活用性等を考慮し再考することである。

3）政策医療論　2 年次後期

山西文子、桑島昭文、渡辺真俊、武田純三

〈教育内容〉

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、変化の激しい医療ニーズに答えていくための医療者の役割を考える。また、我が国において全国的に国立病院機構が担っている政策医療について、民間医療では担えない国としての不採算医療、国として責任を担う医療等についての認識を深め、今後の医療の在り方について考え方や対応を広く捉え、専門職業人としての考えや役割などを明確にする。日本の医療提供体制の変化、政策医療ネットワークによって展開する医療の実際、現代医療における諸問題などを講義により学び、初めて知る我が国の医療の実態を数字で分析的に学び、安全・安心な医療の提供体制が超高齢化社会によって医療費が高騰し、脅かされる状況も生じていることも理解し、どのような社会が良いのか、医療がどうあれば良いかを個人的に

も考えをしっかり持つことを狙って、発表し、ポイントをつかむよう意見交換した。

4) 医療安全学 3 年次後期

山西文子、岩本郁子、堀田昇吾

〈教育内容〉

医療安全の基本的な考え方を理解し、医療における安全性の確保に向けた看護職の役割について学習することを目的としている。医療安全に関する社会的関心は高く、国、医療機関レベルで様々な取り組みが実施されている。それらの取り組みを理解した上で、より安全な看護を提供するための看護職のあり方、自己のあり方を追究する姿勢の育成をねらいとしている。医療現場の日常の中でどのようにして医療事故が発生するのか、最新のデータや事例を活用して授業を構成している。医療機関での医療安全の取り組みについては実践例を入れて 1 コマ授業をしている。また、授業ごとに実習での体験の記述や事例についての考え方を問うレポートを課し、2 年次生までの実習体験を想起しながら医療安全について考察できるようにしている。また、放射線による被ばく防止対策や安全性の視点を身につけるよう一コマ導入した。

5) 看護管理学 3 年次後期

山西文子

〈教育内容〉

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、医療ニーズに応えていくための医療者の役割を考え、また、日本において国として全国的に医療展開している国立病院機構の医療の現状や組織的な政策医療ネットワークのあり方の現状の特徴と課題を理解し、今後の我が国での医療のあり方はどうあれば良いか、専門職業人として考えを明確にし、このような状況下での看護職の役割はどのようにあれば良いか思料する。

そのため医学・医療の変遷および日本の医療・看護の動向を講義し、変化が激しい医療提供体制の特徴や課題を明確に認識するように、現実的にイメージが出来るよう実際の施設の例を挙げながら動機づけしてきた。自己の考えをレポートとして提出して貰った が、4年生としてしっかりした考えを持っている学生も居ることが解った。総合看護学実習の導入的な内容で、スムーズに実際に繋がった。

6) チーム医療とスキルミックス 4 年次前期

山西文子、大島久二、長田惠子、新木一弘、磯部 陽、谷地 豊

〈教育内容〉

多職種がチーム医療の現状と課題をどのように捉えているか、また、チーム医療の実践報告を下にスキルミックス展開のために自分たちはどのように実践するのかを学び、実際的な各職種間の役割の違いを理解し、看護職としての役割を果たせるようになることが狙いである。そのため、一施設の病院長がチーム医療をどのように捉えているか、施設長としての方針・考え方を講義し、各医療職種が何を望み実践しているのかを話して貰った。また、副院長 3 人の立場からの考え方、他に「感染管理」「医療安全管理」「地域連携」「病院管理・運営に関する実際」「薬剤師・臨床検査技師・放射線技師等メディカルスタッフの役割」など役割の違いを明確にし、チーム医療についての理解を深めていけるように幅広く具体的に実践報告を聞き、その中て理解を深めた。

7）NP 論（選択科目） 4 年次前期

草間朋子、山西文子

〈教育内容〉

本学大学院においては、高度実践看護（NP）コースを開設しており、NP に関心を持っている学部学生が多いことから開設した科目である。1 学年の殆どが本科目を選択し、授業にも積極的に参加した。前半は我が国における NP 教育の実態及び世界各国における NP 教育・役割・活動の実際について概要を講義し、その後は我が国において大学院 NP コースを修了し現場で活躍している NP の方々に活動の実際を話して貰い、後半の 30 分の時間を質疑応答の時間とした。毎回クラス全員が発言し積極的参加型の授業にした。本授業では、クリティカル NP、プライマリ NP、麻酔 NP 等、活動の場もバラエティに富み、看護師としての活動の実際がとても興味深く、最後まで充実感を味わえた。関心が高い学生が選択し、入学して以来このような授業は始めてである。将来はNPになりたいと希望する学生も数名いた。良い反応が多く聞かれた。また、講師であるNPもこの機会を通して自分の実戦を振り返り、整理することの重要性を学んでいる。

8）看護政策論（選択科目） 4年次前期

草間朋子、山西文子

〈教育内容〉

看護行政等に関心の高い学生の選択者は1名のみであり開講しなかった。

2人の国会議員による基礎的な知識と実際の政策決定過程に携わった実践編の講義を拝聴した。大学院生も特別に参加し、活発な質疑が交わされた。

9）看護学統合実習 4 年次前期

山西文子 岩本郁子

〈教育内容〉

本実習は、4 年次までの全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。看護実践能力の向上、看護を統合的にマネジメントするための基礎的能力の育成，自己コントロールと自己開発への課題の明確化を目的としている。

実習は学内実習と臨地実習からなり、学内実習では 4 月～7 月にレポート作成・プレゼンテーション，看護技術演習を計画実施し、臨地実習は 6 施設で 7 月～8 月に実施した。臨地実習は「日勤看護師同行実習」「複数患者受け持ち実習」「看護マネジメント実習」「チームリーダー実習」「夜間実習」から構成し，チームの一員として病棟カンファレンスにおける問題提示も実践した。実習施設の事前訪問日を設定し，施設の見学、看護マネジメント，看護の特徴についての説明を受け，事前学習の効果を図り，スムーズな臨地実習への移行を促した。今年度は 1 施設について施設内の宿舎宿泊が可能となり学習環境の整備を図ることができた。来年度は 8 日間の臨地実習期間となるため、実習目標達成に向け、学内実習の充実と実習前の臨床側との十分な調整が課題である。

【基礎看護学領域】

1．教育方針

本領域においては、看護に関する考え方やその変遷についての理解を踏まえたうえで、看護実

践能力の基盤となる看護技術力や判断力、問題解決力を養うことをめざし、講義・演習・実習を展開する。具体的には、基礎看護学領域の各科目の教授内容を関連付けながら、人間やその生活の特徴を理解し、統合体としての人間に関する情報を的確に収集する力、その情報を分析・判断し看護上の問題や課題を見極める力、一つひとつの看護技術がもつ科学性や安全性、安楽性や倫理性を追求しつつ対象の個別性に応じた看護技術を提供する力、常に自らの看護技術やその提供過程を評価し、「何故そうするのか」「何が最善か」を自問自答していける力の育成をめざす。また、看護学の学習の導入となる領域として、学生が看護の奥深さや楽しさに触れると同時に、専門的な学習への動機づけとなるような授業展開を探求していきたいと考えている。

2. 科目名

1） 看護学概論 :1 年次前期

松山友子

＜教育内容＞

本授業は、看護および看護に含まれる基本概念（人間・環境・健康）について理解し、看護の歴史的変遷を踏まえて今日的課題や展望を考察するとともに、学生自身が今後の看護学の学習に向けた自己の課題を明確にすることを目的に授業を展開した。「看護とは何か」という問いに対し、看護実践の記録映像から看護を考えることを導入とし、ヘンダーソンの理論や ICN の定義およびその発展から、看護に対する理解が深められるように教授した。看護の対象となる人間やその生活、看護の目標となる健康については、時代とともに移り変わる人々の意識も含めて理解できるような内容とした。また、看護活動と看護師の役割については、記録映像をもとにグループで検討・発表を行った。さらに、今日に至るまでの看護の変遷を振り返り、これからの時代の中で看護職を目指す自らの課題をレポートとして課した。毎回の授業では、自らの考えをまとめ、発表する時間をとった。学生からは意見を述べることは難しいが、他の学生の意見を聞くことは勉強になるとの声が聞かれた。

次年度も、配付資料や文献を読み込み、自らの意見を述べることを課題として継続したい。

2） 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断）:1 年次前期

松山友子、髙橋智子、伊部有美子、久保田貴博、髙田菜々子

＜教育内容＞

看護技術の基本的な成り立ち及び人間の生活の特徴に関する理解に基づき、様々な状況にある人間の生活過程を整えるために必要な看護技術を学ぶことを目的として授業を展開した。

講義では、人間を対象とする看護技術の特徴を理解し、安全と倫理に配慮しつつ科学的根拠に基づく看護技術を提供する意義や看護職が専門的な視点から人間の生活過程を整える意義を教授した。また、看護技術に関する基本的な考え方を踏まえ、看護場面に共通する技術（感染予防、ボディメカニクス）や人間の生活過程を整えるために必要な基礎的な看護技術（療養環境の調整技術・活動・休息・安全・安楽・衣生活・排泄・食事を整える技術）について、体験学習を踏まえた講義やグループワーク、演習を実施した。演習においては、各看護技術の典型事例の援助過程を通し、技術の原理・原則を理解して実施することに加え、専門的視点による観察、安全・安楽への配慮、患者への倫理的配慮を具体的な行動レベルで理解できることをめざした。

次年度も、演習内容・方法の評価・見直しを行い、臨地実習における実践を想定した看護技術の自己学習の促進を継続課題としたい。

3） 看護実践技術論Ⅱ（治療、処置における援助技術と判断）:1 年次後期

松山友子、髙橋智子、伊部有美子、久保田貴博、髙田菜々子、吉田貴恵子

＜教育内容＞

人間の健康および医療に関する理解を基盤として、看護職による専門的な診療の補助の意義と方法および看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について学習することを目的に授業を展開した。

本授業では、無菌操作、与薬、注射、静脈血採血の技術、排泄機能に障害がある患者の援助（浣腸、膀胱留置カテーテル）を取上げ、これらの技術の中核となる「安全」の確保に向けて原則を遵守する重要性を強調した。特に演習においては、侵襲的な看護技術を安全に実施するための解剖学的な根拠や安全な看護技術の提供を支える看護師の倫理性を問い、学生がその重要性を考えながら技術を実施できるようにした。また、看護技術の習得には原則を踏まえた反復練習が必要となるため、事例課題を提示すると共に学生が自己練習できるように物品を準備するなど学習環境を整えた。これにより、学生は計画的・主体的に技術の学習に取り組むことができた。

次年度も、安全確保のための原則、解剖学的な根拠、看護師の倫理性を強調すると共に、学生が主体的に学習できるように指導方法を工夫したい。

4） 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合）:1 年次後期

髙橋智子、松山友子、伊部有美子、久保田貴博、髙田菜々子、吉田貴恵子

〈教育内容〉

看護実践において対象の日常生活に関わるニーズを判断し、対象の個別性に応じ、さまざまな看護技術を統合・応用・創造し、最善の看護を実践する意義と方法を学習することを目的として授業を展開した。

清潔の援助技術を例に対象の個別性に合わせた援助の必要性と方法の判断、看護計画の立案・実施・評価の重要性について教授した。演習では、これまでに学習した看護技術の統合を意図し、点滴中の患者の清潔援助に関する計画を立案し、実施・評価を行った。今年度はより実践を意識し、観察項目に関する評価のポイントを具体的に提示するように工夫することで、質の高い評価に繋がった。また学生は、最善の看護を提供するための過程が分かり、99％の学生が日常生活援助展開実習に役だったと評価していた。さらに昨年同様、臨場感ある演習をねらいとして開発した刺入部の漏れを可視化できるモデル教材を用いることで学生からは、「緊張感が持てた」、「点滴部位に注意を向けて学習できた」という意見が多く聞かれた。

次年度も、教材や指導方法を工夫し、学生が対象の個別性に合った援助を考え実施できるよう検討したい。

5） ヘルスアセスメント :1 年次前期

髙橋智子、松山友子、伊部有美子、久保田貴博、髙田菜々子

〈教育内容〉

対象者の健康問題を把握するために必要な観察やコミュニケーションの技術を基盤として、人間の生活および健康を系統的かつ包括的に捉える方法を検討し、観察や看護技術を提供するために必要な基礎的知識・技術・態度について学ぶことを目的に授業を展開した。

講義では、ディスカッションを多く取り入れ、観察やコミュニケーションの重要性、バイタルサインの測定および報告方法について、解剖生理等の観察に必要な基礎知識に関する事前学習課題と結びつけながら教授した。また、今年度より系統的観察の視点についてプレゼンテーションを実施することによって、学生は学びを深められたと評価していた。演習では、初学者には操作が難しい血圧測定の技術について、教員がデモンストレーションを実施し、手技の原理・原則を丁寧に演示・説明するとともに自作の DVD を用いて復習ができるように学習環境を整えた。また、SBAR を用いた報告を取り入れることでアセスメントの視点の強化に繋がった。

次年度は、原則を遵守したバイタルサイン測定および報告の技術習得、患者の個別性に応じたコミュニケーションの充実を継続課題とする。

6） フィジカルアセスメント :1 年次後期

髙橋智子、浦中桂一、松山友子、 伊部有美子、久保田貴博、髙田菜々子、吉田貴恵子

〈教育内容〉

人体の構造と機能の理解を基盤として、フィジカルイグザミネーションによる情報収集方法、分析・判断、報告内容について検討し、自律的・専門的な判断の重要性および看護技術の提供に必要な基本的知識・技術・態度について学ぶことを目的に授業を展開した。

本授業では、フィジカルアセスメントの基本技術・知識、解剖生理や器官系統別アセスメントの視点について事前学習を課した。講義の段階から事例を用いたディスカッションを行うことで、器官系統別のアセスメントの視点の強化や SBAR での報告内容の強化を図った。また、昨年度同様、高度実践看護コースの大学院生（TA）による「心音の聴取」に関する講義・演習を取り入れ、多様なモデルやシミュレーターを用いることによって、学生の主体的な学習の動機付けとなった。さらに、今年度は実践場面を想定した事例患者へのバイタルサインの測定およびフィジカルイグザミネーションの演習を強化し、それに対する実施・評価のディスカッションを取り入れたことにより、学生の理解を深めることができた。

次年度もアセスメント能力の強化を目指し、演習内容や記録用紙の充実を継続課題とする。

7） 看護過程と看護方法論 :1 年次後期

松山友子、 髙橋智子、 伊部有美子、 久保田貴博、 髙田菜々子、吉田貴恵子

〈教育内容〉

看護過程は、看護の対象となる人々の個別性や状況に応じ、科学的に看護を実践するための方法であることを踏まえ、本授業は「看護過程の概要とその活用の意義」「看護過程の展開方法」「看護記録」「質の高い看護の提供に向けた看護過程の活用の現状と課題」で構成した。具体的な「看護過程の展開方法」については、看護過程の 5 段階を、さらに 11 のステップに分け、ステップごとに「事例展開の課題（個人課題）」→「課題のサンプル例の提示と解説・グループ検討」という流れで講義・演習を行った。今年度は、問題解決型学習の成果を上げるた

め、事前課題にワークシートを新たに加え、各ステップの新規の知識を補った上で事例課題を実施し、疑問点・不明点等を明確して講義に臨めるようにした。講義では、基本的知識を確認する小テスト、課題に関する疑問点の解説、グループ検討を実施し、基本的知識に対する理解の深化を図った。また、事例課題については、習熟度別のグループ指導を取り入れ、評価表の解説と自己点検の時間を増やし、知識の定着を図った。

次年度も、学生の主体的な学習を促し、基本的知識の理解と定着を図ることを課題とする。

8） 看護教育学 :4 年次後期

松山友子

＜教育内容＞

看護教育の教育制度・教育課程等の歴史的変遷について学習し、看護学教育に関する現状と課題について考察した。また、看護学教育のカリキュラムの特徴や教育方法および評価の概要を学習することを通し、看護職者としての教育的視点を養うとともに、自らのキャリア開発に向けた教育や自己評価の意義を検討した。具体な展開としては、看護学教育に関する学生の疑問を解決すべく、大学における看護学教育に関わる制度やカリキュラムに関する学習を進めた。また、本学の履修案内とシラバスを用いて授業設計を確認すると共に、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」を参考に自らの 4 年間の学びを評価した。キャリア開発に関しては、「新人看護職員研修ガイドライン」等の活用方法を検討した。学生は、4 年間の自分の学習成果を振り返り、大学における看護学教育の意義を見直すと共に、学ぶ側だけでなく教える側の視点へも視野を広げて考えることができ、学び続けることの重要性を認識できたと述べていた。また、毎回の授業でテーマに沿ったレポートを記載することが学習内容の理解に繋がったと評価していた。次年度もテーマを精選して継続したい。

9） 看護学体験実習 :1 年次前期

松山友子、髙橋智子、小嶋奈都子、加藤知子、日髙未希恵、 伊部有美子、久保田貴博、髙田菜々子、山崎しのぶ

〈教育内容〉

独立行政法人国立病院機構東京医療センターを実習施設とし、病棟、手術室、外来の 14 看護単位に学生を配置した。本実習は、学生が入学後 3 か月間の講義・演習を通して学んだ看護・人間・健康・環境に関する内容を、実際の医療現場において見学することや指導者からの説明により体験的に学習した。

学生は看護師が患者を深く理解していることに感銘を受け、人間を身体的・精神的・社会的側面を有する統合体として捉えることで、個別性のある看護につながることを発見していた。また、カンファレンスやレポート、全体まとめ等では、実習で体験した具体的な事象を講義の内容と関連付けて解釈すること、新たな気づきや学びを他者に分かるように説明することを強調した。学生は、最終日の発表会において具体的かつ整理された学習成果を発表することに加え、目標に向かって今日から真摯に学習に取り組む決意を表明していた。

次年度も講義と実習を関連づけると共に、新たな気づきや今後の学習への動機付けに繋げられるように指導を工夫したい。

10） 日常生活援助展開実習 :1 年次後期

松山友子、髙橋智子、菅原裕美、早坂奈美、日髙未希恵、デッケルト博子、山田恵子、伊部有美子、岡村美帆、久保田貴博、髙田菜々子、野田恵美子、前田竜耶、吉田貴恵子

〈教育内容〉

独立行政法人国立病院機構東京医療センターを実習施設とし、12 病棟に学生を配置した。1 名の患者を受持ち、基本的ニードの充足状況の判断に基づく援助を実践することを通し、学内で学習した日常生活援助に対する知識・技術・態度の統合・向上をはかることを目的とした。

学生は、患者のニードの充足状況を踏まえ、個別性に応じた援助の提供をめざして、援助計画を立案し、その計画に基づき実施と評価を日々行った。5 日間の実習期間の中で、学生は患者の反応を的確にとらえ個別に応じて援助することの難しさを実感するとともに、実習終了時には看護師が日常生活援助を行う意義を受持ち患者の例を通して述べ、これまでの学習を深化させていた。 また、事前課題の技術練習に臨地実習を想定した事例を取り入れ、グループで技術確認を実施したことにより、学生が実践に向けた自己の課題に気付くことができ、効果的であった。さらに、実習指導の面では、実習目標に沿った実習指導を強化するために、カンファレンス終了後に実習指導者と担当教員とで翌日の指導内容・方法を日々確認した結果、指導の継続性が増した。両者の連携を次年度も継続したい。

11）看護過程展開実習 ： 2 年次前期

松山友子、髙橋智子、井本由希子、小嶋奈都子、菅原裕美、日髙未希恵、伊部有美子、岡村美帆、久保田貴博、志村智絵、髙田菜々子、野田恵美子、杜稀衣、山崎しのぶ

〈教育内容〉

独立行政法人国立病院機構東京医療センターを実習施設とし、12 病棟に学生を配置した。本実習では、「看護過程と看護方法論」の授業で学習した知識・技術および態度を活用し、一人の受持ち患者の看護過程を展開することを通し、個別性に応じた必要かつ適切な看護を実践するための基礎的能力を養うことを目指した。

学生は、受持ち患者の情報をアセスメントし、患者の全体像をとらえた上で、これまでの学習で対応可能な看護上の問題点を 1 つ選択し、その問題に焦点を当てて看護計画の立案・実施・評価を行った。また、学生が既習の学習内容と実践の具体例との統合的な理解を効果的に深めていくために、看護過程展開の進行に沿ったテーマカンファレンスや方法論の理解の促進を意図したカンファレンスを組み合わせて設定した。これによって、学生は日々思考を整理・深化させることができたと評価していた。

一方、実習前には基本的な知識・技術の定着が図れていない学生が少なくないことから、日常生活援助展開実習で受け持った患者の情報を元に事前学習課題を実施し、実習への導入として効果的であった。次年度も継続したい。

【成人・老年看護学領域】

1. 教育方針

成人・老年看護学では、成人期と老年期を一連のライフサイクルとして捉え、幅広い年齢層における多様な健康問題を抱える人々を対象とした看護実践能力の養成を目指している。

成人・老年期にある人々とその家族の身体・心理・社会的・霊的特徴を理解し、成人期の経過別

看護および老年期看護の特徴に応じた看護実践についての講義・演習・実習を展開している。講義・演習ではアクティブラーニングを重視し、プレゼンテーションやディスカッション、事例に対する看護実践のロールプレイ、高機能シミュレーターを用いた総合的アセスメントに基づく看護技術演習などを行なっている。臨床実習では、既習の基礎知識と看護技術をベースに、マニュアル化された看護ではなく、対象それぞれのもつ多様な個別性を重視した custom-made の看護を実践する能力の育成を重視している。

臨床実践に直結する教育を担う領域として、“tomorrow's Nurse”の資質の錬成につながる講義・演習・実習を展開していきたい。

2. 科目名

1） 成人看護学概論：1 年次後期

竹内 朋子、松本 和史、原口 昌宏

〈教育内容〉

成人期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、成人看護学の基礎を理解することを目標とした。対象への理解を深めるため、成人期の人々の健康に関する人口統計データの概説と併せて、様々なライフイベント、生活習慣と健康問題の関連など、自己に置き換えて考えられる学習課題を設定した。また、成人看護にまつわる主要な諸理論・概念について概説し、自己のこれまでの具体的な経験と照らし合わせることで理解が深まるよう工夫した。さらに、次年度以降の実践論の学習につながるよう、成人期における経過別看護（急性期看護、慢性期看護、終末期看護）の特徴に関してそれぞれ概説した。

成人看護学の導入となる科目であるため、次年度も看護の対象となる成人の多様性が理解できる講義を目指したい。

2）老年看護学概論：1 年次後期

竹内 朋子、松田 謙一

〈教育内容〉

老年期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、老年看護学の基礎を理解することを目標とした。人口統計データに基づいて今日の高齢者の健康と暮らしに関する動向を概観し、老年看護学に関する諸理論・概念、高齢者を支える社会保障制度の基礎について講義した。また、加齢が日常生活に及ぼす影響をより効果的に学習できるよう、高齢者体験キットを用いた高齢者模擬体験演習を取り入れた。講義に際しては、自分の老後の生活をイメージすることや、老年観を問う課題などを通して、加齢を身近に感じることができるように工夫した。

次年度も老年期にある人々を多角的に理解できるような講義を目指したい。

3）慢性期看護論：2 年次前期

竹内 朋子、松本 和史

〈教育内容〉

慢性期看護をより具体的に理解できるよう、経過別看護で広義の慢性期看護を構成する慢性期看護と終末期看護の 2 部で展開した。

慢性期看護に関しては、慢性疾患をもつ対象者の受容過程をふまえ、セルフケア能力を高め

るための援助について理解することを目標とした。器官系統別に代表的な慢性疾患とその看護について講義した。解剖生理や病態生理を復習できるような事前課題を課し、疾患と看護が結びつくように工夫した。関連する解剖生理の小テストや看護技術の実演を伴った講義を取り入れ、実践的な理解が深まるよう促した。

終末期看護に関しては、終末期にある患者とその家族を全人的に理解し、苦痛の緩和やその人らしさを支える看護について理解することを目標とした。特に、死すべき存在（mortal）である生命を対象とする医療職を目指す者として、自己の死生観を深化させるとともに、死にまつわる多様な価値観を理解できるよう、体験型ワークやディスカッションなどを取り入れたり、看護学以外の学問領域の知見についても言及したりするなどして講義展開を工夫した。

次年度の新カリキュラムでは、この科目は「慢性期看護論」と「終末期看護論」にそれぞれ独立して開講する。それぞれの教育目標に応じた講義を展開していきたい。

4) 老年期看護論：2 年次前期

松田 謙一、井本 由希子

〈教育内容〉

健康障害により、診察・検査、入院治療を必要とする高齢者への看護、ならびに高齢者に特徴的な症状や疾患とその看護について理解することを目標とした。健康障害により診察・検査、入院治療を必要とする高齢者への看護では、加齢に伴う環境適応能力の低下を踏まえて療養環境を整えることの重要性を理解できるよう事例や画像を用いた。高齢者に特徴的な症状や疾患とその看護では、各回の導入時に、高齢者に生じやすい理由や発生頻度等の疫学的データを示し、老年看護学で学習する意義を理解できるように工夫した。また、看護について講義する場合には、健康障害に加えて加齢の影響にも配慮した介入の必要性を理解できるよう、事例や画像を用いた。

次年度の新カリキュラムでは、この科目は「老年看護実践論」に統合される。看護実践に結びつく知識を獲得できるよう講義内容のさらなる充実を目指したい。

5) 老年看護実践論：2 年次前期

原口 昌宏、松田 謙一、井本 由希子、野田 恵美子、岡村 美帆、山崎 しのぶ、前田 竜耶

〈教育内容〉

高齢者の特徴をふまえた看護過程を展開できるよう、前半は高齢者を取り巻く社会制度や看護診断に関する講義、後半は演習を中心とした授業構成とした。看護過程演習では、3 年次の「老年看護学実習Ⅱ」で使用する実習記録と同様の記録用紙を使用し、NANDA-I に基づいてデータベースアセスメント、関連図、看護診断リストまでを作成した。病気を抱える高齢者の事例を用いて、記載方法だけではなく、臨床で多く取り上げられている疾患・看護を取り入れ、今後の学習に活かせるように心がけた。個人の疑問や意見を共有できるように、1 事例目はグループワークで行い、学びの共有をもとに自分で考えられるようにした。2 事例目は個人ワークで行い、課題終了後、活発な意見交換ができるように、AL の 1 つである「TO 学習」を行った。演習全体を通して学生間で意見交換ができ、効果的にグループダイナミクスが働いていた。また教員ごとに担当学生を決め、継続して指導できるよう配置することで、学生の理解度にあわせた指導を行うことができた。

次年度の新カリキュラムでは、看護過程の演習に加えて、看護技術演習も計画している。演習を通して、学生の高齢者に対する看護実践能力の向上を目指したい。

6) 家族看護学:2 年次後期

松本 和史、 齋藤 益子、田中 留伊、 竹内 朋子、玄 順烈、 松田 謙一

〈教育内容〉

様々な視点で家族を捉える見方を養った上で、病気や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族を単位として展開する看護について学ぶことを目標とした。 また、家族の役割・機能、現代の家族の諸問題に着眼しながら、家族観を見つめなおすことができるように講義を行った。 家族や家族を対象とする看護について、「小児」「女性」「高齢者」「死にゆく人」「精神障害」「男性」の視点を各専門領域の 6 名の教員が担当するオムニバス方式で講義を行い。 家族看護について広く深く考察できていた。

これまで講義中心で行ってきたが、社会的に家族を対象とする看護の重要性が高まる中、学生の家族看護の実践力をより高めるため、来年度は、事例を用いたグループ演習を授業に取り入れる予定である。

7) 老年看護学実習 I (地域で暮らす高齢者への看護):2 年次後期

松田 謙一、原口 昌宏、井本 由希子、野田 恵美子、岡村 美帆、前田竜耶

〈教育内容〉

施設で暮らす高齢者の生活と看護師の役割を理解することを目標とし、特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設にて実習を行った。高齢者とのコミュニケーションや食事の介助、レクリエーションへの参加、入浴介助などを経験することで、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴と高齢者の日常生活の理解を促した。さらに、昨年度同様、生活の中での娯楽の意義を理解するために、全施設で学生が企画したレクリエーションを高齢者に対し実施した。学生はレクリエーションを通して、高齢者の特徴を考慮することの大切さを学ぶことができていた。実習の展開方法として、施設実習と学内実習日を 2 日ごとに入れ替えたことにより、学内実習日では、福祉機器のプレゼンテーション、学びの共有、レクリエーションの企画・予演等の準備を行うことができた。施設毎に担当教員を配置し、施設担当者と密に情報共有し、学生の学びやすい環境となるよう努めた。

次年度の新カリキュラムでは、本科目は「老年生活支援実習」に名称変更となる。次年度も、今年度と同様の形式の実習を行い、地域や施設で生活する高齢者と、高齢者に対する看護の役割に関する学びが深まるような内容を検討していきたい。

8) 急性期看護論:3 年次前期

原口 昌宏、竹内 朋子、 松本 和史、松田 謙一

〈教育内容〉

急性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と生命維持、術後合併症予防、残存機能を活かした看護について理解することを目標とした。前半では、生体侵襲や全身麻酔による影響、生命維持機能についての講義を行い、その後周術期看護や救急看護・重症ケアの講義につなげることで、侵襲による身体的、心理的、社会的変化や好発する合併症の予防について理解で

きるようにした。後半は、代表的な疾患の病態と手術を中心とした治療ついての講義を行い、各手術療法に特有の合併症や看護についての理解を深めた。今年度は、授業冒頭に授業内容に関する小テストを行い、復習ができるようにした。同時期に開講される成人・老年看護実践論の内容・進度と連動させて、より実践的な学びが得られるよう工夫した。

次年度も、後期に開講する成人看護学実習Ⅰにつながるよう、周術期看護および救急看護・重症ケアの知識を深める授業を行う予定である。

9) 成人・老年看護実践論:3 年次前期

松本 和史、竹内 朋子、原口 昌宏、 松田 謙一、井本 由希子、野田 恵美子、岡村 美帆、山崎 しのぶ、前田 竜耶

〈教育内容〉

成人期・老年期にある患者の個別性を考慮した看護実践方法および、患者の生命維持、QOL 向上のために必要な看護援助方法を理解できることを目標にした。 授業の約半分を看護技術演習とし、酸素療法、吸引、無菌操作、一次救命処置など 13 項目の看護技術の演習を行った。 一部の演習ではシミュレーターSCENARIO®(京都科学)や模擬患者を用いたシミュレーション形式を取り入れ、状況に応じた実践ができるように工夫した。 残りの授業では、看護過程等の看護実践に関する演習を実施した。 最初に、看護過程導入偏として 3 時間の事例演習を行い、その後、急性期、慢性期、終末期、老年期の経過別の授業を配置することで、成人期・老年期の看護実践の理解を促した。 これらの授業では、看護計画の立案を行う演習や看護計画をモデル人形に実践する形式のシミュレーション演習を実施した。 本科目は、後期の各論実習を意識した授業構成としており、学生も実習を意識して非常に意欲的に授業に取り組んでいた。

次年度の新カリキュラムでは、本科目は「成人看護実践論」となる。次年度は、シミュレーション等のアクティブラーニングのさらなる充実を図り、学生が主体的に 学び、考える力を養えるような内容にしていきたい。

10) 成人看護学実習Ⅰ(急性期):3 年次後期

原口 昌宏、 前田 竜耶

〈教育内容〉

周術期看護とクリティカルケア看護の学びを取り入れるために、昨年度から 2 週間の実習を、外科系病棟 1 週間、手術室および救命救急センター1 週間の構成とした。病棟実習では、全身麻酔下にて手術を受ける患者を 1 名受け持ち、周術期の看護展開を行った。事前課題と実習記録を連動させ、限られた期間で看護過程を展開できるように工夫した。手術室実習では、見学を通して手術室の構造・機能や看護師の役割等を学び、多くの学生は、器械出し看護師が行う業務の一部を経験した。救命救急センター実習では、実際に 1 名の重症患者を受け持ち、指導者とともに看護ケアを実施した。学生や病院側が混乱しないように、事前に病院側と打ち合わせを重ねてきた。事後レポートから、合併症予防のケア、手術後の観察、患者の残存機能を活かしたケア、早期離床の促進など、周手術期の学びだけではなく、クリティカルケア領域の実習構成にしていることで、急性期における看護師の役割などを理解できる実習となっていた。

次年度の新カリキュラムでは、本科目は「急性期看護学実習」に名称変更となる。次年度も同

様の実習形式を予定している。実習との連動性を高めた前期の演習や講義、課題を通して、学生のレディネスを高めることが必要である。

11) 成人看護学実習Ⅱ(慢性期):3 年次後期

松本 和史、野田 恵美子、岡村 美帆、前田 竜耶

〈教育内容〉

慢性期にある対象の特徴を理解し、対象が生活過程を整えながら社会生活を営み、セルフマネジメント能力を身につけるための看護実践を学ぶことを目的とし、独立行政法人国立病院機構東京医療センターと東京病院にて臨床実習を行った。 慢性疾患をもつ患者の退院後の生活を考慮した看護過程を展開できるよう促した。 そのために、実習初日に、退院支援看護師からの退院支援に関する講義を設け、病棟看護以外の役割も学んだほか、受け持ち患者に退院支援スクリーニングシートを作成することで、退院や社会復帰への支援について多角的に学べるよう工夫した。 また、学生の通学の負担を考慮し、学生を自宅から近い実習施設に配置した。

次年度の新カリキュラムでは、本科目は「慢性期看護学実習」に名称変更となる。次年度も慢性期にある患者のセルフマネジメント能力を引き出し、退院後の生活につながるための看護実践能力を高める内容としたい。

12) 成人看護学実習Ⅲ(終末期):3 年次後期

竹内 朋子、岡村 美帆、野田 恵美子

〈教育内容〉

終末期にある患者の全人的苦痛を緩和し、その人らしい生と死を支えるための看護と、重要他者を失いゆく家族に対するグリーフケアの実践を目標とした。また、実習やカンファレンスを通して、患者、家族、実習グループメンバー、医療スタッフたちの死生観に触れ、看護職としての自己の死生観を深化させることも目指した。今年度は、臨死期・臨終・死後の看護を実践または見学できる機会が少なかったが、グループ学習を通して、終末期看護にとどまらず、生命を対象とする看護の意義についても考察することができていた。

次年度の新カリキュラムでは、本科目は「終末期看護学実習」に名称変更となる。引き続き、終末期にある患者と家族の苦痛を全人的にアセスメントし、積極的に緩和ケアを実践する能力を高めていきたい。

13) 老年看護学実習Ⅱ(病と生きる高齢者への看護):3 年次後期

松田 謙一、井本 由希子

〈教育内容〉

急性期病院において入院治療を必要とする高齢者への看護実践を学ぶことを目的とした。NANDA-I 看護診断を用いた看護過程の展開を通して高齢者を全人的に捉えたうえで、看護の必要性を見出せるよう実習指導者と連携しながら実習指導を行った。 また、実習記録においては、加齢による心身の変化を丁寧に解釈・分析することを課し、臨床現場で加齢の影響を系統的に把握するために必要となるアセスメント能力を養った。 最終カンファレンスやレポートにおいて、学生は、高齢者を全人的に捉えたうえで看護を展開することの重要性に加えて、高齢

者の意思やストレングスを反映させた看護の必要性についても考察できていた。

次年度の新カリキュラムでは、本科目は「老年看護学実習」に名称変更となる。次年度も急性期病院において入院治療を必要とする高齢者への看護に必要な実践能力を修得できるよう実習を展開していきたい。

【小児看護学領域】

1. 教育方針

発達段階や健康・不健康を問わず、子どもとその家族および家族を取り巻く社会を理解し、専門的知識と技術と共に小児看護が実践できる能力を養うことを目的としている。子どもたちの身体的・精神的側面だけではなく、子どもたちを取り巻く社会的環境からの影響も含めた社会権をもった一人の社会的生活体として捉えるための小児看護学としての位置づけとし、「小児看護学概論」、「小児看護実践論」および「小児看護学実習」の3科目の構成としている。

2. 科目名

1) 小児看護学概論:2 年次後期

中島美津子、玄順烈、山田恵子

〈教育内容〉

小児各期の成長・発達理論とその評価方法を学び、小児医療の歴史的変遷、倫理、理念および機能を学び、現代に小児看護の役割と課題を明確にすることを目的とした。

講義内容は、前半では各成長・発達段階の理論と評価方法を学習し、自分の周囲にいる身近な子どもの観察を通して、その学習を実践する課題を与えた。具体的に、子どもと関わり観察することで、発達段階に則した認知形成プロセスや遊び、運動機能、言語発達などの個人差、月齢差など発達段階の違いを学ぶ機会となった。授業では毎回授業評価及びアンケートを実施し、直接、学生からの質問や疑問、わからない点などのフォローを重ねた。課題によって、成長・発達を考えながら接することで、子どもへの苦手意識が払拭され、この学びを小児看護学実習で活用したいという声や、子どもへの視点が変わりニュースにも興味がわくようになったなど、講義と課題との繋がりから学びを深めていた。さらに後半では、子どもを取り巻く社会環境と家族の理解から、現代の視点で子どもを取り巻く環境、法律、施策を学習後、学生自らテーマを決め調べ発表するアクティブラーニングによる学びの共有化を実践した。その結果、子どもを社会的生活体として身近に捉えることができるようになったという評価がきかれた。次年度は法律改正等を踏まえた新たな子どもを取り巻く社会的情勢を盛り込んだ講義を予定している。

2) 小児看護実践論:3 年次前期

中島美津子、玄順烈、山田恵子

子どもの病状や経過、子ども特有の症状に応じた看護実践に必要な基礎的知識を学び、子どもの健康障害の回復や成長発達の促進に向け、子どもとその家族の援助方法を理解することを目的としている。

講義内容は、子どもとその家族への看護および急性期から終末期までの経過別看護、また障害をもつ子どもとその家族の看護などを、事例に基づいて教授した。具体的には、子どもの病態

の理解、検査・治療処置、看護技術実践を展開した。技術演習では、小児看護に特有な看護技術としてバイタルサインズ測定および身体計測、静脈内点滴時のシーネ固定や与薬などを、DVD 教材やバイタルサインズ人形、新生児モデル人形などを用いて実施した。また、看護過程の展開では、発達段階が異なる川崎病、骨折、気管支喘息の子どもと家族の看護、さらに発展する医療的ケア児や発達障害の事例にも取り組んだ。インクルーシブな環境への変革を遂げる現代社会での小児看護の位置づけやその対応について、学生は、グループワークやプレゼンテーションを通して実践に活かせる小児看護の学びが共有できていたさらに今年度から、実習の際、一貫性をもった学びとして認識できるよう講義・演習・実習に使用する携帯可能な教材を作成したことで、さらに成長・発達や病状や治療に関する情報と関連付けた理解を深められていた。次年度もこの教材は継続し、さらに新たな事例を含め、実習に繋げられるような演習の展開を予定している。

3) 小児看護学実習:3 年次後期

玄順烈、中島美津子、山田恵子

子どもの特徴や成長・発達、健康レベル、家族の繋がりに対する理解を深め、小児看護実践に必要な基礎的能力を養うことを目的とした。実習は、東京医療センター5B 病棟、成育医療研究センター、東埼玉病院(障害児[者]病棟)の 3 看護単位において各グループ 2 週間ずつ実施した。実習中、学内日では基礎知識の確認とアセスメントの指導、看護実践のシミュレーションを行った。実践内容は、患児 1 名を学生 2 名で受持ち、実践以外でも指導者と教員を交えたカンファレンスを通じて、子どもが示す反応の意味、子どもが力を発揮するための援助の創意工夫、家族環境などの情報共有することで、具体的援助の実践に繋げることができていた。障害児(者)病棟では、非言語的コミュニケーションを多用し、反応を詳細に捉えることで患者の理解を深め、一般病棟とは異なる多職種連携(IPW)の実際を学ぶ機会となり患者を多角的に捉えられていた。また本学での技術チェック表や新たに導入した講義・演習・実習で使用可能な教材も活用しながら、小児特有の高度な実践技術獲得もできていた。次年度からは健康な子どもたちの理解を深めるため実習の内容も検討し、子どもたちの社会生活の理解を深めたうえで、病棟での実習指導の充実に向けて、教員と保育園・実習指導者が更なる連携の下、実習を展開していく予定である。

【母性看護学・助産学領域】

1. 教育方針

母性看護学では、人間の生涯における性と生殖の健康問題と予防法に主眼を置き、特に女性のライフサイクル（乳幼児期・思春期・成熟期・更年期・老年期）およびマタニテイサイクルにある妊娠・分娩・産褥・新生児の生理・病態と母子およびその家族への援助理論と方法について学ぶことを目的としている。科目は母性看護学概論、母性看護実践論、母性看護学実習で構成される。母性看護学実習では妊娠・分娩・産褥期および新生児期に重点を置いて実習を展開する。

2. 科目名

1）母性看護学概論　２年次後期

朝澤恭子、齋藤益子、平出美栄子、小嶋奈都子

〈教育内容〉

母性看護学概論では、母性看護の基本概念および意義を理解し、人間の性と生殖の側面から、女性の全生涯を通じたヘルスプロモーションと健康問題への対応に視点を置き、母性各期における援助方法および母性看護の役割と重要性について理解することを目的とした。講義内容は、母性の概念、セクシュアリティ、リプロダクテイブヘルス/ライツの概念、母性看護の歴史と母子保健統計、女性のライフサイクル各期（思春期、成熟期、更年期・老年期）の健康問題と看護、母性看護の対象の理解であった。方法は講義の他に事例検討、グループワーク、ミニテストを用いて、知識の定着を目指した。また、母性看護における倫理的課題と対処法はグループディスカッションとプレゼンテーションを用いて演習を行った。母性看護のファーストステップとして静止画・動画、媒体を多く用いてイメージしやすいように工夫した。次年度も講義内容と教材を精選し、参加型の講義・演習に取り組みたい。

2）母性看護実践論　３年次前期

朝澤恭子、小嶋奈都子、志村智絵

〈教育内容〉

本科目では、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある母子とその家族を対象に、健康を維持・促進するために必要な支援を学習し、リプロダクティブ・ヘルスケアを実践する上での援助方法を学ぶことを目的とした。授業は、講義と演習により構成し、対象である母子の生理的・社会的特徴などの基礎知識を踏まえて、対象のニーズを理解できるようにした。講義では毎回ミニテストを取り入れて学んだ知識が定着するよう工夫した。演習は、母性看護の基本的看護技術および看護過程展開のシミュレーション教育で構成した。基礎知識を踏まえて対象のニーズをアセスメントし、ケアのための具体的な看護計画や看護技術が実践できるように計画した。学生は、母子の身体的・心理・社会的特徴を理解した上で、ウェルネスの視点でマタニティ期ある対象者をアセスメントし、周産期の母子とその家族に対する基本的な母性看護技術を習得した。

3)　母性看護学実習　３年次後期

朝澤恭子、小嶋奈都子、志村智絵、篠原枝里子

〈教育内容〉

母性看護学実習は、周産期にある母子およびその家族を対象に、健康を維持・促進するために必要な支援を学習し、リプロダクティブ・ヘルスケアを展開するために基礎的な看護実践能力を身につけることを目的とした。実習は、東京医療センターおよび日産厚生会玉川病院の産科病棟・外来において 90 時間実施した。

妊娠期のケアとして、産科外来の妊婦健康診査における妊婦計測の実施および妊娠各期の保健指導、超音波診断法、母親学級、助産師外来を見学した。分娩期のケアでは正常な経過をたどる産婦のケアの一部実施または分娩見学、帝王切開術見学を行った。産褥期のケアにおいて、学生は１組の母子を受け持ち、看護過程の展開を実施するとともに、看護実践として母子の健康状態の観察、褥婦に対するアロマトリートメントおよび

足浴、新生児の沐浴またはドライテクニックを行った。周産期の異常へのケアについてはカンファレンスを実施し、学生主体でディスカッションを行った。

次年度は新生児の沐浴、分娩見学等の貴重な体験ができるよう、実習指導者とこれまで以上に調整し、より効果的な実習ができるよう学生を支援する。

4）疾病と治療Ⅳ　２年次前期

朝澤恭子、酒井一夫、金子あけみ、斉藤史郎

〈教育内容〉

本科目は、内分泌、腎・泌尿器、女性生殖器疾患による形態・機能および代謝の変化、疾病の発生機序と特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について学習することを目的としている。

内分泌疾患および女性生殖器疾患は、1 年次に学習した解剖学、病態生理学等の知識を想起させ、関連づけながら体系的に学ぶことが必要となる。また、多くのホルモン名を正確に記憶することも求められるため、覚えるべき内容は、図解したり反復強調したり工夫して教授している。疾患をイメージ付し理解が深まるよう動画や静止画を多く取り入れた。糖尿病に関する講義では、生活習慣病(Non-communicable Disease, NCD）の代表的疾患として診断・治療、予防及び保健指導についても言及した。また、近年、急増している乳がんについては、机上の学習だけでなく、乳房モデルを用いた自己検診を体験させるなど実際的な内容や最新の診断・治療に関する情報を取り入れている。

希望した学生には補習講義を行い、ミニテストを取り入れて、知識の定着がなされるよう工夫した。各講義において、過去に出題された国家試験問題を提示し解説している。学生は、国家試験問題を解くことで、自己の理解度を確認できるため学習の動機づけに繋がっている。

【精神看護学領域】

1. 教育方針

精神障害だけにとどまらず、身体・知的を含む三障害の概念や特性を理解できるように、歴史的背景や障害に関する基礎的な知識、実際に行われている看護援助を示しながら、障害に対する理解を深められるようなカリキュラムを実施している。また、授業や実習を通して、自らの障害者観と向き合いながら、障害者の健康増進を考えられる力を身につけ、ノーマライゼーションの推進を支援できるようになることを目指している。そして、知識として習得することだけに留まるのではなく、障害者を取り巻く現状や課題について、自らの意見を持ち、積極的に行動できるような態度を身につけてほしいと願っている。

2. 科目名

1）　臨床コミュニケーション論　2 年次前期

田中留伊、中村裕美、菅原裕美

看護を提供する上で重要なコミュニケーションに焦点を当てた科目である。コミュニケーションの構成要素や影響する要因などの理解を深め、自己のコミュニケーションを見つめ直し、自己啓発していく重要性を認識することを目的とした。内容としては、日常的な場

面の「聴く」・「話す」等の技術について、陥りがちな課題に焦点を当てながら、段階的に実際の臨床場面での効果的なコミュニケーションを考えていける構成とした。また、看護場面での対象との支援関係形成や信頼関係構築を考えることを目的として、プロセスレコードを活用した。学生が積極的に参加できるように、すべての授業において、ワークシートを用いた体験型の授業展開を行った。コミュニケーションが上手くいくことだけにとらわれず、専門的で相手の立場に立った自分らしいコミュニケーションを常に模索していけるような授業展開を心がけていきたい。

2) 精神看護学概論 2年次後期

田中留伊、中村裕美、菅原裕美

初学者であるため、できる限り難しい専門用語を用いず、精神看護について関心が持てるように心がけた。こころの働きや精神的健康、障害の概念や障害者の歴史的背景が理解できるように、教科書やオリジナルのパワーポイントを用いながら授業を行い、将来看護師として、精神障害や精神障害者とどのように向き合っていくのか考えられるような課題を与えた。また、健康レベルに応じた人間理解を深め、精神障害者の健康増進・ノーマライゼーションを推進するために必要な基礎的知識を身につけられるように展開した。一方的な授業にならないように、授業内で学生が発言できる機会を設けたり、リアクションペーパーを書いてもらうなどの配慮を行った。

3) 精神看護実践論　3年次前期

中村裕美、田中留伊、菅原裕美

精神的な健康に障害を持つ対象を理解できるように、主な精神疾患や特徴的な症状について、オリジナルのパワーポイントや教科書を用いて授業を展開した。精神科医療の現状を踏まえ、入院治療だけではなく地域社会生活への適応に向けての看護実践方法を考えられるように視聴覚教材を用いて授業を行った。また、精神障害のある対象の支援に必要な基本的な看護技術が学べるように看護過程を展開させ、グループワークを行う事で学びを深めた。さらに、外部施設で活躍している精神看護専門看護師を講師として招き、実際の活動内容を踏まえた講義を行ってもらうことによって、学習効果を高められるよう工夫を行った。各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。リアクションペーパーや前回の授業の復習は「解らないことが質問しやすい」、「知識の確認になる」など好評であったため、次年度以降も継続していく予定である。

4) 障害者看護論 3年次後期

中村裕美、田中留伊、菅原裕美

精神・身体・知的の三障害を持つ対象を理解できるように、オリジナルのパワーポイントや教科書を用いて授業を展開した。障害とともに生きることで社会生活への参加が制限されたり、生活行動の変更を余儀なくされる対象に対する理解を深めるために視聴覚教材を用いて学び、看護の特徴を考えられるように授業を行った。また、筋ジストロフィー、重症心身障害、神経難病などを抱える人々の具体的な看護実践や生活の質を高める支援の方法については、臨床で看護を実践している講師を招き、生きた看護体験を学べるよう授

業を行った。各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行った。リアクションペーパーや前回の授業の復習は好評であったため、次年度も継続していく予定である。

5) 精神看護学実習　3年次後期

田中留伊、中村裕美、菅原裕美

独立行政法人国立病院機構東京医療センター、独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院、公益財団法人井之頭病院、NPO法人ハートフル翔ワークイン翔を実習施設として実習を行った。本実習では、精神障害を持って生きる人を包括的に理解するとともに、精神障害者の自立および自己実現に向けた援助を通し、必要な看護が実践できる基礎的能力を育成することを目指した。学生は1人の受け持ち患者を通して看護過程を展開し、看護計画の立案・実施・評価を行った。また、実習指導者や担当医師から臨床講義をして頂いたり、作業療法や参加しているプログラムに一緒に参加させて頂いたりしたことで、精神医療の実際を知るとともに、保健医療福祉チーム・システムの現状や課題等について考えることができた。さらに、全ての学生がプロセスレコードを記述し看護場面の再構成を行うことで、患者との関わりを通して自己洞察を行った。実習中は毎日カンファレンスを実施し、学生の疑問をその日に取り上げ、翌日の看護に結び付けられるように指導した。実習の最終日には学内で実習まとめ会を行い、他の施設や病棟での学びを共有する場を設け、自らの精神障害者観を明らかにし、看護の役割と課題についての考えを深める機会とした。今後も、実習指導者や担当教員の意見を反映させ、効果的な指導を検討していきたい。

【地域看護学】

1. 教育方針

地域看護学領域では、看護師教育のための地域看護学と在宅看護学を教授し、これからの看護師として病院だけではなく、広く地域で活躍できる看護師を養成することを目標としている。様々なニーズをもつ人々が住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるためには看護師として何ができるのかを地域看護学の一連の科目を通して学習させる。

また、在宅看護学の一連の科目では、在宅療養者とその家族がその人らしく療養できるための看護の機能と役割、地域住民全ての安心安全な暮らしを守る視点を学習させる。

これらの学習を通して、病院・地域といった働く場所を問わずに地域包括ケアシステムの中での看護師の役割を生涯に渡って省察できるような視点を持てるようにしていきたい。

2. 科目名

1)　災害看護学Ⅰ　2年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一、太田慧、浜崎曜子、デッケルト博子、望月靖記

〈教育内容〉

集団災害についての知識を深め、災害医療の概念と展開、災害時の看護の役割を理解し、災害時の社会ニーズに即した看護職の機能について学ぶことと、危機的状況にある

多数の負傷者並びに地域全体を対象に、看護を展開できる判断力と看護技術を学ぶことを目標に掲げた。

災害医療・看護の基礎と看護師・保健師の活動について教授し、特に中長期の心身の支援に力を注いだ。併せて、災害医療センターより DMAT 隊員の高以良先生をお招きし、国内外における災害看護活動についての講義を実施した。また、本科目では災害時の手当て法の一つである三角巾を用いた包帯法の演習を行い、視聴覚教材と身体を使った学習とした。

2) 在宅看護学概論　3 年次前期

長島真由美、佐藤潤、嶋谷圭一、浜崎曜子、デッケルト博子、中島朋子

〈教育内容〉

我が国の社会的背景から在宅看護の必要性を理解し、在宅看護の特徴、看護の継続に必要な基礎的知識、看護技術など対象者（個人・家族）の支援について学び、在宅療養を取り巻く現状の理解ができることを目標に講義を行った。

講義では、在宅看護学の定義から在宅療養者の特徴や対象が本人とその家族であること、顕在的ニーズと潜在的ニーズに対応した訪問看護の特徴等について教授した。また、教科書の他に、多くの視聴覚教材を用いることで、在宅療養者に関するイメージがつけられるように工夫した。さらに、最新の課題について、各自が自分なりの意見をもてるよう支援すると共に、課題解決の自己決定はあくまでも療養者とその家族であることや自己決定支援に必要な情報提供についての学習支援をした。さらに、訪問看護ステーションの管理者に現場の魅力を話していただいた。

本科目は、統合分野であるため、今後も他領域の学習と連動していく必要がある。

3) 在宅看護実践論Ⅰ　3 年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一、デッケルト博子、望月靖記、西田壽代、真下貴久、大久保利治、杉崎芽衣、今井啓二、仁科恵美子、藤野智子、菅野幸美、鳥内亮平、矢田優、徳永幸介、山口潔

〈教育内容〉

本演習では、安心安全な在宅ケアの継続と生活の質的向上を目指し、在宅療養環境と療養者・家族のニーズに応じた具体的な在宅ケアの看護実践の方法について学ぶことを目標に演習を展開した。

在宅酸素療法、人工呼吸療法、ALS 療養者のニーズとコミュニケーション支援、褥瘡予防、フットケア、住居環境の整備のための福祉用具、透析療法、災害時の危機管理における技術を最新の機器や情報と共に提供した。演習では適宜外部から専門家をお招きし、講義だけでなく演習時間を多めに割くようにした。特に今年度は在宅診療医をお招きし、医師の視点から在宅医療についての講義を追加した。

今後も 4 年次実習への授業効果を考慮し、内容や方法を再検討していきたい。

4) 地域看護学概論 2 年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一、デッケルト博子、望月靖記

〈教育内容〉

少子超高齢社会を迎えた日本において「病院完結型」医療から「地域完結型」医療への変換が求められている中で、看護職として地域看護学に関するスキルを習得することの重要性を認識し、看護職としての役割を理解することを目的に講義を行った。

講義では、地域看護学の定義から地域を把握する必要性とその方法、地域看護における援助の展開の実際について日本の実情と併せながら説明するよう工夫した。さらに、実際に地域に出て地域診断を行う演習も取り入れた。今後は、看護師に必要な地域看護学についてさらなる授業内容の改善を目指していくことが必要である。

5）疾病予防看護学　2年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一、デッケルト博子、望月靖記

〈教育内容〉

一次予防に焦点を当て、ヘルスプロモーションの概念を理解し、各ライフステージに対応した生活習慣病等の予防・介護予防のための具体的な健康増進方策について理解することを目的に講義を行った。一連の講義では、ヘルスプロモーションの概念とその歴史を学習し、各ライフステージに対応した生活習慣病等の予防・介護予防のための具体的な健康増進方策について理解を促した。また、疾病予防に関わるヘルスコミュニケーションの展開方法について理解を促した。さらに、補完代替療法に関する講義・演習を取り入れ看護の幅広い知識を習得するよう努めた。今年度から新たにゲノムとヘルスプロモーションに関する項目を追加した。

次年度は講義内容について大幅な見直しを行い、学生の知識や最新のヘルスプロモーションに即した内容に変更していくことが必要である。

6）自立支援教育論　2年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一、デッケルト博子、望月靖記

〈教育内容〉

慢性疾患や障がいなどの様々な健康課題を抱えた対象に対して、課題解決に向けたセルフケア能力・自己効力感を高めるための理論を理解し、自立支援へとつなげる具体的な手法を理解することを目的に講義を行った。一連の講義では、健康課題解決に向けたセルフケア能力やセルフマネジメント能力を高める関わり方や自己効力感を高めるための理論の理解、自立支援へとつなげる具体的な手法について理解を促した。また、地域住民が自立して生活していくための健康教育を学生自らがテーマを設定し媒体作成および実演を行った。

本科目は講義と演習を組み合わせた形式の科目であるが、講義と演習のバランスにさらなる工夫をすることが必要である。

7）在宅看護学実習　4年次前期

佐藤潤、長島真由美、嶋谷圭一、浜崎曜子、デッケルト博子

〈教育内容〉

療養者・家族が安全に安心してその人らしい生活を営むために必要な保健・医療・社会福祉の連携や多職種との協働の実際を学び、地域包括ケアシステムの中の看護の役割と機能を考察することを目的として実習を行った。地域における療養者支援の実際から療

養者・家族と療養環境に対する理解を深め、健康・生活上の課題とその看護方法について学ぶことも目指した。

訪問看護ステーションでの 7 日間の実習では、訪問看護師や理学療法士・作業療法士のもとで、療養者・家族の健康・生活上の課題とその支援方法を学び、療養者・家族に対する看護の継続と安全性の確保について学んだ。

地域包括支援センターでの 1 日実習では、地域包括ケアシステムにおける保健・医療・社会福祉のそれぞれの役割と連携を学び、看護の役割と機能を考察させた。

担当教員および指導者が実習・カンファレンス等を通じて指導し、学生個々の実習の振り返りと学びの共有化を図ることで、実習施設の特徴や看護師の役割について理解を深めさせた。

次年度は学生が主体性をもって実習に取り組めるように学内での自己評価方法等工夫していく予定である。

（災害看護学コース）

【看護基盤学領域】

1. 教育方針

看護基盤学領域は、将来看護師となる人として必要な教養、知識のみならず専門にこだわらない広い視野に立った物の見方を学ぶために重要な分野の教育を担当している。同領域に所属する教員の出身学科は看護学科のみならず多岐に及び、その長所を生かして人間の生命を自然科学的、倫理学的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じる能力を有する看護師育成を目指す。さらに社会医学分野の講義や臨床検査学演習等を通じて、スキルミックスやチーム医療の重要性を教授することにも力点を置いている。

2. 科目名

1）自然科学の基礎：1年次前期 （災害看護学コース、臨床看護学コース）

小宇田智子、小野孝二、高木晴良

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。入学時点で、学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容を含むようにし、動画等を利用して理解しやすいように工夫した。また、学生の個別の質問に応じ、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。次年度も学生間で知識の差があると予想される。そのため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す。

2）臨床検査学演習：2 年次後期

高木晴良、小宇田智子、堀田昇吾、今井淳子、日高未希恵、伊東丈夫、伊藤豊

臨床検査の意義および基本原理を学ぶとともに、解剖生理や病態に関する理解を深める授業とした。組織学的検査、心電図、肺機能検査、血液検査、尿検査、放射線検査、染色体検査のそれぞれについて、実験・観察による授業を展開した他、病院の臨床検査部門および放射線検査部門を見学した。組織学的検査に関しては、顕微鏡の専門家を学外から非常勤としてお願いしているため、より教育効果の高いプログラムとなっている。なお施設の関係で、通常の演習は、3～5 限に立川キャンパスで 20 名ほどのサブグループに分かれて行うが、1 日は 1～5 限まで東が丘キャンパスで行っている。

3）医療・看護情報学の基礎：2 年次前期 （災害看護学コース、臨床看護学コース）

高木晴良

情報化社会と言われる現在、身の回りには様々な情報が溢れている。特に医療や看護の世界では一般の人とは異なる性質の情報に囲まれている。そこで、「看護職にとっての「情報」とは何なのか」ということを知り、その「いかし方」と「まもり方」の両方について学ぶ必要がある。この科目では特に「まもり方」を中心に解説した。

「医療・看護情報の特殊性を理解する。」「情報倫理と医療倫理を確認する。」「患者の権利を守るために必要な情報の取り扱いを理解する。」「チーム医療における情報ネットワークを理解する。」の 4 つを大きな目標として講義を行った。

また、毎回ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などに

ついて質問しやすい環境を提供した。なお、質問の回答は個別にメールで行った。

4) 公衆衛生学:2 年次前期

高木晴良

わが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含んでいる。また、環境と生活者の健康の観点から、環境汚染及び職業性疾患とその対策なども取り上げた。

公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学修することを目的とし講義を行った。

毎回ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。なお、質問の回答は個別にメールで行った。

5) ボランティア論: 2 年次後期

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子、渡會睦子

ボランティア活動に対する関心が高まり多様なボランティア活動が展開されている。このような現状の中で保健医療の専門職としてボランティア活動に対する理解を深めることが必要である。多様なボランティア活動についての理解を深めると同時に、医療・保健・福祉に関するボランティア活動の事例を通して、専門職としてのスキルを生かしたボランティア活動、ボランティアコーディネーションのあり方等を考察できることを目標とした。また、講義の一環として、立川市の活動などにボランティアとして参加した。

6) 臨床薬理学演習:2 年次生後期

今井秀樹、小川千晶

1 年次生で得た薬理学の知識をもとに、治療対象となる患者の状況(年齢、性別、生理的状態など)による薬物動態の知識、作用と薬効について理解させることを目標とした。主に、臨床現場で使用されている薬物の使用目的、作用機序、有害作用・禁忌などについて、随時、解剖生理学や疾病の成立ちの知識を確認しながら概説した。次年度は、臨床的な投与時の看護のポイントなどについても取扱い、より臨床に近い形での教育を目指す。

7) 看護研究の基礎:3年次前期

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子

EBNにおける看護研究の意義を理解し、倫理・安全面への配慮も含めた看護研究の進め方について講義した。

看護学における研究意義・研究で用いる用語・研究方法・倫理的配慮について理解するとともに、卒業研究の意義と、論文作成までの一連のプロセスで必要とされる基本的な知識を習得することを目的とした。

今年度からは、実際に自分が興味を持ったテーマに沿った和文献を検索し、グループでクリティークして、その内容を発表するという形式で行った。

8) 実用医療英語：3年次前期

高木晴良、堀田昇吾、今井淳子

英語論文の構造や医学英語に独特の表現などを理解することで、長文読解能力及び情報収集能力の向上を図るため、グループで英語論文を選択して読解し、その内容を発表するという形式の講義を行った。

「3年後期の卒業研究や英語論文のクリティークの際に役立つような基本的技術（英語論文の検索や長文読解力）が習得できる」ということを目標に、テーマ別のグループに分かれた後で、テーマに沿った論文を自分たちで検索し、グループ内で取捨選択するというプログラムを取り入れたため、文献検索等の方法が身に付いたようである。「英語論文の構造を理解する」という目標もおおむね達成できた。

9) 国際看護学：3年次前期

高木晴良、山田英子、三浦由紀子、堀田昇吾、今井淳子

進展するグローバリゼーションと健康問題との関連、世界の健康問題の現状や課題を知り、医療保健分野での国際協力のあり方や看護の役割機能について多角的に学ぶことを目的とし、グローバルヘルスやリプロダクティブヘルスの現状や国際協力・国際貢献の実際について学習し、今日的な課題について考える内容の講義内容とした。

実際の健康問題に関する健康指標を調べてグラフ化したり、教員の実体験をもとにした教材を用いたことで学生の関心が高まり、身近なこととして認知し、国際看護を考える機会となった。

10) 災害看護学Ⅱ：3年次前期

高木晴良、山田英子、三浦由紀子、堀田昇吾、今井淳子

災害時の防災・減災におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解し、災害発生～災害急性期、亜急性期～慢性期、回復～復興期　までの全ての過程での救護活動に必要なスキルや大規模災害時に国際的視野に立った活動ができるスキルを学ぶことを目標とした。さらに、NBC 災害（核（nuclear）、生物（biological）、化学物質（chemical）による特殊災害）に対する基本的知識・技術についても紹介した。

講義だけではなく、DMAT 関係者と協力して、「二次トリアージ(外傷初期治療・看護)シミュレーション」と「災害時の避難所設営と運営の留意点　避難所設営の図上シミュレーション」という演習を取り入れることで、実践力の育成につながったはずである。

11) 英語論文のクリティーク：3年次後期

高木晴良、各領域担当教員

卒業研究に向けて、英語の論文を批判的に読むことにより、卒業研究に関連する分野の最新動向を把握すると共に、研究活動における文献調査の意義を理解することが目標である。

各領域で、指定された英語論文や各自で検索した論文を精読し、卒業研究グループの中で、抄読会形式の発表と討論を行った。

12) 看護学統合実習：4 年次前期

高木晴良、各領域担当教員

本実習は、4 年次までに学習した全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合

した実習として位置付けている。看護実践能力の向上、看護を統合的にマネジメントするための基礎的能力の育成、自己コントロールと自己開発への課題の明確化を目的としている。
実習は臨地実習(90 時間)と災害看護学実習(45 時間)からなっている。

実際の実習に入る前に、自己の実習課題を明確にし、実習施設の特徴を理解した上で、各学生は実習計画の立案・実施・評価を行った。臨地実習は 4 施設で 7 月に実施した。臨地実習は「日勤看護師同行実習」「複数患者受け持ち実習」「看護マネジメント実習」「チームリーダー実習」「夜間実習」から構成し、チームの一員として病棟カンファレンスにおける問題提示も実習内容とした。

災害看護学実習は、国立病院機構災害医療センター、東京消防庁立川都民防災教育センターの2施設で行われた。トリアージ、外傷初期治療・看護、災害体験などが盛り込まれ、災害医療センターの DMAT メンバーから全面協力を得られたことで、臨場感のある実習になり、災害医療における看護職の役割機能について理解することができたはずである。

13) 卒業研究:3年次後期・4年次前期・後期

草間朋子、高木晴良、その他全教員

10 名程度のグループごとに、災害に関連する具体的なテーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを実践する。卒業研究を通して、臨床現場での看護研究のための基本的な方法論を習得することが目的である。

2019 年 11 月 2 日には、体育館において「2019 年度卒業研究発表会」が、3・4年生及び全教員参加の下、学会形式で行われ、学生同士の質疑応答も予想以上に活発に行われた。

各グループのテーマと構成メンバーは以下のとおりである。

○ 避難所における効果的な清拭剤の検討 ～温湯・重曹・竹酢清拭を比較検討して～
大野真依・小林圭輔・林茉里・天野優美・岡村侑香・古川雄貴・増田彩華・松沼晴菜・三好佑芽・村井七奈佳・湯地司

○ 被災者の手指衛生方法に関する検討 ～一般男子大学生を対象とした手指衛生物品の除菌効果から～
中島麻莉乃・上原彩菜・千葉瑶乃・大野夏澄・奥野真優・筧咲希・加藤菜々子・坂本奈穂・諏訪珠世・髙橋瑠美・千屋優里香

○ 乳幼児と養育者に対する防災プログラムの検討と課題
鈴木一成・中部美涼・井上貴裕・岡田真依・金子奈央・亀田純菜・栗原昂宏・小林沙紀・野澤早織・藤代沙希子・吉田真依

○ 車中泊における下肢挙上および弾性ストッキングの着用による睡眠の質の改善と、それに伴う疲労感の軽減
大瀧友佳・立川璃々南・岩村実香・片桐実愛・久保田瑠奈・園部優里・田川空・春山裕美・本郷純礼・宮内直樹・山村海斗

○ 首都直下型地震において帰宅困難者のオストメイトが必要とする一時滞在施設の備えの検討
佐野仁海・髙橋萌乃・須賀菜穂子・関口幸輝・髙野望結・髙橋萌子・長谷川歩実・秦江利果・畠山夏帆・久加奈・横山季里

○　妊婦が地震発生時から待機姿勢をとるまでの安全な移動動作の検討

石川莉菜・中澤純一朗・石黒桃子・小林彩加・嶋田空・白井希実・西村優美・二葉蓮美・三田歩佳

○　DMAT 看護師におけるメンターの有無と職業キャリア成熟との関連

今井宗紀・青木直・植松穂乃花・尾形有惟・嶋村璃奈・菅原菜央・戸塚千紘・中村純菜・藤田真花・三神遥香・谷古宇結那

○　高齢者の自然災害に対する情報的備えと自己効力感との関連

石坂望・安達晃生・井手美里・大澤央果・熊田優貴・榊原航・内藤仁美・中尾昌聖子・西谷侑里子・原ゆかり・峯岸千暁

○　在宅で生活している精神障害者における防災対策と防災意識の検討　－大学生との比較を通して－

中村早希・岩崎莉香・安真菜美・新井柚花・伊勢航来・久米朋志・齋藤鮎夏・鈴木進吾・髙橋絵里花・西野えりか・西山和希

【総合看護学領域】

1.　教育方針

アクティブラーニングの導入科目を積極的に増やし、本学のアクションプランの目標100%達成に向かって領域担当の科目は努力する。学生には自ら考える、考えさせる対応を工夫し、時々共有する。また、出来るだけ現実に近い形で知識の統合、判断の根拠、思考のプロセスを繰り返し、技術の実施、評価というPDCAサイクルを廻せるように支援する。また、チームの一員としてのセルフマネジメントの重要性も再確認する機会であり、臨地実習最後の纏めである。臨床への第一歩がスムーズに踏み出せるように 4 年間の纏めでもあり、社会への橋渡し的な位置づけである。学生には、実習病院の一つの病棟の全ての媒体を用い、必要な情報を主体的に収集し、計画し、実践し、評価していくプロセスを体験し、その重要性・大切さを認識させたい。

2.　科目名

1)　政策医療論：2 年次後期

山西文子、桑島昭文、渡辺真俊、武田純三

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、変化の激しい医療ニーズに答えていくための医療者の役割を考える。また、我が国において全国的に国立病院機構が担っている政策医療について、民間医療では担えない国としての不採算医療、国として責任を担う医療等についての認識を深め、今後の医療の在り方について考え方や対応を広く捉え、専門職業人としての考えや役割などを明確にする。日本の医療提供体制の変化、政策医療ネットワークによって展開する医療の実際、現代医療における諸問題などを講義により学び、初めて知る我が国の医療の実態を数字で分析的に学び、安全・安心な医療の提供体制が超高齢化社会によって医療費が高騰し、脅かされる状況も生じていることも理解し、どのような社会が良いのか、医療がどうあれば良いかを個人的にも考えをしっかり持つことを狙って、発表し、ポイントをつかむよう意見交換した。

2)　看護管理学：3年次後期

山西文子

日本における医療の歴史的経緯と現状および課題を理解し、医療ニーズに応えていくための医療

者の役割を考え、また、日本において国として全国的に医療展開している国立病院機構の医療の現状や組織的な政策医療ネットワークのあり方の現状の特徴と課題を理解し、今後の我が国での医療のあり方はどうあれば良いか、専門職業人として考えを明確にし、このような状況下での看護職の役割はどのようにあれば良いか思料する。
そのため医学・医療の変遷および日本の医療・看護の動向を講義し、変化が激しい医療提供体制の特徴や課題を明確に認識するように、現実的にイメージが出来るよう実際の施設の例を挙げながら動機づけしてきた。自己の考えをレポートとして提出して貰ったが、4年生としてしっかりした考えを持っている学生も居ることが解った。総合看護学実習の導入的な内容で、スムーズに実際に繋がった。

3)　NP 論（選択科目）:　4 年次前期

草間朋子、山西文子

本学大学院においては、高度実践看護（NP）コースを開設しており、NP に関心を持っている学部学生が多いことから開設した科目である。1 学年の殆どが本科目を選択し、授業にも積極的に参加した。前半は我が国における NP 教育の実態及び世界各国における NP 教育・役割・活動の実際について概要を講義し、その後は我が国において大学院 NP コースを修了し現場で活躍している NP の方々に活動の実際を話して貰い、後半の 30 分の時間を質疑応答の時間とした。毎回クラス全員が発言し積極的参加型の授業にした。本授業では、クリティカル NP、プライマリ NP、麻酔 NP 等、活動の場もバラエティに富み、看護師としての活動の実際がとても興味深く、最後まで充実感を味わえた。関心が高い学生が選択し、入学して以来このような授業は始めてである。将来はNPになりたいと希望する学生も数名いた。良い反応が多く聞かれた。また、講師であるNPもこの機会を通して自分の実戦を振り返り、整理することの重要性を学んでいる。

4)　看護政策論（選択科目）　4年次前期

草間朋子、山西文子

看護行政等に関心の高い学生の選択者は1名のみであり開講しなかった。
2人の国会議員による基礎的な知識と実際の政策決定過程に携わった実践編の講義を拝聴した。大学院生も特別に参加し、活発な質疑が交わされた。

【基礎看護学領域】

1.　教育方針

看護について様々な視点から学び、看護師を目指す構えができることを目標とする。さらに、平時のみならず災害時に必要となる基本的知識も含めた内容を教授する。講義と演習を通して看護行為の意味づけを各自が考え、知識と技術がリンクできる教育構造を構築すると共に、実習の場を通し、振り返り自ら考え、今後の学習の必要性を理解し、継続的な自己学習ができる学生の育成を教育方針とした。次年度も、「健康上の問題を持つ人の基本的ニードの充足を目指した看護」を理解できることを看護基礎教育の基盤に置く。 また、学生が看護の視点での観察力と他者理解の重要性が育成できるよう、基礎の各科目をリンクさせた思考の構築を目指す。更に、講義・演習で習得した知識と技術を実習の場を通し、自己を振り返り、これからの学習の必要性を理解できる意欲的な学生の育成を目指す。

2.　科目名

1）看護学概論：1年次前期

岩満裕子

「看護とは何か」を考えるに当たり、看護の歴史、日本における健康に関する認識と医療の変化・発展、及び法律を含めた政策の変化など時代の流れの中で、理解することを通して、考えられるよう講義内容を構築した。看護の基本概念である「人間、健康、環境とは何か」について、ナイチンゲールとヘンダーソンを中心とした考え方やその理論家の生きた時代背景を含め、看護の変遷が理解できるように講義した。ヘンダーソンに関しては、看護過程展開時に繋げられるように教授した。看護の喜びが感じられるように具体的な事例も含めるとともに、平常時と災害時の違いも含め講義内容を構築した。次年度は、看護学の豊かさや奥深さをイメージし、専門看護学への興味と感心を高められることを目的として教授していく。

2）看護倫理：1年後期

岩満裕子

倫理的問題は、1年生には何が倫理的問題なのかを理解することが困難である為、身の回りで起きている事象を取り上げ、事例を中心に倫理的問題とは何かが理解できるよう教授した。倫理的問題を理解したうえで、基本である世界医学界宣言と看護師の倫理綱領の内容が理解できるよう読み砕き、倫理観が深められるように実施した。医療倫理に関しては、トム・L・ビーチャムらの記した「生命医学倫理」を活用し、事例を取り上げ倫理的問題がどこにあるか考える時間とした。倫理的問題の解決法としては分析ツール（JONSEN の窓、4 ステップモデル）を説明し、実際に事例分析を個人で検討後、グループワークにて分析することで、医療における倫理的問題の検討すべき視点を教授した。最後は、各自が災害時に起こりうる倫理的問題事例を提示し、自分の倫理的判断を明示することを課題とて評価した。次年度は、今年度同様、医療における倫理的課題の事例を多数読み砕くことで理解できるように教授し、倫理問題を検討するための医療倫理の視点教育を実施する。

3）看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断）：1年前期

福島芳子、岩満裕子、栗林好子、松山妙子、山田泰子、田中悠夏（非常勤講師）

科学的根拠に基づく看護技術の基本的な知識や特徴を理解し、さまざまな状況にある人間の生活過程を整えるために必要な看護技術を学ぶ。看護実践において対象の日常生活にかかわるニーズを判断し、人間の尊厳や権利の擁護、安全・安楽に配慮しながら援助を実施するための基本的知識・技術・態度を学習することを目的とした。演習では、事前に講義の復習とナーシングスキルの視聴、技術の手順の根拠や留意点について自己学習を行い、技術内容をイメージし、演習に臨むよう指導した。演習時に自己学習内容を活かし技術への理解を深められるよう、教員は解説を付けたデモンストレーションを実施した。実技練習では、教員から個別に技術の要点や実施上の留意点の確認、患者への配慮について指導を行った。適宜グループワークを取り入れ、討議や発表をすることで学生相互の学びを深めるように進めた。演習終了後は、各自が根拠・留意点を振り返り学びを整理し、講義内容と統合することを目指した。次年度は、教員デモンストレーションではなく、各自が検討しながら実施検討する演習内容とする。

4） 看護実践技術論Ⅱ（治療・処置における援助技術と判断）：1年後期
福島芳子、岩満裕子、栗林好子、松山妙子、山田泰子

治療・処置における援助技術は医療現場に必須の看護技術であり、看護専門職としての自律的判断を要し、より高い倫理性と正確性、安全性が求められる。そのため、講義では診療の補助の意義と看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について教授し、演習では講義で得た知識を活用して根拠を明記した手順書を作成してから実践できるような構成とし、演習中もグループワークを取り入れながら、知識と技術が統合できるよう工夫した。技術項目は、無菌操作・排泄障害に対する処置・与薬の技術・注射の技術とその管理を実施した。次年度は、診療の補助技術を提供するときに、特に患者への配慮と安全性を重視した講義・演習とする。技術に関しては、演習時間外の自己練習時間が確保できる体制を整えて実施する。

5） 看護実践技術論Ⅲ （看護技術の統合）：1年後期
福島芳子、岩満裕子、栗林好子、松山妙子、山田泰子

さまざまな状況にある人間の生活過程を整えるために対象の日常生活に関わるニーズを判断し、対象の個別性に応じ、既習の日常生活援助に関する知識や技術を統合・活用して、最善の看護を実践する意義と方法を学ぶことを学習目標とした。

講義では清潔援助に関する基本知識を教授し、さらに事例を用いて、対象のニードを判断し、個別性、安全・安楽、及び倫理的配慮を考慮した看護援助を実施できることを到達点としたグループワークを行った。グループワークを通して、患者の個別性に配慮した援助内容・方法の工夫と援助計画の立案、看護技術の原則の個別性への適用方法について、思考を深化させるために、看護過程と看護方法論での事例を用いて援助計画の検討を実施した。それにより援助の実施と評価を体験することで、患者の反応を捉えることや援助を評価することの意義を学び得ていた。次年度以降も、日常生活援助の知識と技術を統合する力と、対象の個別性に応じた援助方法の実施とその意義の習得に向け、講義・演習内容を他の教科目とリンクさせて検討していく。

6）ヘルスアセスメント：1年前期
福島好子、岩満裕子、栗林好子、松山妙子、山田泰子、筑後幸恵（非常勤講師）、田中悠夏（非常勤講師）

対象の健康問題を把握するために必要な基本的看護技術となる観察、コミュニケーションの基本技術、バイタルサイン測定では実習病院で使用するアネロイド血圧計も用いて技術を教授した。また、バイタルサイン測定によって得られた情報は、対象を系統的かつ包括的にとらえ、看護介入を判断する根拠となることを教授した。 バイタルサインから判断する看護援助の演習では冷罨法を実施し、対象とのコミュニケーション技法や効果的な体温調節の援助方法を検討し、主観的情報と客観的情報による評価の視点も含め教授、後期の看護過程と看護方法論につながる学習としたことは看護展開における情報収集と評価の視点につなげることができた。次年度は、形骸的なバイタルサイン測定にならないように根拠と目的を理解し、実習につなげられるように測定後の報告内容を網羅した演習を組み立てる。

7）フィジカルアセスメント：1年後期
岩満裕子、福島良子、栗林好子、松山妙子、山田泰子

看護判断する上で最も基本となる看護師として必要なフィジカルアセスメントの知識と技術について、運動系・感覚系・中枢神経系・循環器系をそれぞれ系統別に教授し、具体的な臨床でよく見る疾患の特性を重視するとともに、国試対策も見据えて講義内容を構築した。更に、臨床現場ですぐに必要となる知識と技術を中心に講義内容を組み立てると共に、学生がフィジカルアセスメントに興味を持つように人体の反応や誰にでも聞き分けられる聴診及び打診について教授した。肺と心音の聴診については、健康人の聴診は学生間で聞き分けられるよう実施し、疾患を伴った聴診については、モデル人形の肺音と心音を用いて演習を実施した。災害時や急変時の対応についても最終回で教授した。次年度は、今年度同様に実施するが、疾患を持った患者を総合的に観る視点が体得しにくい学生が多いことが実習を通し、判断できたので、次年度は、実習で役立つフィジカルも取り入れた教育内容とする。

8)看護過程と看護方法論:1 年次後期

岩満裕子、筑後幸恵(非常勤講師)、福島芳子、栗林好子、松山妙子、山田泰子、

看護の対象となる人々の個別性や状況に応じ、専門的な知識を用いて看護を実践するための方法である看護過程について、その概要と意義を理解し、看護実践における看護過程の展開に必要な基本的な知識・技術・態度について教授した。ひとつの事例を通し、ステップごとに事前に事後学習を主とした考える学習とした。事前に検討したことを共有し、教員が補足説明する形式で進めることで理解を深めることを狙いとして実施した。記録についても実際に SOAP での展開を行い、実習で活用できる内容としたことで、学生の記録に関する理解高まり、記録に対する負担も軽減できたと実習指導教員からの評価を得、看護過程展開方法に関する理解も高まっていたことが実習評価から判断できる。さらに、患者事例を用いてグループワーク・発表を行い、看護過程展開の知識・技術の定着を図った。次年度も看護過程に関する基本的知識・理論の習得を図るとともに、看護過程の実践力獲得に向け、講義内容を今年度同様な形態で検討していくとともに、今年度、関連図に関する講義が不十分であったため、看護の視点からの関連図が理解できる講義を検討していく。

9)看護学体験実習:1年次前期

岩満裕子、福島芳子、栗林好子、松山妙子、山田泰子、今井淳子、大場久美、小川賀恵、
田中悠夏(非常勤講師)

座学で学んだことを実際の医療機関で見学実習を通し医療機関の理解を深める実習とした。独立行政法人国立病院機構災害医療センターの 9 病棟と村山医療センターの 6 病棟、計 15 看護単位に学生を配置し実習を行った。医療施設がどのような機能を保有し、如何なる能力を持った職員が、患者に何を提供しているのか、病院の機能と形態について実際に見学し、各部門で働く職員の方や看護師長から直接説明を聞き、病院組織の理解が深まり、病院は様々な専門職種の人たちの力で成り立っていることを学ぶ機会とした。更に、病院という環境と患者、看護師の役割、健康とは何かを考えられるように1人の看護師さんと共に行動することを通して学び、学生同士で感じたことを話し合う場を持つことでお互いに理解を共有できるよう実施した。次年度は、更に、実習施設側と目標の共通理解を深める検討の機会を持ち、病院という環境への理解が深まると共に、今後の実習に役立つ知識や看護師を目指す意欲に繋がる実習とする。

10）日常生活援助展開実習：1年次後期

岩満裕子、福島芳子、栗林好子、松山妙子、山田泰子、三浦由紀子、折元美雪、吉田亜希子、苅田明子、武田智晴、篠崎真弓、今井淳子、大場久美、小川賀惠、手嶋智子（非常勤講師）、上平明美（非常勤講師）

独立行政法人国立病院機構災害医療センターの 9 病棟と村山医療センターの 6 病棟、計 15 看護単位に学生を配置し実習を行った。日常生活援助の必要性を座学での学習を基盤に、実際の患者 1 人に学生 2 人を配置する体制で実施した。受持ち患者には、何が必要な援助であるかアセスメントし、実際に、学内で練習した日常生活援助技術を用いて実施し、自分の判断や提供した技術を振り返り、今後、如何なる学習が自分に必要であるかを考える実習とした。昨年度、患者サイドに行かない学生やコミュニケーション面での問題があったことを踏まえ、実習前に、模擬患者演習を学内で実施し実習に挑んだ。演習は効果があり、ベッドサイドへ行くことはできており、バイタルサインや記録面でも記録用紙を変更したことも影響していると考えるが教育効果が見える実習であった。学生は実習を通して技術練習の必要性と疾患やフィジカルアセスメント能力を身に着けることが今後の課題として意識できた実習であった。次年度の課題は指導者への報告方法だと考えており、学内のヘルスアセスメントの演習を活用し学生が苦手な場面への教育を検討していくこととした。

11） 看護過程展開実習：2 年次前期

岩満裕子、福島芳子、栗林好子、松山妙子、山田泰子、折元美雪、三浦由紀子、吉田亜希子、武田智晴、今井淳子、苅田明子、大場久美、小川賀惠、田中悠夏（非常勤講師）、菅野由貴子（非常勤講師）、藤波祐哉（非常勤講師）

独立行政法人国立病院機構災害医療センターの 9 病棟と村山医療センターの 6 病棟、計 15 看護単位に学生を配置し実習を行った。入院患者を受持ち、看護過程を展開することを通し、看護の対象である人間を統合的に理解し、個別性に応じた看護を実践するための基礎能力を身に着ける目的で実習を行った。今年度は、学生の履修状況と本実習で目標とするレベルの臨床側との共通理解に向けた説明等を実習説明会および連携会議で共通理解できるように試みた。事前学習として病棟別の疾患については病棟毎に調べ、実習に臨んだが、昨年同様に、臨床側の学生に求める疾患的知識が高いことによる問題が生じた為、次年度は、臨床側との連携を密にし、教育体制を整えていく。次年度は、学習した期間から実習までが 3 か月以上空いてしまうため、実習前の教育時間を確保し、記録記載方法と指導者への報告方法について再度、学習させ、実習が学生の負担にならないための計画を検討することする。更に、日常生活援助の実践力を修得できるよう学内の自己学習課題を再検討し、手順を体得させ実習に臨むことを目標とする。

12）看護理論：2 年次生後期

岩満裕子、福島芳子、栗林好子、松山妙子、山田泰子

看護理論とは何か、理論の概念枠組み、構造を理解するとともに、看護実践における理論の活用方法について具体的事例をあげ、看護の展開にどの様に理論的視点が盛り込まれているのか教授した。災害看護の視点から、異文化理解の視点を持つレイニンガーを含め 9 名の理論家を中心に教授した。グループワークでは、自分たちで興味ある理論家を選び、プレゼンテーションを行い理解が深まるよう全体討議した。最終レポートとして、学んだ 9 名の理論家について、理解したこ

とをまとめる作業を行うことで様々な理論が理解できるよう組み立てた。次年度は、理論の分野で著名な筒井先生の講義も入れ、理論に興味が持てるように構築していく予定である。

【成人・老年看護学領域】

1. 教育方針

本領域は青年期から人生の統合期である老年期までの長く、変化の大きいライフサイクルにある人々を対象としている。対象を理解する上では、「生活する」という人間的側面に関心をよせ、各発達段階における個別性・多様性を理解できる教育を目指している。また、超高齢社会の到来を見据え、医療・保健・福祉の潮流に即した内容を講義、演習に取り入れ、社会に求められる看護を提供できる知識・技術の修得を目指している。そして、臨地実習では発達段階、健康障害のレベルに応じて必要な看護援助を実践できる能力だけでなく、専門職として求められる姿勢、態度、倫理教育にも力を入れ、看護職としての自律性の育成を目指している。

2. 科目名

1) 成人看護学概:1 年次後期

福田淑江、藤村朗子、櫻井敬子

成人期というライフサイクルにある対象の発達特性、健康特性、健康問題を理解し、成長発達を促進・阻害する要因を理解するともに成人各期の健康の保持・増進のための看護を学ぶことを目標とした。成人期にある対象を生活者としてとらえ、成人への看護のアプローチとしては、行動変容モデル、人間関係モデル、エンパワメント、チームアプローチの視点で構成した。

また、健康段階別の各期の特徴と健康段階別の各期の関連性について教授し、急性期看護論、慢性期看護論、終末期看護論への導入とした。成人各期における健康問題については、職業、生活習慣、ストレス側面から教授し、先端医療と看護についても教授した。また、在院日数の短縮、医療連携が進むなか、療養の場の多様化に伴う移行支援について教授した。

2) 慢性期看護論:2 年次前期

櫻井敬子　岩渕起江

慢性期看護論では、慢性疾患の特徴をふまえ、対象を病とともに生きる生活者として捉え健康の段階に応じたライフスタイルの再編成を促す必要性と、セルフマネジメントを高める援助を理解できるように促した。疾患に関連する解剖生理、病態生理の事前課題を提示し、講義内容にも解剖生理、病態についての内容を設け看護と関連できるよう工夫した。また、今年度より慢性疾患を持つ対象の災害時の備え、災害時の対処をあわせて教授した。

人生の最終段階にある対象の看護では、がんの主な症状とその看護についてがん看護専門看護師を招聘し授業をおこなった。またがんおよび非がん患者と家族の多様なニードを捉えるために、DVDを活用しエンド・オブ・ライフの視点を強化する取り組みを行った。昨年課題であった講義内容の時間配分の是正をおこないバランスをとることができた。今後も臨地実習の経験の浅い学生に、対象理解に繋がる教材を活用し教授する。

3) 急性期看護論:3 年前期

藤村朗子、三浦由紀子、苅田明子

急性期看護の基本概念、ストレス理論や危機理論など看護理論、疾病や侵襲的治療によって

生命危機状態にある患者・家族の特徴について教授した。学生の理解促進のために事例を用いて原理や概念に関連付けて講義を行った。また、急性期治療や看護に携わる医療チームの連携や機能に関しても教授した。後半の講義では、手術療法を受ける成人患者・家族の把握とその方法ならびに必要な具体的な看護について講義を行った。解剖生理、病態生理、治療を踏まえた個別性のある看護が学修できるよう、事例や臨床場面のエピソード、視覚教材などを取り入れ臨床現場を学生がイメージできるよう講義を展開した。最終講義では、急性期医療における倫理的課題について教授した。次年度も臨床現場とのギャップが生じないよう、最新の標準化されたガイドラインや先端医療についても教授し、科学的根拠に基づいた看護実践を意識化できるよう、理論を実践に結びつけて有機的に学修できる授業を展開していく必要がある。

4) 成人・老年看護実践論:3 年次前期

藤村朗子、櫻井敬子、岩渕起江、折元美雪、三浦由紀子、苅田明子、大場久美、福田淑江

前半の講義では、成人・老年看護学に必要な講義・技術演習を行った。後半の講義では、各健康レベルや老年期患者事例(計 4 事例)の看護過程展開を演習形式で行った。看護過程の講義、グループディスカッション、看護計画発表会、看護計画に基づいた看護実践演習(4 年生模擬患者、看護師役)、デブリーフィング(4 年生参加)、学修発表会で構成した。演習後は、演習参加度などレポート提出を事後課題として提示することにより、課題に対して学修を深められた。さらに課題提出後、教員指導により課題内容について理解を促進できた。学生の到達度評価、教員評価より学修目的・目標について概ね達成することができた。グループ学修が主となるため、グループダイナミクスによって参加度に差異が生じないよう指導体制や学習環境の調整を図る必要がある。次年度も実習を見据えたリアリティのある演習計画と問題解決能力を養える授業構成を検討していく。

5) 成人看護学実習Ⅰ(急性期):3 年後期

藤村朗子　三浦由紀子　苅田明子

急性期にある患者およびその家族を多角的に理解し、心身の危機的状況下から生活機能の回復、社会復帰に至るまでの生活過程を整えるために必要な基礎的な看護実践能力を修得することを目的とし、国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の 2 施設で実習を行った。急性期の特徴を踏まえ受持ち患者とその家族の置かれている状況や生命危機からの回復に必要な知識、技術を修得できた。指導者と密な連携を図り、大学・臨床と一貫した指導を行うことで、学習環境の整備や効果的な学習を促進することができた。在院日数短縮化により、看護過程展開のスピードが加速している。学生が急性期患者の特性を理解し、患者に適した看護実践ができるよう教授法や教育ツールを検討していく必要がある。次年度も臨床と効果的な実習指導のあり方を検討し、社会の変化に対応した実習指導を行っていく。

6) 成人看護学実習Ⅱ(慢性期):3 年次前期

櫻井敬子　苅田明子　三浦由紀子　大場久美

慢性疾患を持つ対象の健康障害に適応する能力の維持・増進に向けた援助をするための基礎的な看護実践を修得することを目的とし、国立病院機構災害医療、国立病院機構村山医療センターの 2 施設で実習を行った。前年度より施設の退院支援看護師による退院支援カンファレンスとディスカッションを行っている。実習期間の中間で実施することで退院または転院に向けた患者の生

活の側面が明確になり、対象を具体的に生活者として捉える思考に繋げることに効果がみられている。また、個別に多職種カンファレンスに参加する機会もあり、看護師の役割についての理解の一助となっている。今後も、多様化する慢性的な健康障害をもつ患者・家族の継続的な医療・看護の理解を深めるために、臨地実習指導者との連携を図り多職種カンファレンスに参加できる環境を整えていくことが課題である。

7) 成人看護学実習Ⅲ(終末期):3 年次後期

岩渕起江　藤村朗子　櫻井敬子　三浦由紀子　苅田明子

人生の終末を生きる対象を全人的に理解し、対象の置かれた状況に応じた援助の実際を学ぶ。また、対象の苦痛を緩和し、よりよい日常を送るための支援に必要な看護実践能力の基礎を修得することを目的とし、国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院の 2 施設で実習を行った。終末期イコール臨死期といった先入観を持たないよう、疾患や病気を限定せずいつかは来る死について考える人がどう生きたいかについて支えていくといったエンド・オブ・ライフケアの視点を持ち、患者の尊厳に配慮した看護が実践できるよう指導した。臨死期の看護や死後のケアを実践した学生の学びは、カンファレンスで情報を共有し、自己の死生観について他者と議論する中で学修することができた。次年度もエンド・オブ・ライフケアの視点を取り入れ、病棟と連携した指導を継続して行く。

8) 老年看護学概論:1 年次後期

福田淑江、岩渕起江

人生の統合の時期にある高齢者をライフサイクルの視点から全人的にとらえること、高齢者を取り巻く環境の理解、健康障害を持ちつつもいきいきと生きる高齢者の健康な生活をサポートするヘルスケアシステムと看護を学ぶことを目標とした。

高齢者の QOL に大きく関わる介護予防については、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイルなどによる身体的、心理的、社会的変化をもとに、ヘルスプロモーションの視点で教授した。また、地域包括ケアシステムの構築が進められる中、高齢者の生活・療養の場の多様化に伴い、それぞれの場で求められる看護と場と場をつなぐ退院支援、生活の自立に向けたリハビリテーションについて教授した。次年度については、活動的な老いを含めた高齢者の多様性、高齢者を支える制度、権利擁護については、リアリティのある情報媒体を積極的に用い、グループディスカッション等を通して理解を深めたい。

9) 老年期看護論:2 年次前期

福田 淑江、岩渕 起江、折元 美雪

高齢者に特有な症候・疾患については、国家試験出題基準に対応できるよう内容を拡充した。また、2 年次前期の科目であることを踏まえ、既習の解剖生理学を想起させるよう DVD の活用等理解を深めるよう工夫した。今年度、エンド・オブ・ライフケアについては、多死社会、看取りの場の多様化の中で、その概念の理解とエンド・オブ・ライフケアを見据えた高齢者の看護の基本について、慢性期看護論の終末期看護との順序性を考慮し、老年看護実践論へと移行した。そして、災害発生時に被災を受けやすい高齢者の脆弱性を理解するために、高齢者の災害関連死、災害関連疾患等の健康障害の発生を予防する看護を中心に(1 コマ)講義した。今後、超高齢社会の進展、認

知症高齢者の増加が見込まれる中、様々な健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護については、倫理的視点を重視していく必要がある。

10） 老年看護実践論:2 年次前期
岩渕起江　福田淑江　折元美雪　大場久美

加齢による生活機能障害に対する高齢者への援助技術、老年期の健康障害と症状経過の特徴に応じた看護過程展開の能力を修得することを目標に講義・演習を行った。加齢による高齢者の身体的変化が日常生活動作や精神面へ及ぼす影響を学習するため、初期に高齢者の疑似体験を実施し、以降の講義において高齢者の特徴を想起できるよう工夫した。レクリエーションの演習では、ヘルスプロモーションの視点での内容を企画・実施した。このレクリエーションは 2 年次後期の老年看護学実習Ⅰにおいて実際に施設で実施することを想定した演習を展開した。認知症の看護では昨年の課題であった臨床での具体的な看護実践を教授できるよう、本年度は認定看護師を外部講師として招聘することができた。
次年度は同時に講義を展開している老年期看護論との調整を図りながら、老年期にある人々を多角的に理解できるような講義を目指したい。

11） 老年看護学実習Ⅰ:2 年次後期
岩渕起江　福田淑江　折元美雪　大場久美

本実習は高齢者センターおよび介護福祉施設等において実習を行い、施設を利用している高齢者とのコミュニケーションや援助の見学を通し地域で生活する高齢者について理解する実習である。実習中に学内日を設置し学び統合と共有を実施し、高齢者の生活史や価値観を理解することにより、高齢者に対する理解の重要性と難しさを学修できた。
高齢者センターでは自宅で自立した生活を送っている高齢者と接する機会となった。レクリエーションの実施においては、高齢者の様々な特徴を考慮し企画の段階において高齢者のフレイルやサルコペニアの学習強化も並行して進めた。また本年度はレクリエーションの物品を充実させることで学生が企画段階から積極的に取り組むことができていた。介護老人保健施設、介護福祉施設等では各施設における看護師の役割について理解を深めると共に、地域で通所・入所サービスの実際、認知症高齢者のコミュニケーションの方法、他職種の連携、について学修できた。
次年度は学内日が 1 日減であるため、各グループの実習進度を考慮した学内実習内容のさらなる検討と高齢者センターのレクリエーションのリハーサルに当日担当の教員が出席できるような配置を検討していく必要がある。

12） 老年看護学実習Ⅱ:3 年次後期
福田淑江、櫻井敬子、岩渕起江、折元美雪、大場久美

高齢者への畏敬の念と理解を深めるとともに健康障害をもつ高齢者の援助の実際を学ぶこと、病とともに生きる高齢者を全人的にとらえ、健康回復の促進につながる基礎的な看護実践を学ぶことを目標に、国立病院機構災害医療センター、国立病院機構村山医療センターで実習を行った。健康障害とともに加齢による変化をふまえアセスメントし、高齢者の生活機能の維持、回復に向けた援助を実践する上で高齢者の多様性、個別性に加えて、科学的根拠に基づいた実践について強化した。また、高齢者の健康障害リスクについてアセスメントし、予防する看護として生活リズムを

整えることの重要性についても理解が深まるよう教授した。
次年度に向けては、いずれの健康レベルにおいても、加齢による変化をふまえ的確なアセスメントから科学的な根拠に基づく実践につなげたい。さらに、高齢者の健康問題の解決になくてはならない医療チームとの連携および退院に向けた社会資源の活用に対する理解を深めたい。

13) 医療安全学:3 年次前期
福田 淑江、岩渕 起江、堀田昇吾、外部講師(感染管理認定看護師)
ヒューマンエラーの特性を前提として、医療安全に関する国・医療施設におけるシステム、看護実践におけるリスクとインシデント報告制度の意義・活用および事故事例の分析を通して、事故防止対策と看護師の役割についての理解を深めた。また、放射線に関する検査・治療が増加傾向にある状況を踏まえ、放射線業務と医療安全についての講義を継続した。
医療安全における感染管理については、前年度同様に臨床の感染管理認定看護師に授業を依頼し、視聴覚教材、事例検討を通して、感染管理対策における看護師の役割の重要性、職業感染防止に対する理解を深めた。さらに、看護学生として臨地実習において安全な看護を提供するための自己課題についてのレポート改題に取り組むことにより 3 年次の各論実習おける医療安全に関する意識の醸成を目指した。

【小児看護学領域】

1. 教育方針

あらゆる発達段階および健康状態にある子どもと家族を理解し、小児看護が実践できる能力を養うことを目的としている。小児各期の子どもとその家族やそれらに影響を与える社会的環境も含め、小児看護学として位置づけ、「小児看護学概論」、「小児看護実践論」および「小児看護学実習」の科目で構成している。

2. 科目名

1)小児看護学概論:2 年次後期
久保恭子
小児各期の成長・発達理論とその評価方法を学び、小児医療の歴史的変遷、倫理、理念および機能を学び、現代の小児看護の役割と課題を明確にすることを目的とした。
講義・演習内容は小児各期の成長・発達段階等について小児看護に必要な理論、現代の小児看護・保育の重大な課題である子どもの虐待・発達障害・食物アレルギー、子どもの移植医療や子どもと家族を支える法律、施策についてである。昨年度の課題として、子どもの権利と看護に関する学習の強化があった。今年度、海外での小児心臓移植の体験者の話を計画した。講演後、学生から多くの質問が出て、小児看護や移植医療への関心の高まりがうかがえた。

2)小児看護学実践論:3 年次前期
久保恭子 宍戸路佳 武田智晴
小児看護学概論等で学んだことや健康な子どもの理解を基盤に、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響の理解及び健康障害のある子どもと家族がセルフケア能力を高め、ウェルビーイングの実現を目指した看護をするための基礎的知識と援助方法が学べるように講義を中心に、一部グループワークをとりいれ実施した。少子化社会の中、子どもと関わったことがない学生や子ども

が苦手な学生もいるため、動画、写真を用い、ビデオや実際の話をすることで子どもや家族のイメージが少しでもできるように講義を行った。
来年度に向けて、小児看護の基礎的なところは引き続きおさえながらも、現在の小児看護を取り巻く情勢や実践（実習）につながるように講義の内容を見直し、より学生が興味をもち学べるようにしたい。また、小児看護過程についても時間やペーパーペイシェントのため限界はあるが、子どもの成長発達とともに、子どものフィジカルアセスメントの視点をもって、より対象にあった看護実践を考えていけるようにしていきたい。

3)小児看護学実習：3 年次後期
久保恭子　宍戸路佳　武田智晴
　病院あるいは家庭で療養・生活している子どもと家族の健康上の問題を解決するための援助を通して小児看護に必要な知識・技術・態度を学ぶことを実習目的とした。子どもと関わったことがないあるいは子どもが苦手という学生もいる中、子どもや家族のベッドサイドへ行き、関われるようにした。その上で、対象のアセスメントを行い、対象理解が深められるようにし、子どもの成長発達、個別性に応じた看護実践につなげられるようにカンファレンスや個別指導をとおして支援した。また、実習指導者とも連携し、学生の理解進度に応じて看護の方向性が異なることがないように調整を行い、対象理解をするうえで、必要であれば、他職種の方の意見や講義をうかがう機会を設けた。
保育園実習では、子どもの成長・発達の実際と適切なかかわりなどについて子どもの姿を知り、子どもの理解を深め、地域における子育て支援の必要性が学べるように支援した。
今年度、子どもの成長発達の側面や子どもや家族の心理面に注目することが多く、フィジカルアセスメントの視点が弱かったため、次年度、強化し、対象の理解を深めていけるようにしていく。

4)看護教育：4 年次後期
久保恭子
　日本の看護教育の変遷、諸外国と日本との看護教育の相違について、看護師としての生涯学習の必要性について教授を行った。看護教育が社会情勢によって影響される時代があったこと、今後の社会のニーズに合わせて看護教育の有様も臨機応変に対応することが求められること、看護職としての責務を果たすためには生涯学習が必要であること、キャリアアップのための制度等がわかるように心掛けた。

【母性看護学領域】

1.　教育方針

　母性看護学では、女性のライフステージ全般にわたる健康の諸課題をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から幅広く理解し、看護を実践する上で基盤となる知識を修得する。看護実践力の育成をめざし、妊娠・分娩・産褥・新生児期の母児とその家族を対象に、健康を維持・増進するために必要な支援方法を修得することを目的としている。母性看護に関心を持ってアクティブに学習に取り組めるよう、学習目標を明示し、グループ討議やフィールドワーク等を適宜取り入れて授業を展開した。
科目は母性看護学概論、母性看護学実践論、母性看護学実習から構成している。

2.　科目名

1) 母性看護学概論: 2 年次後期
衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子
本科目では、女性の性と生殖に関わる健康をリプロダクティブヘルス・ライツの視点からとらえ、母性各期における援助法および母性看護の役割について認識を深めることを目的とした。プロダクティブヘルス・ライツ、セクシュアリティ、母性看護の対象、ライフサイクル各期の看護、母子保健統計の動向、母性看護の法整備等について教授した。
女性のライフサイクル各期の健康課題と看護について、具体的な学習テーマを提示した。グループワークを経て全体発表で学びを共有した結果、講義内容との関連を踏まえ、理解が深められた。母性看護への関心が高まるよう、課題レポートを課し個別学習を促した。立川市子育てひろばにおけるフィールドワークや妊婦体験学習を導入した結果、積極的に取り組む学生が増加した。

2) 母性看護学実践論 3 年次前期
衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子
本科目では、妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある母児とその家族を対象に、健康を維持・促進するために必要な支援内容を理解し、援助の方法を学ぶことを目的とした。授業は、講義と演習で展開した。講義では、妊婦事例や産後の母児事例を作成して提示し、妊娠経過に伴う身体的・心理社会的変化が具体的にイメージできるように工夫した。
演習は、基本的看護技術の修得と看護過程の展開で構成した。看護技術の教授では、演習での指導後に、80 点を合格ラインとする技術テストを全員に実施した。前年度に教員が検討し自作したスキルを習得するための動画、「褥婦の健康診査」「新生児の健康診査」「沐浴」を視聴しながら練習する方法を導入した結果、技術の修得が高まった。看護過程の展開についての学習では、紙上事例に対する事前の個人ワークを経てグループで討議した結果、アセスメントの視点と情報の関連づけへの理解が前年度よりも深められた。

3) 母性看護学実習:3 年次通年
衣川さえ子、黒澤範子、吉田亜希子
実習では、妊産褥婦および新生児とその家族の健康課題を査定し、健康を維持・促進できる看護実践能力や保健医療チームの一員として行動する能力を養うことを目的とした。
臨地実習は、4施設で展開した。正常な経過を辿る褥婦と新生児を受け持ち、看護過程の展開を学生1人当たりほぼ2組の母児に実施できた。健康状態の観察、授乳の介助、新生児の沐浴等を実施でき、保健指導は見学できた。学生が受け持ちケースの健康課題をタイムリーにアセスメントし、ケアが実施できるように、臨床指導者と連携して個別に指導した。分娩見学では、産婦の分娩経過の観察と産痛緩和ケアを見学できた。外来実習では、妊婦の健康診査や保健指導を見学した。
臨床実習指導者との事後評価ミーテイングでは、個々の学生への指導内容の教員との共有により、学生の理解の深まりがお互いに確認できた。

4) 疾病と治療Ⅳ:2 年次前期
衣川さえ子、金子あけみ、小田金 哲広
本科目は泌尿器系、生殖器系、内分泌系の器官における主要な疾患について、病気のプロセスと病態生理、症状、診断の基準、検査データー、治療方法、予後等を理解することを目的として

いる。講義内容が具体的にイメージできるように、DVD 等の視聴覚教材を活用して授業を展開した。既習の解剖生理学を想起しながら、疾病による形態・機能の変化や病態を理解する必要がある。その疾患と関連する健康問題を提示したりして学生の関心が高まるように工夫した。さらに、婦人科診察に用いる膣鏡の提示や乳癌教育用視聴診モデルを用いて実際に視聴診の体験を取り入れる等、リアリティをもたせて実践的に展開した。今年度は、学生の理解度を確認するために小テストを導入し、知識理解の定着を図った。

【精神看護学領域】

1. 教育方針

災害時も含めた様々な日常生活場面における精神保健、及び身体・知的・精神障害を持つ人々のセルフケアの回復・維持・増進にむけた看護展開に必要な知識・技術・態度を、講義と演習を組み合わせることにより総合的に学修できるカリキュラム展開を行っている。

また、学生自身の障害者観を社会情勢も含めた様々な方面から深く検討し、看護職として障害~~の~~を持つ人々への効果的な支援のあり方について探求し続ける態度を身に着けることを目指している。

2. 科目名

1)臨床コミュニケーション論: 2 年次前期

村松仁、 田野将尊、小川賀惠

精神看護における基本的かつ中心的な技術である治療的コミュニケーションの必要性と効果を理解し、治療的コミュニケーションを技術として活用するために必要な知識と技術、態度を総合的に学修することを目的として講義を行った。講義内容として、基本的なコミュニケーションの構成要素に関する知識と技術を基盤とし、傾聴技法、質問技法の理解、動機付け等の理解、治療的コミュニケーションのリフレクションとしてのプロセスレコードの検討方法を学習することを目的とした。授業展開の工夫として、講義の他にグループワークや体験学習を通し、できるだけ学生が体験を通して理解が深まるようにした。次年度も、引き続きグループワークや体験学習を取り入れ、治療的コミュニケーションの学修が充実するよう、講義を行いたいと考えている。

2)精神看護学概論: 2 年次後期

村松仁、田野将尊、小川賀惠

精神看護学を学ぶにあたり、 精神看護学の基盤となる精神健康の定義や精神機能、精神発達、精神の危機とその反応、 精神医療と精神看護の歴史的背景と今日における精神看護の課題の理解等を学ぶことを目的とした。

講義内容として、 精神健康(こころの健康)の定義、 ライフイベントにおける精神保健、精神構造と機能、 ストレスとその対応、 精神医療と看護の歴史的背景、 医療における精神障害者の人権擁護、 精神保健福祉法などについて、 グループディスカッションを含め講義を行った。 次年度も、 今年度の内容を引き続き展開し、 精神看護の導入として講義を展開したいと考えている。

3)精神看護実践論: 3 年次前期

田野将尊、村松仁、小川賀惠、 他外部講師

精神的な健康に障害を持つ対象を理解できるように、主な精神疾患の特徴や精神症状の観察

と視点、アセスメント、援助方法などについて、パワーポイントや教科書、視聴覚教材を用いて授業を展開した。 精神障害のある対象の支援に必要な基本的な看護技術が学べるように看護過程を展開させ、グループワークによる討議の時間を十分に設け、発表を通して学生相互の学びを深めた。 また、災害看護学コースの中の精神看護学領域として、災害時のケアの実際、心的外傷後ストレス障害やレジリエンスなど、災害時と関連する内容についても理解を深められるようにした。さらに、外部施設で活躍している精神看護専門看護師を講師として招き、実際の活動内容を踏まえた講義を行ってもらうことによって、学習効果を高められるよう工夫を行った。 各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行っている。

4)障害者看護論: 3 年次後期
田野将尊、村松仁、小川賀惠、他外部講師
　精神・身体・知的の三障害の概念や特性、障害を持つ対象と支援方法について理解できるように、パワーポイントや教科書、視聴覚教材を用いて授業を展開した。 障害者を取り巻く環境や政策、制度についても理解を深められるように努め、障害者の権利擁護や社会の在り方についても看護の立場から考えられるように授業を行った。 精神障害、神経難病や進行性筋ジストロフィー、重症心身障害を抱える対象に対する具体的な看護実践や支援方法については、臨床で看護を実践している専門家を講師として招き、実際~~に~~の看護体験に加えて医療の現状や課題についても考えられるよう工夫を行った。 各授業の最後にリアクションペーパーを提出させ、次回の授業で学生の理解しにくい点を補足、フィードバックできるような工夫を行っている。
次年度も今年度の内容を継続し、 障害者を持つ人々への看護について学修を展開したい。

5)精神看護学実習: 3 年次後期
村松仁、田野将尊、小川賀惠
　国家公務員共済組合連合会立川病院、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院、公益財団法人井之頭病院を実習施設として実習を行った。 本実習では、精神障害を持って生きる人を包括的に理解するとともに、精神障害者の自立および自己実現に向けた援助を通し、必要な看護が実践できる基礎的能力を育成することを目的とした。
学生は、1 名の受け持ち患者を通して看護過程を展開し、看護計画の立案・実施・評価を行った。精神科治療場面の見学、各種治療プログラムや作業療法への参加、デイケア実習などを通して、精神医療の実際を知るとともに、入院治療から地域精神保健の現状や課題等について考えることができた。 また、全ての学生がプロセスレコードを用いて患者との関わりを通した自己洞察を行い、自己の看護の傾向について気付きを得る機会を設けた。
実習中は毎日カンファレンスを実施し、学生の疑問をその日に取り上げ、翌日の看護に結び付けられるように指導した。
次年度も、実習指導者や担当教員の意見を反映させながら、学生が実習体験を通して得られる気づきに重点を置き、知識と体験を結び付けられるよう効果的な指導を検討していきたい。

6)チーム医療論: 4 年次前期
村松仁、田野将尊、小川賀惠、外部講師

チーム医療の意義、目的、運用等の基本的知識を理解し、実際のチーム医療を展開している各医療職種（病院長、看護部長、診療部長、薬剤部長、地域医療連携係長）を外部講師として招き、実際のチーム医療の展開について教授した。
4 年次科目であり、これまでの学修を統合させ、また 4 年次前期の統合実習内容を踏まえ、学生自身がチーム医療展開における課題を検討できるよう、グループディスカッションとプレゼンテーションを通した学びの共有を図った。次年度も、引き続き今年度の学修形態~~携帯~~を継続し、チーム医療に関する学修が深まるように講義を展開したいと考えている。

【在宅看護学領域】

1. 教育方針

在宅看護学領域は、統合分野である地域看護学、在宅看護学、および災害看護学に関する 9 科目を担当している。これらの科目を通して、保健医療福祉を総合的に学び、継続看護の重要性を学ぶことを目的とした。
地域看護学では、健康寿命の延伸が重要課題となる中、一次予防から二次予防に関して、地域のシステムと看護職の役割、健康教育、保健指導の実際についての理解を目指した。災害看護学では、災害看護学Ⅰを担当し、災害サイクルにそった災害看護の基礎的知識と技術についての理解を目指した。在宅看護学では、地域包括ケアが進められる中で、疾病や障がいをもちながら在宅等で療養する療養者・家族に対して、対象の思いを尊重し、住み慣れた場でその人らしい生活を継続できるよう支援する在宅看護の役割を理解すること、また、医療・福祉にかかわる多職種と協働し、対象のセルフケア能力を高めるよう支援する知識、技術および態度を身につけることを目指した。特に実習では、これまで学んできた知識・技術を統合し、体験を通して、実践力を高めることを目指した。

2. 科目名

1）在宅看護実践論Ⅱ：4 年次前期
桜井 礼子、テイラー栄子、小山 珠美、篠﨑 真弓

療養者・家族が安心・安全な療養生活を継続するための、在宅療養環境と在宅ケアシステム、地域社会の中での看護支援の展開と連携の方法を理解することを学習目標とし、「地域診断演習」と「在宅看護過程の展開演習」を行った。「地域診断演習」では、地域における看護の継続と連携の理解を目指して、地域診断の方法、地域包括支援センターの役割、地域特性の理解と健康課題について演習を実施した。「在宅看護過程の展開演習」では、訪問事例を提示し、在宅看護学実習の記録用紙を用いて、看護過程を行い、アセスメント、エコマップの作成、看護計画の立案、また、その事例も用いて、訪問看護のロールプレイを行った。ロールプレイは、実際の訪問場面をイメージし、訪問看護師の役割や訪問の際の留意点などの理解につながったと考える。

次年度は、「地域診断の演習」では、地域の情報収集の方法や地域のネットワーク・多職種・他機関との連携・協働について、また、「在宅看護過程の展開演習」では、看護過程の展開と訪問時の看護計画についてケアマネジメントの内容を充実させ、在宅看護学実習の学びにつなげたいと考えている。

2）在宅看護学実習：4 年次前期
桜井 礼子、テイラー栄子、小山 珠美、篠﨑 真弓

在宅看護学実習は、訪問看護ステーション 2 週間と地域包括支援センター1 日の実習である。実習では、受け持ち療養者の看護過程の展開や同行訪問を通して、地域で生活する療養者とその家族および療養環境に対する理解を深め、健康・生活上の課題と看護の実践方法について学ぶことを目指した。また、保健・医療・福祉の連携や多職種との協働の実際を体験し、地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能について考えることを目指した。学生の個別性に合わせた実習指導となるよう、実習施設の指導者と連携をとりながら実習指導を進め、学内日はカンファレンスを持ち、学生同士の学びの機会とした。学生は、訪問看護の場面だけでなくケアカンファレンスなどの連携の場、また、地域包括の事業に参加しながら、学びを深めることができたと考える。しかし、実習施設により、同行訪問の件数などの違いにより体験できる内容が異なっていたことは今後の課題となった。

次年度に向けては、実習指導者と連携を強化し、実習施設の特性を活かせるように実習内容を調整し、学生が実習を通してより学びが深められるようにしていきたいと考えている。

3）在宅看護学概論 ： 3年次前期

桜井 礼子、テイラー 栄子、小山 珠美、篠﨑 真弓

在宅看護学概論では、地域で生活する療養者とその家族の療養生活をイメージし、そのケアニーズを理解すること、また、それらを支える制度や社会資源と、在宅ケアマネジメントにおける看護師の役割、および多職種との連携・協働について理解することを目指した。そのため、訪問看護のイメージや在宅で療養する人々とその家族のニーズが理解できるよう DVD などの映像を活用するなど教材を活用した。また、地域包括ケアシステムが進む中で、対象者個々が抱える健康問題にそった支援方法や在宅ケアを取り巻く現状と課題に対して、特に、介護保険、医療保険の仕組みと医療・介護の連携、地域包括支援センターや地域ケア会議の役割と機能などを理解することで、学生が問題解決の方法を考えることができることを目指した。

次年度に向けては、今年度と同様に、地域で生活する療養者とその家族に対する訪問看護の必要性および社会資源の活用方法について理解を深め、退院支援などの継続看護の重要性を理解してもらい、各論実習の学びにつなげたいと考えている。

4）在宅看護実践論Ⅰ：3年次後期

テイラー 栄子、桜井 礼子、小山 珠美、篠﨑真弓

在宅療養者・家族が安心して安全に日常生活を営み，医療的ニーズに応じた在宅ケアの実践方法を学ぶことを本科目の目標とした。

生活技術援助は環境整備，リスクマネジメント，医療処置管理は医療依存度の高い療養生活を送る事例をとおして，学生がアセスメントして，ケアを自ら考えられるように講義を構成した。また，在宅で疾病と共に生活するということはどのようなことかを学生に，伝えるために映像を多く用いるようにした。講義内容を演習につなげ，実践することで，知識の定着と技術の獲得を目指した。演習は合計 4 コマ行い，福祉用具と在宅酸素・人工呼吸器を扱う外部講師(企業)に来てもらい専門的知識と実践知を教授して頂いた。また，フットケアの WOC にも 1 コマ講義を担当してもらい，足の観察とケアの重要性を，写真を多く使用し看護師自身の経験を述べてもらった。

来年度は，学生に在宅療養者の事例を作ってもらうことで，社会資源や学生の苦手とする介護制度について理解を深めていけるような演習を構築していきたいと考える。

5）地域看護学概論 ： 2年次後期

桜井 礼子、テイラー 栄子、小山 珠美、篠﨑真弓

地域看護学概論は、継続看護の必要性と看護職に求められる役割、支援に必要な関係機関職種の連携・協働とネットワークづくり、ケアチーム、ケアマネジメントの基礎を学ぶことをねらいとしている。地域で生活する人々の健康と QOL を高めることを主眼とする地域看護活動について理解し、地域において展開されている看護活動の全体像と基本的な考え方について学習すること、および各ライフステージにおける健康指標と健康課題について理解することを目標に、領域メンバーで分担をして講義を行った。地域で生活する人々の健康を支える看護職の役割について学生が自ら考えることを大切にし、講義時間の中でワークシートを用いて自分の考えをまとめるなどの工夫を行った。全体として、講義内容が多岐にわたることから、地域で実施されている保健活動については、ライフステージを基本として、段階的に、ポイントを絞って内容をおさえていく必要があると考えている。

次年度は、公衆衛生学等ですでに学習した内容と連動させながら、地域で展開されている保健に関する制度について理解をし、看護活動の実際について学ぶことができるように講義内容を検討していきたいと考えている。

6）家族看護学概論 ： 2年次後期

桜井 礼子、テイラー 栄子、小山 珠美、篠﨑 真弓

家族看護学概論は、家族の役割機能、現代の家族の諸問題に着眼しながら、自らの家族観を見つめ直すこと、また、家族を単位とし様々な視点で家族をとらえる見方を養い、疾病や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族看護の意義と役割を学ぶことをねらいとした。時代とともに多様化する家族形態、家族のあり方や家族の特性、家族をアセスメントする視点と情報収集の項目を提示し、学生が実習で家族と接する機会が少ないことも考慮し、家族のライフステージや健康危機などの事例を提示して、学生が理解できるよう講義をすすめた。家族をアセスメンする視点を理解し家族の全体像をとらえることができること、家族看護における看護師の役割を説明できることを学習目標とした。

次年度も、学生がイメージしやすいよう事例を提示しながら、家族のセルフフケア機能を高めるための家族看護の基本的な考え方や役割について学びを深めてほしいと考えている。

7）疾病予防看護学 ： 2年次後期

テイラー 栄子、桜井 礼子、小山 珠美、篠﨑 真弓

一次予防に焦点を当て，ヘルスプロモ―ションを通して健康増進法にいたる変遷，そして諸理論を基盤とし健康教育を理解し，企画することを目標とした。講義では市町村で行われている生活習慣病予防，認知症予防，介護予防などの事例を映像等で提示し学生が具体的にイメージし健康教育に対して興味を持ち学べる状況を作った。

また，今まで習得したライフステージの特徴と健康課題，予防についてを課題レポートに課して，各人が効果的なグループディスカッションができるようにした。今年は理論を健康教育に活かすことを学生に学んでもらうため，講義でプロシード・プレシードモデルを説明し，演習を通してグループごとに実際にプロシード・プレシードモデルに沿って健康教育を企画した。これにより，対象者の健康

課題を多角的にとらえ，理論を健康教育に活用することを学ぶことができたと考える。健康教育企画の発表では，学生が積極的に他の学生の発表を聞き評価者になることで学びが深まるようにした。

来年度はヘルスプロモーションと出張保健室をつなげ，より実践的に学ぶことができるような講義・演習にしたいと考える。

8）自立支援教育論 ： 2年次後期

桜井 礼子、テイラー 栄子、小山 珠美、篠﨑 真弓

自立支援教育論では、慢性疾患や障害などのさまざまな健康課題を抱えた対象者に対して、課題解決に向けたセルフケア能力や自己効力感を高めるための理論を活用し、自立支援へとつなげる手法を学ぶことを学習目標とした。自立支援のための情報提供と行動変容のプロセスを理解し、効果的な個別健康教育・保健指導の方法について理解することを目指した。セルフマネジメントや自己効力感など既習した内容を復習しつつ、自己の生活体験などを踏まえることで、行動変容の難しさや保健指導を進めるためコミュニケーションの方法、例えばコーチングなどの具体的な支援方法、意思決定支援の支援方法について、事例を通して学べるようにした。講義の中では、事例や課題を提示して個人ワークと意見交換を行ったり、各回のワークシートに目を通してフードバックを行った。また、保健指導の実際を学ぶためにグループワークを行ったことで学びが深まったと考える。

次年度は、学生がこれまでに学習してきた知識や生活体験を踏まえて、個別の健康教育、保健指導の演習事例を通して、学生が思考し理解を深めていけるようにしたいと考えている。

9）災害看護学Ⅰ： 2年次後期

桜井 礼子、福田 淑江、テイラー 栄子、小山 珠美、篠﨑 真弓

災害看護学Ⅰでは、 災害時の医療・看護活動の基盤となる法的根拠や災害対策および災害時の救護活動の方法をと、災害サイクルに応じた看護の役割を理解し、変化する状況下で他職種と連携・協働しながら被災者の状況や特性に応じた看護活動を展開するための基礎的知識・技術・態度について学習することを目標とした。災害の種類と特徴、災害が地域で生活する人々へどのような影響を及ぼすのかを理解すること、災害サイクルにそって、発災から急性期、慢性期等の各期における災害への組織的な対応と看護職が支援する内容について学習を進めた。また、災害医療センターの防災訓練に参加し、学生は被災者および家族役となり、災害拠点病院としての発災直後の対応や医療者の役割、被災者の気持ちなどを体験を通して学び、災害発生時の対応について理解を深める機会となった。また、今年度は、災害支援に関する国際活動の経験者体験を語ってもらう時間を設けたことも、学生の視点を広げられる機会になったと考える。

次年度も、災害訓練の参加を通して、被災者への対応および支援者としての役割に関する学生の理解がさらに深まるよう、災害医療センターと連携していきたいと考えている。

看護学研究科（修士課程：高度実践看護コース）

【教育方針】

クリティカル領域における診療看護師（NP）の役割を理解し、専門性の高い、高度な実践力をもって役割を遂行できる能力を習得した診療看護師を育成することを目標としている。チーム医療の一員として患者の状況・病態を的確に把握し、自ら考え、判断し、安全性を確保した上で、必要な診療行為・ケアが確実に提供でき知識・技術・態度を習得する。今年度は、演習、実習の一部を、本コースの修了生（診療看護師：NP）で、臨床現場で活躍している診療看護師（NP）が分担し、年 2 回開催した臨床教授会にも、一昨年度から臨床実習指導者として参加した。

クリティカルNP特論　1 年前期

草間朋子、山西文子、岩本郁子、浦中桂一、武田純三、忠雅之、鈴木美穂、早坂奈美

日本における診療看護師育成の経緯を理解し、法制上の現状を把握する。さらに、NP を導入している先進国、とくに米国におけるNPの現状等を把握するために、米国で実践活動をしている NP や NP と活動した経験をもつ医師等の講義を受けた。また、日本 NP 教育大学院協議会で実施している資格試験に合格し実践活動をしている診療看護師（NP）から実践活動等を紹介してもらい、日本における診療看護師の現状および課題等について理解を深めることができた。さらに、GW を通して、文献や資料から得た NP に関する情報をもとに、日本における診療看護師の役割、必要な知識・技術等について議論し、情報共有を図り、クリティカル領域の診療看護師（NP）を目指して 2 年間の修士課程で学ぶモチベーションを高めることができた。

人体構造機能論　1 年次通年

松本純夫、磯部陽、今西宣晶、今井秀樹、小宇田智子

フィジカルアセスメント、疾病の理解、検査画像の評価等に必要とされる人体の構造に関する知識を習得することを目的として、各臓器・組織の解剖・生理を臓器・組織毎に学生が分担し、資料等を基にまとめ、担当した臓器。組織についてプレゼンテーションを行い、それに対して医師がコメントする形式で授業を展開した。また人体解剖の場面を見学し、更に医学部にて演習により学びを深め、人体の構造を直接観察し、学生達は知識をさらに深めることができた。

クリティカル疾病特論　1 年前期

草間朋子、山西文子、酒井一夫、前島新史、小林佳郎、矢野尊啓、池上幸憲、吉川保、安富大祐、樅山幸彦、門松賢、磯部陽、菊池真大、大石崇、山根章、小山田吉孝、中村芳樹、尾藤誠司、尾本健一郎、鈴木亮、森伸晃、岩田敏

クリティカル領域において頻度の高い疾患について、医学的根拠に基づく判断能力と問題解決能力を修得するために、各疾病の病因、病態生理等の基礎的な知識を学んだ。とくに、呼吸器系、循環器系、中枢神経系、代謝機能に関連した代表的な疾病を取り上げ、医学的な思考を通して、患者の症状等から臨床推論できるプロセス、個々の患者にとって必要な診療行為を選択し、実施できる能力を修得することができた。具体的な授業展開は、グループ毎に課題（症例）を設定し、文献的な検討を行いながら、指導医から指導を受け、プレゼンテーションを行い、発表後に専門医から指導をうける形式で行った。学修効果を高めるためには、事前学修、事後学修の徹底を図っていく必要がある。

診察、診断学特論（包括的健康アセスメント）1 年前期

草間朋子、山西文子、小野孝二、尾藤誠司、上野博則、樅山幸彦、菊野隆明、前島新史、渡邉清司、長谷川栄寿、樋口順也、菊池真大、澤部祥子

患者の病態に対応した症状アセスメント，診察ができるための知識を習得することを目的にした科目である。診察、生理学的諸検査で得られた所見等を用いて、診断が確定できる能力を修得することができた。個々の患者に対応した的確な診察の方法、診断のために必要な臨床検査（血液データの解釈、X線、心電図など）の選択、検査結果の解釈、東京医療センター放射線科で1日見学実習を行い、撮影から読影迄のプロセスと医師による読影法などを学び、診断のプロセス等を実際のデータ等を使用して理解を深めることができた。診断のための面接技術についても学ぶことができた。

フィジカルアセスメント学演習　1 年次前期

浦中桂一、早坂奈美、小山田吉孝、安富大祐、池上幸憲、森岡秀夫、鄭東孝

高度実践看護師がクリティカル領域にある患者の健康問題を解決する上で必要とされ、身体的・包括な機能評価のためフィジカルイグザミネーションについて、学生がインストラクターとなってグループ学修を展開し、GW の検討結果をプレゼンテーションし、ディスカッションするアクティブラーニングを展開した。具体的には視診・聴診・打診・触診などの各部位に共通する診察方法について教授し、2 年次に行われる OSCE 試験の前提となる系統的なフィジカルイグザミネーション技術の修得に至っている。演習後半は、医師による事例を用いた演習を取り入れており、医学的根拠に基づくフィジカルアセスメントのプロセスや実践的なフィジカルイグザミネーション技術について修得できている。来年度は前半のまとめにて臨床推論の要素をより多く取り入れて身体診察する時間を設けて、実践に則した演習とする計画を入れる。

臨床推論　1年次前期

草間朋子、浦中桂一、尾藤誠司、鄭東孝、山下博、鈴木亮、南修司郎、安富大祐、太田慧、菊野隆明、矢野尊啓、樋山光教、野田徹、込山修、斉藤史郎、森岡秀夫、吉田哲也

クリティカル領域で遭遇する症状や状態に応じた臨床推論ができるよう、その過程を学び、それを裏付けるためのフィジカルアセスメント・検査を行い、症状に応じた的確な判断・臨床推論ができるための知識・技術を習得することが主である。そのために、臨床教授である講師陣に前提となる考え方を指導頂く。その後、クリティカル領域で遭遇する17症状に対する臨床推論の実際について、事例を用いて 1 症状 2 コマ使用し、専門医からの指導を受け、医師の思考過程についても理解を深める。時間的には最も多い時間をかけて学修するように臨床教授の医師も積極的に協力してもらい、実習時に繋がるような指導をしてもらっている。

診断のためのNP実践演習　1 年後期

草間朋子、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、樋口順也、鈴木亮、太田慧、鄭東孝、尾藤誠司、安富大祐、池上幸憲、菊野隆明、森岡秀夫、早川隆宣、近藤久禎

クリティカル領域において対応する可能性の高い患者の医療面接、身体診察、フィジカルアセスメントができ、必要とされる臨床検査の選択を安全かつ確実に実効できるための知識、技術を修得することを目的とした科目である。クリティカル領域で遭遇する機会の多い特徴的な症状について、さまざまな視点から入手したデータを活用した診察、診断のプロセスを実践的に学ぶことができた。また、診断のために必要な検査等に対するインフォームドコンセントの支援ができる能力を習得することができた。超音波検査、

CT、MRI、PET等による画像診断の選択、読影のスキルを習得するために東京医療センターの放射線部門において、グループ(3～4 名で構成)ごとに実際の患者さんの診断のプロセスを見学し、画像診断の進め方について専門医から説明を受けて、画像診断に対する理解を深めることができた。また、クリティカル領域の特徴的な症状のある患者の実際の画像を用いて画像診断の進め方を学ぶことができた。さらにトリアージの概念、機能、方法について、模擬患者による演習を通して理解することができた。学生たちが診療行為(特に省令に定められた特定行為)毎の手順書を作成し、臨床実習の際の資料として活用している。学生が作成した手順書に対して、統合実習の際の指導医師の理解も深まりつつある。

臨床薬理学特論　1 年次前期

草間朋子、浦中桂一、廣田孝司、青山隆夫、大島信治、池上幸憲、吉川保、磯部陽、森伸晃

高度実践看護師として診断に基づく薬物療法を安全に、かつ効果的に進められるよう基本的な知識を修得することが重要である。そのために、本科目では薬物動態の基礎を理解する。さらに、クリティカル領域で使用頻度の高い薬物療法について確認し、各種薬物と生体との反応機序、薬物の効果に個人差が生じる要因等について理解し、安全な治療を進めるために必要な知識を身に付けることを目標とした。外部の専門講師による講義、薬事法を含む薬物の安全管理と処方について理解を深め、更に、クリティカル領域における疾病に対して用いられる薬物の理解については、臨床現場の専門医から指導頂いた。非常に難しい科目で学生には苦手意識が見られるが、第一段階として動機づけはされたので、今後は各学生の個人学習に係っている。

治療のためのNP特論　1 年後期

草間朋子、山西文子、浦中桂一、吉川保、磯部陽、大石崇、小山田吉孝、中村芳樹、大迫茂登彦、石志紘、矢野尊啓、尾藤誠司

クリティカル領域の患者に対する治療法およびその適応について科学的根拠に基づいて理解する科目である。治療の生体へのメリット、デメリットを理解し、治療の立案、変更、終了などの判断が的確に実行できるための知識を修得することができた。消化器系手術、呼吸器系手術、脳の手術、心・大血管系の手術を取り上げ、手技に関する基本的事項、輸血、感染予防などを専門医から直接指導を受けることができた。

治療のためのNP実践演習:1 年後期

草間朋子、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、小井土雄一、佐々木毅、正岡博幸、木下貴之、太田慧、磯部陽、宮田知恵子、小山田吉孝、吉川保、菊野隆明、落合博子、浦上秀次郎、大石崇、鄭東孝、安富大祐、鈴木亮、池上幸憲、森岡秀夫、門松賢、斉藤史郎、忠雅之、青木美絵、青木瑞智子、森泉元他

クリティカル領域の患者に適用する治療法、治療技術ついて演習を通して理解する。クリティカル領域において遭遇する機会の多い事例を取り上げ、推論し、選択した治療法の科学的な根拠を理解し、患者への説明と、患者の同意のプロセス、選択した治療を的確に実行できるための技術を修得した。また、治療の際の診療看護師としての役割と限界を認識することの重要性を学んだ。救急・重症患者の管理方法、集中治療の管理方法、がん化学療法とペインコントロールの方法、人工呼吸器・気管挿管・抜管・縫合・圧迫止血・経腸栄養・中心静脈ライン確保・褥瘡の治療方法などの処置等について、適用する目的、手順を、演習を通して学んだ。さらに、臨床で使用されている各種ガイドラインの活用方法や各治療法のメリット・デメリット、治療に伴う副作用などについての理解を深めた。本科目は、省令に基づく特定行為研修

の時間数を確保する必要があるため1コマあたりの時間を 120 時間としている。クリティカル領域で頻度多く遭遇する疾病に対する薬物療法について事例を設定し、設定した事例に対しての実際の処方、課題などを学生が分担して検討し発表、指導医から指導を受けるという方法で学びを深めた。さらに本科目のまとめとして、総合演習を設定し、クリティカル領域で頻繁に遭遇する典型的な事例を設定して総合的なシミュレーショントレーニングを実施した。

統合演習　2 年次前期

浦中桂一、山西文子、岩本郁子、早坂奈美、菊野隆明、鈴木亮、吉田心慈、林　哲朗、中村英樹、冷水育、忠雅之、高以良仁

救急外来、ICU・病棟における診療看護師（NP）としての役割や臨床推論を活用した患者の病態や必要な検査・治療について考えることができることをねらいとした。これまでの看護経験と 1 年間学修してきた医学知識を統合し、外傷事例、心窩部痛事例、呼吸器疾患事例を用い、リーダーシップ、メンバーシップをとりながらチームパフォーマンスが最大限に機能できる基本的能力を養う内容とした。シミュレーション教育の指導者研修を修了した診療看護師（NP）が昨年度に引き続き、Basic、Advance の計 6 事例を洗練し、本年度は 1 日間で学生全員がこれらのシナリオを用いたシミュレーショントレーニングを経験した。学生には外傷初期診療ガイドライン、Team STEPPS 等について事前学習を課し、事前講義を実施した。シミュレーション教育について理解を深めることでスムースにシミュレーションに参加できるよう工夫した。シミュレーション後は診療看護師（NP）がデブリーフィングを実施し、学生が客観的に自己洞察できる機会を設けた。学生評価は、事後課題のレポートにて行った。今後控えている OSCE 試験や統合実習の良い動機づけとなった。

統合実習　2 年通年

草間朋子、山西文子、浦中桂一、岩本郁子、早坂奈美、今井秀樹、田中留伊

東京医療センター・災害医療センター・東京病院の臨床教授及び実習指導者 JNP 他

2 年次 5 月から 11 月初めまで約 6 ヶ月間（一人あたり 17 週間）、国立病院機構東京医療センター、災害医療センター、東京病院の 3 施設において、救命救急センター、総合内科、外科系病棟、手術室、麻酔科の各診療科をローテーションし、計 17 週の実習を行った。実習では、実習指導医の指導のもとで、患者を受け持ち、患者の診察・診断、治療の一連のプロセスを経験した。1 年次に講義、演習を通して学んだ知識と技術を統合し、チーム医療の一員としての診療看護師の役割を意識しながら、実習に取り組んだ。学生が作成した 38 の特定行為の手順書を施設に提示し、省令に定められている 38 の特定行為の実践経験を積み重ねるなど、積極的に取り組んだ。臨床指導医からの実習の評価も高く、全員が無事実習を修了することができた。大学の実習指導担当教員は、毎月 1 回検討会を開催し、実習をスムーズに進められる環境を整える努力をしている。統合実習の中間時点と修了後に実践や経験した事例を中にした発表会を実施した。統合実習の開始前（5 月、3つの実習施設の臨床教授に参加いただく）および終了後（11 月～12 月）に 3 施設において臨床教授会、合計4回の臨床教授会を開催し、本学の教員も参加し、意見交換を行った。

コンサルテーション・インフォームドコンセント特論　1 年後期

草間朋子、山西文子、高木晴良、尾藤誠司、木下孝之、岩田敏、矢野尊啓

医療におけるインフォームドコンセントについて理解し、診察で得られた所見、画像診断やデータ分析

に基づく診断内容について、患者および患者の家族の状況に応じて分かりやすく説明できるように、具体的事例を取り上げて、検討し、その結果を発表し討議を行った。

チーム医療と スキルミックス　1年次前期

田中留伊、中村裕美、矢野尊啓、小川千晶、眞隆一、福長暖奈、中村香代、長谷部ゆり

チーム医療におけるスキルミックスの理解を深め、チーム医療のあり方を探りながら、役割分担、協働のあり方を見つめ直し、これからのチーム医療を探求的に学ぶことをねらいとして授業を実施した。講義は各医療職の役割について理解が深まるよう、できる限り多職種の講師から情報提供を頂き、意見交換が図れるように講義内容を工夫した。また、自らが経験したチーム医療の現状と対比しながら思考を深められるようグループワークや全体討議を重視した。これにより、院生は自身の活動を振り返り、今後の新しいチーム医療のあり方や診療看護師に期待される役割等について考え、課題を明確化する機会となった。しかし、院生の気づきや学習の深まり、学習成果を言語化あるいは文章化することに関しては個人差がみられた。授業評価や院生の意見・感想を踏まえ、学習効果の維持・向上が図れるよう授業内容、外部講師の選定等を工夫し授業展開することが課題と考える。

医療安全特論　1 年次後期

草間朋子、山西文子、新木一弘、岩田敏、大石崇、福元大介

医療事故等は、日常的に起こる可能性があることを認識し、事故の発生を防止し、患者の安全が最優先事項であることを理解することができた。医療事故を防止するためには、医師の指示を批判的に思考する力、危険を回避するために医療行為の優先度を決定する力、患者に不利益な状況が生じている場合に対象に情報提供できる力、対象が受ける治療や処置に伴う有効性や危険性を患者が分かるように説明できる力などを習得することが必要であることを学んだ。GW を通して。日本で実際にあった事例を取り上げ、既存の理論を使用して分析し、主要な原因や関連する要因、解決までのプロセスについて検討し、その結果を発表し、全体で討議行う形式で進め、事故の発生を防止するためのさまざまな方策を修得することができた。

政策医療特論　1 年次前期

草間朋子、山西文子、松本純夫、大島久二、加我君孝、女屋光基、石原傳幸、當間重人

民間病院に任せるだけでは不十分と考えられ、国が医療政策を担うべき医療であると定められている「政策医療」(19 の医療分野)について、理解を深めることができた。政策医療を担っている国立病院機構の管理者から、政策医療に関する歴史的経緯と現状、課題、将来展望等の講義を受け、政策医療の対象になっている患者に遭遇した場合の診療看護師として対応について学ぶことができた。

医療倫理特論 1 年次前期

小野孝二、福田淑江、矢野尊啓

講義を 4 コマ、事例検討を 2 コマ、グループワーク及び発表を 2 コマに配分して実施した。講義では、看護に関する制度や倫理を学び、専門職としての考えを明確にし、看護専門職としての倫理の原則、意思決定のための判断基準について学び、院生の経験を踏まえて分析的に思考した。倫理の理念から説き起こし、倫理的葛藤が生じるプロセス、倫理的意思決定のステップなどについて臨床で遭遇しう

る倫理的問題を抽出しながら、事例検討をおこなった。 グループワークでは、価値葛藤が生じる事例における倫理的判断について意見交換し、学習を深めた。

＜共通科目＞

ラボラトリー・メソッド特論　1 年次前期

小宇田智子、今井秀樹、酒井一夫

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を教授した。 臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用い、個体、組織、遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解させた。来年度も同様の内容で行う予定である。

保健医療福祉システム特論　1年次後期

佐藤 潤、日比野 守男、清水 美智夫

保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために様々な制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深めることを目標に講義・演習を行った。

まずは、保健医療福祉に関する制度・法律の基礎知識を教員が教授し、その後学生がグループワークにおいて「保健医療福祉システムの現状と課題から、新たなシステムの必要性や社会資源の開発等について考える」を演習テーマとし、 2～3 名のグループ編成でグループごとに課題を選定し、発表を行った。グループワークでは、学生が自らの専攻の特色を活かしながら自身の経験や関心のある領域の課題に取り組むことができており、保健医療福祉制度に関する学びをさらに深める機会となった。

看護教育学特論　1 年次後期

岩本郁子　浦中桂一

看護の人材育成が質の高い看護の基礎をなすという観点から、本科目は①看護教育における教育的機能の理解、②看護教育の歴史的変遷と看護教育制度からの課題の考察、③高度実践看護職としての役割を果たすために必要な教育原理と教育方法の理解を目的としている。①、②は主として講義、③は各学生が 30 分の授業案を作成し模擬授業の体験を通して学習するよう設定している。本科目は選択科目であり、本年度は高度実践看護コース 8 名、高度実践助産コース 1 名が選択した。授業内容としてシミュレーション教育など教育方法に関する情報提供や診療看護師（NP）による教育実践の現状と課題に関し 1 コマ授業を設定し、活発なディスカッションを行った。

模擬授業のテーマ、対象は多種多様で教材教具に関しての工夫もみられた。各模擬授業のリフレクション時の意見交換も活発で教育に関する興味関心の高さが感じられ、高度看護実践者として教育的役割の必要性を十分に認識できていたととらえられた。ただし、PP の作成が優先し内容の不十分な授業計画があったため、授業考察の重要性について個別指導を通して強化することが課題である。

看護管理学特論　1 年次前期

竹内朋子、松本和史

看護管理に必要な基礎知識を学習し、看護管理者の役割と機能を理解することを目標とした。カリキュラムを 2 部構成とし、第 1 部では看護組織のマネジメントに関する事項、第 2 部では看護組織における人的資源のマネジメントを取り上げた。看護管理学を体系的に学習するのが初めてである院生が多かったため、院生自身の就業経験を活用し、看護管理の視点から所属組織やリーダーを分析し、看護組織としての強みや課題を抽出したり、看護管理者としての自己の資質を考察する課題にも取り組んだ。診療看

護師(NP)として医療チームをマネジメントするうえで必要な実践能力の基礎を修得できた。

研究特論　1 年次前期（高度実践看護コース、高度実践助産コース、看護科学コース）

今井秀樹、田中留伊、関屋伸子、朝澤恭子、高木晴良、佐藤潤、小宇田智子

① 看護研究における研究テーマの設定法、データ収集・解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。

② 本来の研究はどういうものであるかを教える。

原著論文講読　1 年次　通年

酒井一夫、田中留伊、佐藤　潤、小宇田智子

学術論文を読むために必要な基本的知識・技術について講義を行った。その上で、実際に医療・看護に関係した和文・英文論文を読んで内容をまとめる訓練を行った。課題研究と連動させ、本科目で修得したスキルが各院生の課題研究につながるように工夫した。英語による報告も試みた。論文の読解能力に加え、読解した内容を発表する点についても重点を置き、研究者としての情報収集・発信の重要性を理解し、診療看護師としての EBN の全般的なレベルアップを図ることができた。

課題研究　1 年次、2 年次通年

酒井一夫、今井秀樹、田中留伊、その他全教員

一人ひとりの院生が，個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。課題研究の発表にあたっては、学会を模した形式で、抄録やスライドの準備を行い、研究者として必要なトレーニングを実施した。

看護学研究科（修士課程：高度実践助産コース）

【教育方針】

助産高度実践コースは、女性とその家族の生涯にわたる健康を支援できる自律した助産師の育成を目的とし、特に周産期医療における病院内外の助産システムに対応できる専門性の高い助産師の育成を目指した教育を目指している。助産師免許取得プログラムでは、助産師免許取得に向けた基礎的な知識・技術からハイリスク、医療施設や地域における助産実践など幅広い場所や様々な問題を抱える母子への助産ケアを可能にする助産教育を目指している。助産師プログラムでは、学生の興味や学ぶ意欲を重視した実習や演習を取り入れ、より高度な助産実践や将来のリーダー育成に向けた教育を目指している。

助産学概論（助産師免許取得プログラム）　1年次前期

齋藤益子、宮崎文子

本講義の目的は、助産師のアイデンティテーを獲得していく動機とする。助産及び助産の基本概念及び歴史的変遷から概説し、女性を取り巻く社会背景を認識し、助産師の責務と社会変化の中で期待される役割の重要性、さらに助産師活動に取り組む姿勢と魅力について系統的に教授した。具体的内容は、助産の基本理念、助産とは、助産歴史とこれからの課題、助産学を構成する理論、助産師教育制度と課題、リプロダクティブ・ヘルス/ライツと今日的課題、母子保健の動向と課題について講義とディスカッショ

ンを織り交ぜながら展開した。来年度も最新情報を取り込みながら講義を工夫したい。

生殖機能学（正常・異常）（助産師免許取得プログラム） 1年次前期

山下博 他、齋藤益子

女性生殖器の解剖・生理、性周期とその調節機構、配偶子の形成、受胎メカニズム 妊娠の成立から出産までの生殖生理を助産実践が生理学的根拠をもって行えるよう教授した。また妊婦期については医師の視点から異常を中心に教授した。さらに女性のライフサイクルを通じた性と生殖の健康問題、性と生殖に関する疾患及び異常（婦人科疾患）に関する基礎的な知識を持ってもらうため教授した。婦人科疾患については、月経異常、子宮内膜症、更年期等、外来でよくある婦人科疾患の理解を深める講義内容とした。

今年度も講師が臨床での緊急手術等で、時間割通りに講義を行えないことがあり、一部の講義を後期に行った。次年度も講師との調整が必要である。

助産薬理学特論（助産師免許取得プログラム） 1年次後期

八鍬奈穂、中島研、伊藤直樹、齋藤益子

八鍬講師が薬理学の総論および基礎（作用機序、代謝経路、半減期等）を講義した。また妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について特に漢方を含めて解説した。中島講師が妊婦や授乳婦における催奇形性、胎児毒性、授乳中の安全性について薬物使用上の管理および留意点について講義を行った。伊藤講師は新生児における発達薬理の講義を行った。また薬剤情報の収集方法と読み方および薬剤の取り扱い（麻薬・向精神薬など）と、薬剤の処方／投与と倫理を講義し、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理性とは何かについて学習させた。

妊産褥婦に頻用される治療薬の理解に中心をおいてきたが、正常な妊婦や授乳婦が薬局で手軽に購入することができる薬剤やサプリメントの使用方法や注意点等について、講義内容を広げていくことも課題のひとつである。

助産栄養学特論（助産師免許取得プログラム） 1年次前期

北島幸枝、齋藤益子、加藤知子

健康な妊娠・出産・育児が行える女性の心と身体作りのための食事のあり方について、基礎知識と具体的な栄養管理や食事指導方法の習得、献立の作成（立案）ができることを学習目標とした。北島准教授は、まず、出産適齢期の食生活の現状と問題点を通して、健康な女性の身体作りに必要な栄養管理に関して講義した。さらに、日本人の食事摂取基準 2015年版を基本に、妊婦・授乳婦における必要栄養素量の考え方や食事調査等からの栄養アセスメントと栄養管理方法、乳汁栄養の栄養上の特性と問題点、補完食の進め方等の講義を行った。また、後半は昨年度に課題であった、臨床現場での保健指導を念頭に、具体的な妊産婦指導に役立つように調理実習をとりいれ。このことから、学生は実習中に具体的な離乳食や減塩食のイメージができ、保健指導に活用することができた。次年度も本年度を踏襲して実践的な授業を展開する。

助産臨床推論（助産師免許プログラム・助産師プログラム） 1年次後期

齋藤益子、高橋純

助産師として適切な時期に適切な判断−助産診断力−の修得と向上を目的として臨床推論の知識や思考プロセスについて講義と演習を行った。臨床推論の基本的な概念について講義し、対象の症状・訴えから診断を導き出すための臨床推論の思考プロセスの理解・習得を意図して演習を実施した。今年は、基礎助産学実習を 7 月～8 月に行ったため、秋からの講義の理解が良く、予定通りに終了した。演習シートは Clinical Problem、鑑別診断、Must be ruled out（見逃してはいけない疾患）、Common(頻度が高い疾患)、確定診断までの思考プロセスがより理解できることを意図して作成した。次年度も今年度の進め方を踏襲して学生の理解度を見ながら検討する。

妊娠期診断・技術学(助産師免許取得プログラム) 1年次通年

齋藤益子、平出美栄子、小嶋奈都子、加藤知子、山本詩子、仲井果菜子

妊娠期の心身の生理的変化と妊娠期に起こりやすい異常、胎児の成長発達、妊婦とその家族へのケアと支援について講義した。妊娠期に必要な保健指導、出産準備教育、基本的な助産技術については、講義と演習を行い、模擬事例を用いてロールプレイング演習を行った。後期には妊娠期の集団指導を計画立案から実施まで行った。

実習に向けて必要な技術の確認を目的として、妊婦、褥婦・新生児の観察に必要な技術チェックを行った。これを行うことで、学生の練習につながり最終的に技術の確認だけではなく技術の向上につながった。妊娠期の集団指導として、「パパママクラス」を開催したが、実際の妊婦を集めるのに難渋した。次年度は妊婦の募集方法を検討する必要がある。

産褥期診断・技術学（助産師免許取得プログラム） 1年次通年

加藤江里子、平出美栄子、加藤知子、宮下美代子、松井哲、仲井果菜子、羽鳥恵美、

産褥期女性の身体的・心理的・社会的変化に応じた助産診断とケアを行うための基本的な知識と技術についての講義、演習を行った。産褥期に必要な保健指導については、指導案を作成し、学生同士で模擬指導を実施した。助産診断については事例を用いて助産過程の展開を行い、個人指導とグループワークを通して産褥期の助産診断の理解を深められるように指導した。

母乳育児支援としては、宮下助産院を訪問し乳房管理の実際を見学しながら講義を聞いた。さらに、別科目になるが、地域助産活動論の中において母乳管理・マッサージを主な事業とする開業助産院からの講師によって、オケタニ式乳房管理法、ラクテーションコンサルタント、堤式乳房マッサージ法の講義を組み入れ、それぞれの特徴を知ることで実習に活かせるように講義、演習を行い、産褥期に活用できる様に試みた。

次年度は、授業の中でより具体的な産褥期の女性のイメージ持ち、ケアを検討できるように講義や演習を充実させていきたい。

新生児期診断・技術学(助産師免許取得プログラム) 1年次前期

平出美栄子、加部一彦、藤田恵理子、加藤知子

新生児の生理について理解を深めるため、体温、栄養、電解質、黄疸、吸収と循環、発育、生理機能・運動機能・精神機能の発達について講義を実施した。新生児のアセスメントと助産診断については、出生直後の児の健康状態とその後の胎外生活への適応過程のリスクアセスメントを行うため、胎児の健康状態をアセスメントする情報であるモニタリングの講義をこの科目で実施した。出生後の新生児の生理的変化と胎外生活への適応状態の助産診断の修得を目標とし助産過程の演習を行った。この演習では、

現時点での助産診断だけではなく、今後、新生児がどのような経過をとるかのリスクについての経過診断について理解できることを意図した演習を行った。新生児の観察と計測技術については、出生直後の新生児の計測方法、出生直後の全身観察の技術演習を行った。1年次後期に予定しているNCPRのAコース受講に向けた講義と演習を行った。来年度も同様に進めていきたい。

助産診断・技術学特論(助産師免許取得プログラム・助産師プログラム) 1年次通年

齋藤益子、平出美栄子、高橋純、小松久人、岡田研吉、酒井涼、たつのゆりこ、臼井いづみ、高村ゆ希、飯野幸峰

医学と助産モデルから代替医療なども含めた、応用的な助産診断と助産ケアを可能にする知識と技術の習得を目標として、以下の項目についてオムニバスで講義と演習を実施した。①超音波検査の原理と操作方法の基礎、胎児計測の演習、②会陰縫合の講義と演習、③NICU・ディベロップメンタルケア、④未熟児や先天性疾患を持って産まれた児と家族へのケア、⑤チームステップス、⑥ペリィネイタルロス、遺伝カウンセリングなど倫理的助産ケア、⑦妊産褥婦への漢方と東洋医学、アロマテラピーである。この科目では、助産師免許取得プログラムでは、新生児蘇生法 A コースのライセンス取得、助産師プログラムでは、新生児蘇生法 A コースのインストラクター取得に向けアシスタントとして、それぞれコースに参加できるよう調整を図った。次年度も継続していきたい。

ウィメンズヘルス特論(助産師免許取得プログラム・助産師プログラム) 1年次前期

齋藤益子、片岡弥恵子、早乙女智子

セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス、女性のライフサイクルに沿った健康問題に対する助産ケアに必要な基礎的能力を養い、女性の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウィメンズヘルスにおける助産ケアを追究することを目標に展開した。思春期、成熟期、更年期にみられる健康問題、受胎調節の実地指導に必要な原理・知識・技術に関して、講義だけではなく、院生のプレゼンテーションとディスカッションの形式で学習を進めた。女性の健康に影響を及ぼす促進要因と阻害要因および助産ケアの理解を深めた。

次年度もプレゼンテーションの形式を継続し、活発なディスカッションができるよう構成する。

ウィメンズヘルス演習(助産師免許取得プログラム・助産師プログラム) 1年次通年

齋藤益子、平出美栄子、加藤知子、小嶋奈都子

思春期、成熟期、更年期、老年期、周産期のいずれか特定のライフステージにおいてヘルスケアニーズをもつ女性の特徴を分析し、ケアモデルを検討することを目標に展開した。また、思春期の小学生・中学生・高校生を対象に性教育指導案を作成し、学内演習後に都内の中学生を対象にグループ指導を行った。中学生に直接指導できたことは、対象の反応を見ながら進めることができ、有用であった。

次年度も中学生への性教育をはじめ、女性のライフサイクルに合わせた健康教育プログラムの作成と実践を経験できるように進めていく。

不妊症・遺伝看護学特論(助産師免許取得プログラム・助産師プログラム) 1年次前期

朝澤恭子、小澤伸晃

遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病などの患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解することを前提に展開した。主な遺伝性疾患の遺伝形式、

クライエントが抱える課題と必要なケア、遺伝的な課題を持つ人々へのアセスメントの視点、不妊症の検査および治療、クライエントが抱える課題と必要なケアに関して講義を進めた。また、不妊治療を受ける人々へのアセスメントの視点を理解できるよう展開した。

助産管理学特論(助産師免許取得プログラム) 1年次前期

齋藤益子、宮﨑文子、藤村恵美、平出美栄子

本講義の目的は、助産師の働く場の病院をはじめとする診療所、助産所等の組織において「経営」という広い枠組みの中で「質の高い助産の提供」と「経営効率」の両立においていかにしたら成果を上げられるかを検討し、助産管理の在り方を考察する。具体的には組織と管理における基本概念とその変遷から概説し、マネージメントの基本的考え方をドラッカー理論から学び、施設助産管理への応用を試みる。また、マーケテング理論、医療経済、関連法規及び周産期医療システム、目標管理、総合病院での助産師外来と院内助産(院内助産システム)の実際、災害と助産師の役割、関係法規等について講義及びディスカッション形式で進めた。助産管理、目標管理、助産所の管理運営、総合病院における管理と周産期医療システムについての講義を行った。次年度も学生が主体的に学べるよう授業を計画していきたい。

地域母子保健学特論(助産師免許取得プログラム) 1年次前期

齋藤益子、大澤豊子、福島富士子、山内淳子

地域母子保健の今日的課題について考え、地域で助産師に期待される役割、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。学生が考える日本の社会における母子保健の今日的課題の現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、助産師が地域で果たすべき役割について、討論し、最後はレポートとしてまとめた。演習として、学生が実習を行う病院の所在する市区町村の地区踏査を実際に行い、地域診断の演習を行った。次年度も同様に行う。

助産学基礎実習(助産師免許取得プログラム) 1年次

齋藤益子、平出美栄子、加藤江里子、加藤知子、志村智絵、杜稀衣

国立病院機構東京医療センター、国立病院機構相模原病院、国立病院埼玉病院、東邦大学医療センター大森病院の 4 施設で行った。今年より、7 月～8 月のうちで 5 週間の実習とした。

実習では、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産診断、助産過程の展開を目標とした。妊婦健診 20 例のうち妊娠中期 2 例、後期 2 例について助産過程を展開した。分娩介助実習とし、4 施設で夜間のオンコール実習を行い、4 例～5 例/人以上の分娩介助を行い、分娩期の助産診断および助産ケアを行った。

産褥/新生児期では、1 組の母児を受け持ち、助産計画を立案しケアを実施した。

前年の 2018 年度の課題として、学生 1 人に 5 件以上の分娩介助が可能な実習環境を整えることを掲げおり、2019 年度は目標がおおむね達成できた。実習の内容、習熟度の達成評価など、さらに分娩期の実習のあり方(分娩見学/分娩介助)について検討が挙げられる。

助産実践力開発実習(助産師免許取得プログラム) 1年次後期

齋藤益子、平出美栄子、加藤江里子、加藤知子、志村智絵、杜稀衣

国立成育医療研究センター、医療法人産育会堀病院、国立病院機構埼玉病院、国立病院機構甲府病院で実習を行った。対象の個別性と経過予測をふまえた助産診断と実践能力の修得をこの実習目標

とした。成育医療研究センターでは無痛分娩クラスの見学と2～3 例/人の分娩介助を行った。堀病院では 2～3 例/人の分娩介助と2～3 例程度の間接介助の実習を行った。埼玉病院では 2 名、甲府病院では 6 名の学生が、夜間もオンコール体制で分娩介助実習を行い、続けて産褥期まで短期継続事例として、1 母児 1 例を受け持ち、保健指導の立案や指導を実施した。分娩介助例数は、1 週間/人の補習実習期間を含めて 11～10 例/人であった。

今後は、さらなる分娩介助数の増加と、介助数に見合った助産診断、ケアの内容を充実させていく必要がある。また、分娩直後の新生児（ベビーキャッチ）の計測・NCPR の実践の充実を図り、高度実践助産学にふさわしい知識と実践能力の強化が課題である。来年度も、実習の内容を見直しつつ実習の質の確保に努める。

助産実践力発展実習（(助産師免許取得プログラム） 2年次前期

齋藤益子、平出美栄子、加藤江里子、加藤知子、志村智絵、杜稀衣

ハイリスク妊婦とハイリスク児を対象とした実習を、国立病院機構東京医療センターの産科病棟・産婦人科外来 2 週間、国立成育医療研究センターの NICU3 日間, 国立病院機構神奈川病院の重症心身障害病棟 2 日間で、それぞれ実習を行った。東京医療センターではハイリスク妊婦を約 8 日間受け持ち、妊娠中の管理、治療、リスクについて学んだ。NICU では、各学生が目標を挙げて実習に臨み、NICU における助産師の役割について考察を行った。神奈川病院では障害を持つ子どもの療養と生活・学習支援、障害を持つ子どもとその親が抱える心理的・社会的課題について学べた。ハイリスクな対象を支援する施設内外の専門職の連携・協同についても学びを深めた。実習前に各自の課題を明確にするためのカンファレンスを実施し、実習目標を明確にしたうえで実習を行ったことから、実習における学生の学びが具体的になり、学びが深まった。次年度も実習の質の確保に努め、継続していく。

EBPM探究論（助産師免許取得プログラム、助産師プログラム） 1年次前期

朝澤恭子

エビデンスに基づいたケアが実践できるように Evidence-based Practice in Midwifery の基本的知識を習得することを目標とし、周産期における女性と家族の健康に関する問題を解決するための方法論を、文献クリティークを通して講義した。

演習として、身近な事例から、周産期女性の問題・疑問を定式化し、最適な文献を探し出し、PICO を用いて批判的吟味を行った。さらに、各自で関心のある疑問につきエビデンスを探す文献検索を行った。具体的方法として、助産領域の RCT 論文を選択し、論文の PICO、ランダム割り付け、ベースラインの同等確認、Outcome への反映、ITT 解析、脱落率、マスキング、結果の評価といった手順でクリティークを行った。エビデンスに基づいた結果の理解と批判的吟味を修得した。文献クリティークは、課題研究、特別研究の科目においても、研究課題や研究方法の検討に有益であるため、次年度も同時期に研究科目での学修に活かせるよう、講義および演習を継続したい。

助産実践力強化演習（助産師プログラム） 2 年次前期

齋藤益子、平出美栄子、産婦人科医師、松井哲、小松久人、加藤知子

成人女性の正常な子宮、卵巣、卵管、膣（以下、骨盤内臓器とする)の超音波画像の評価ができることを目標とした演習を 国立病院機構東京医療センターの産婦人科外来と外科乳腺科で行った。検査技

師と乳腺科医師による学内での講義、産婦人科外来では、子宮、卵巣の正常について、経腹、経膣での正常な骨盤内臓器画像の評価、頸菅長の測定・評価、産褥期の子宮の評価について学習した。外科乳腺科では、新しい試みとして講義に乳腺ファントムを用いて乳腺の画像評価を学習した。また、医師の症例カンファレンスに参加して疾患と画像評価についての学びを深めた。

助産フィジカルアセスメント学演習　1 年次前期

平出美栄子、忠雅之、松田義雄、土屋　清志、松井　哲

本講座は、上記 5 人の担当講師で構成し、以下の内容の知見について深めた。

妊娠・出産・産褥期を通して変化する女性の身体を理解する為に、その変化が正常範囲なのか異常を予兆するサインなのかを判断する助産診断能力を育成することを目標とした。これには、問診、視診、聴診、打診、触診、五感を駆使したフィジカルイグザミネーションの技術と、その得られた情報の解釈について講義と演習を駆使した。周産期の女性の全身の包括的アセスメントができ、正常異常の判断ができる助産実践能力の強化に努めた。

また周産期のみならず、非妊女性のライフサイクルを通した健康を推進し異常を予防するための基礎的なアセスメントができる全身のフィジカルイグザミネーションの技術を習得する講義・演習の展開を行った。また、近年助産師が乳がんを発見することも求められている現状を加味して、乳がんについての基本的な知識についての講義・演習を行った。

分娩期診断・技術学　1 年次通年

平出美栄子、高橋　純、土屋　清志、加藤江里子、加藤知子、杜稀衣

分娩期における女性と胎児の生理的プロセスと生理的状態からの逸脱を診断する知識を習得すること、分娩介助法と助産ケアの技術を習得する目的で、前出の講師陣を構成し、講義・演習を実施した。加えて、分娩期の女性の心理的変化について学び、女性に寄り添う助産実践力の向上に力を注ぎ、分娩期における助産師の役割について考察できるよう講義・演習を展開した。さらに、分娩期の女性と胎児の異常とその原因・要因、治療、管理について学び、その援助および予防に向けた助産ケアの実践について考える力を養う講義・演習を行った。

分娩技術学では、講義の時間外にも演習時間を設け、集団指導・個別指導に力を注ぎ、分娩介助の技術に備えた結果、分娩介助技術能力の向上につながった。 分娩介助技術は、主に仰臥位分娩の介助講義・演習が展開されていることが中心であるが、高度実践助産を目標に、フリースタイル分娩介助の講義・技術演習を取り入れ、未来に求められる助産師の技術講義・演習を展開した。

地域助産活動論　1 年次後期

平出美栄子、宮﨑文子、土屋清志、宮下美代子、氷見知子

助産師の開業権を生かし母子および家族のニーズに沿った地域医療・地域助産活動について講義を展開した。特に実際の助産所の経営管理、財務管理（損益分岐点分析と演習）、マーケテング理論と経営戦略について学び、これらを踏まえて助産所開業計画を立案し、効果的な医療連携システム（他職種含む）のあり方を検討・考察した。また、助産業務の安全性（判断基準と救急支援システム）、医療事故と助産師（関連法規との関連）について理解を深めた。

本講義の特徴としては、満足度の高い「いいお産」の実現のために、助産所で取り組まれているフリースタイル分娩の実践力を身につけるために演習として組み込んでいる。このことは、助 産所実習に役立

つことが出来ている。

また、多岐にわたる助産師の活動について体験的に学ぶ機会を設定した。助産師の開業権を活かした地域での母乳開業助産師を講師に招き（オケタニ式乳房管理法、ラクテーションコンサルタント、堤式乳房マッサージ法）の講義・演習を組み入れ、開業の特徴を知ることで実習に活かせるように指導した。

地域助産学実習　1年次後期・2 年次前期

齋藤益子、平出美栄子、加藤江里子、加藤知子、杜稀衣

助産所実習施設は、いなだ助産院、さくらバース、とわ助産院、目白バースハウス、森重助産院、矢島助産院の 6 施設とした。保健所実習は、大田区、みなと区、杉並区の各保健センターで実施した。

地域助産学実習のねらいとして、助産師の役割、母子に関わる姿勢の根源とは何か、高度実践助産ケアとはどのようなケアを指すのかについて、6 週間という実習期間をかけ、これまでの実習を振り返りながら、考察した。

特に、助産師のみで取り扱う正常出産を、妊娠・分娩・産褥を通して、どのように自律して実践しているのか理解する。そのために求められる、助産業務の安全性（判断基準と救急支援システム）を理解し、効果的な医療連携システムについて考察した。

また、助産所の経営管理の実際を見学することで、開業権を生かした助産師の働き方について考察することを目標にした。さらに、連携施設・団体の活動の実際を理解する事、実習を通して保健所における母子保健事業・地域医療連携の実際を見学し考察することを目指した。

次年度も同様に自律した助産師育成を目標として、より効果的な実習ができるよう学生を支援する。

研究特論　1年次前期

今井秀樹、田中留伊、関屋伸子、朝澤恭子、高木晴良、佐藤潤、小宇田智子

①看護研究における研究テーマの設定法、データ収集・解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。

②本来の研究はどういうものであるかを教える。

課題研究　1～2 年次通年

2 年生 7 名が課題研究に取り組み審査の結果合格した。末尾に記載する。

助産学特別研究　1～2 年次通年

草間朋子、今井秀樹、齋藤益子、朝澤恭子、平出美栄子

1 名の助産師プログラムの学生が特別研究に取り組み最終試験（主査及び副査2名による口頭試問）を受けて合格した。

看護学研究科（修士課程：高度実践公衆衛生看護コース）

【教育方針】

高度実践公衆衛生看護コースでは、地域の住民の特性を的確に把握し、自立を支えることを通して、地域住民のヘルスリテラシーを高め、さらには地域のソーシャル・キャピタル等を高めることができる保健師の育成を目指している。その中において「地域住民の自律を支える能力」、「政策や保健事業をプランニング・コーディネーション・マネジメントのできる能力」、「疫学・統計学の基礎を理解し、分析・研究を実

践に活かせる能力」、「災害対応や新興・再興感染症への危機管理能力」、「健康で働き続けられる就労者・就労環境の支援ができる能力」の 5 つの能力を備えることができるように講義・演習・実習を設定している。

公衆衛生看護学概論　1 年次前期

佐藤潤、嶋谷圭一、村中峯子

公衆衛生看護学の理念と基本を理解するとともに、地域で生活する人々の多様な健康や生活上の問題を理解し、健康の増進、疾病予防、個々人や地域の健康課題の解決法、保健師としての支援活動および、保健・医療・福祉の関係者との連携支援体制について学ぶことを目標に掲げた。

コミュニティアセスメント論　1 年次前期

佐藤潤、嶋谷圭一

保健師活動に必要とされる地域住民の健康状態、生活状況、住民の認識、環境に関する潜在的・顕在的なニーズを把握するための情報収集の方法、 アセスメント・分析、課題の明確化と課題解決の方法など一連の地域診断の基本および方法を学ぶことを目標に講義を行った。

次年度は、講義内にコミュニティアセスメントを用いた実例等を多く用いることで学生の講義の理解を深める工夫をしていきたい。

公衆衛生看護活動論Ⅰ（対象別方法論）　1 年次前期

長島真由美、佐藤潤、村中峯子

母子、小児、成人および高齢者の各ライフステージの公衆衛生活動、感染症、難病、精神、障害などの健康課題別に実施されている公衆衛生看護活動の実態を学ぶことを目標に演習を展開した。

次年度は科目の構成や演習方法を大幅に見直していきたい。

公衆衛生看護活動論Ⅱ（タスク別方法論）　1 年次前期

長島真由美、佐藤潤

地域で生活する個人・家族・集団・地域など様々な対象者へ公衆衛生看護過程を展開するための基礎的理論を学ぶ。母子、小児、成人および高齢者の各ライフステージの公衆衛生活動、感染症、難病、精神、障害などの健康課題別に実施されている公衆衛生看護活動の実態を学ぶことを目的に講義・演習を行った。

次年度は科目の構成や演習方法を大幅に見直していきたい。

地域保健学特論　1 年次前期

佐藤潤、長島真由美

地域保健の概念・諸理論を踏まえ、地域で生活する人々を対象とした地域保健に関わる制度や社会資源、健康に関わる環境等の情報を分析し、個人・家族・集団・地域を単位とした課題を解決するための展開方法を理解することを目的に講義を行った。

今年度は海外のテキストの輪読形式で講義を行った。次年度は講義方法について見直しを行い、学生の理解度を高める工夫をしていくことが必要である。

公衆衛生危機管理論　1 年次前期

佐藤潤、長島真由美、嶋谷圭一

自然災害や新興・再興感染症対策に関する法制度や動向について理解し、保健師としての役割、支援方法を学ぶ。また、災害時の BCP についても学び、産業保健師として先駆的役割を果たすための視点を養うことを目的に講義を行った。

次年度は専門家の招聘等を検討し、より実践に即した知識を習得できるよう工夫をする。

感染マネジメント　1 年次後期

木村哲、菅原えりさ、工藤翔二、四柳宏、大石和徳

住まいづくり論　1 年次前期

佐藤潤、長島真由美、村中峯子

WHO や健康日本 21（第二次）において着目されている環境に焦点を当てた健康増進・疾病予防をするための視点や方策を学ぶ。個々人の住環境などのミクロ的視点や都市工学や環境工学などのマクロ的観点から住みやすい町づくりおよび防災に強い町づくりについて理解を深めることを目的として講義を行った。スマートシティへの見学演習等を通して最先端のまちづくりを体験した。

次年度も講義と演習を通して住まいづくりと健康との関連を深められる講義に取り組んでいく。

健康教育方法論　1 年次前期

佐藤潤

対象者の自己効力感を効果的かつ持続的に高めるための各種教育スキルを教育学や心理学の理論を応用して学ぶ。保健師として、対象者の自立を支えるための効果的な健康教育を実施するのに必要な視点を養うことを目的に講義を行った。

次年度は講義にインタラクティブな要素を加えて学生の理解を深める工夫をしていく必要がある。

産業保健学　1 年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一、髙野久美子、渡邉淳子

産業の場で就労している対象の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる産業保健活動の基礎知識と技術を修得することを目的に講義を行った。実際の産業保健師からの講義も入れることで現場に即した知識も教授できた。

学校保健学　1 年次後期

佐藤潤

就学している対象（児童・生徒・学生）の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる学校保健活動の基礎知識と技術を修得することを目的に講義を行った。

次年度は学生の理解度がより高まるように、学校保健の専門家の招聘を視野に入れる。

国際保健学　1 年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一、池田陽子

世界の公衆衛生システムから日本の公衆衛生システムを省察し、国際的な公衆衛生看護の視点を醸

成し、具体的な看護活動に取り組む能力を修得することを目的に講義を行った。
学外から国際保健の専門家も招聘することで学生の理解度も高まった。
次年度も専門家の招聘を行い、最新の国際保健の同行について知識を与えられるような工夫が必要である。

コミュニティアセスメント演習　1年次後期
佐藤潤、嶋谷圭一
コミュニティアセスメント論で学んだ知識、技術を応用して地域診断を実践する。様々な手法で入手したデータを基に、地域住民の健康にかかわる問題・課題とその要因を分析し、地域の生活や健康課題を解決するための活動計画とその評価、施策化の視点を演習を通して学んだ。
次年度は本科目の内容を実習により活かせるように課題の提示方法等工夫していく。

疾病予防看護学特論　1年次前期
佐藤潤、嶋谷圭一
国内外のヘルスプロモーションの論文講読を通して、疾病予防に関する先駆的な知識を深め、ヘルスプロモーションを公衆衛生看護の現場で効果的・効率的に展開する手法について学習することを目的とした。
次年度は輪読の頻度や間隔を工夫することで学生が無理なく英語論文に接することができるよう工夫をしていく。

自立支援教育特論　1年次前期
佐藤潤、嶋谷圭一
さまざまな健康課題を抱えた対象（個人・家族・集団）に対して、課題解決、予防的観点から対象のセルフケア能力・自己効力感を高める効果的な公衆衛生看護を提供するための教育・指導の理論と手法を学ぶことを目的とした。
次年度は輪読の頻度や間隔を工夫することで学生が無理なく英語論文に接することができるよう工夫をしていく。

自立支援教育特論演習Ⅰ　1年次前期
佐藤潤、長島真由美、嶋谷圭一
地域住民を対象とした自立支援イベントでの健康教育等の実践を通して、地域住民のヘルスリテラシーを高め、地域のソーシャル・キャピタルを高めるためのアプローチについて実践的に理解を深めることを目的とした。健康教育の計画から評価までの一連のプロセスを実演を通して学ぶことができた。
次年度は学生個々の特性を活かして実演が行えるよう指導方法等工夫していく。

医療保健疫学　1年時後期
佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一
集団における疾病や健康現象を評価するために必要な疫学の基礎を学び、公衆衛生看護の実践や公衆衛生看護研究において疫学の考え方、手法を活用する方法について理解することを目的とした。
次年度は関連する疫学・統計学系の科目との進捗管理を行い、学生の理解度が高まるよう工夫をする。

医療保健疫学演習　1年次後期

佐藤潤、駒田真由子、嶋谷圭一

高度な疫学の知識を使いこなすために、研究デザインや交絡因子の調整方法について論文の講読を通して理解を深め、公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養うことを目的に輪読を行った。次年度は関連する疫学・統計学系の科目との進捗管理を行い、学生の理解度が高まるよう工夫をする。

保健統計学演習　1年次後期

佐藤潤

高度な保健統計学の知識を使いこなすために、多変量解析や生存分析などの分析手法について論文の講読を通して理解を深めるとともに、統計ソフトを用いて実際に分析することで、公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養うことを目的に講義・演習を行った。

次年度は関連する疫学・統計学系の科目との進捗管理を行い、学生の理解度が高まるよう工夫をする。

公衆衛生関連法規　1年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一

日本国憲法を始めとして，公衆衛生看護の分野に関連した法律や制度について学び，保健師として地域づくりを推進するために必要な法制度に関する知識を習得することを目的に講義を行った。

次年度は講義方法を工夫して学生が様々な法律について学びが深められるよう工夫を行う。

行政論　1年次後期

佐藤潤、村中峯子

公衆衛生看護を実践する基盤である行政の仕組みについて、保健医療福祉分野に留まらず広く地方自治制度や財政制度についても学び、将来の公衆衛生看護に係る政策形成へ参与できる能力を養うことを目的に講義を行った。

次年度はもう少しテキストに準拠した講義内容に修正するとともに、学生にとって必要な知識を明確にした講義構成を検討する。

公衆衛生看護学実習Ⅰ　1年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一

保健所や保健センターなどの公衆衛生看護活動の場における実習を通して、地域の健康課題を解決する仕組み、公衆衛生看護の展開プロセス、危機管理における保健師の役割、公衆衛生看護活動技術を実践的に学ぶことを目的に実習を行った。

次年度は実習目的が達成しやすいよう評価方法の工夫を行うとともに、現場の実習指導者と綿密な事前打ち合わせを行っていく。

公衆衛生看護学実習Ⅱ　1年次後期

佐藤潤、嶋谷圭一

職場における産業保健活動の実際と産業保健活動の仕組みや産業看護職の役割について実践的に学ぶ。労働者・家族の特性を理解し、健康課題の把握と援助の方法、必要な連携・協働・ネットワークづく

り職場巡視等について理解することを目的に実習を行った。
次年度は産業保健学の講義内容と実習内容とがより深く結び付けられるように工夫を行っていく。

看護学研究科　(修士課程:看護科学コース)

【教育方針】

実践の科学である看護学の発展、進化および看護の一層の質の向上のために、教育現場と実践現場との連携と協同を通して、課題解決に的確に対応できる人材の育成を目指す。特に、看護学を自然科学の視点から探求することにより、エビデンスを蓄積し、それらのエビデンスを看護実践にまで発展させることができる資質を涵養し、社会および時代のニーズに的確に対応できる課題提供，課題解決能力を備えた教育研究者としての人材を育成する。

研究特論　1年次前期

今井秀樹、田中留伊、朝澤恭子、高木晴良、佐藤潤、小宇田智子

① 看護研究における研究テーマの設定法、データ収集・解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。
② 本来の研究はどういうものであるかを教える。

健康生命科学特論Ⅰ　1年次通年

小宇田智子、今井秀樹、酒井一夫

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を教授した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用い、個体、組織、遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解させた。来年度も同様の内容で行う予定である.

健康生命科学特論Ⅱ　1年次通年

今井秀樹、高木晴良、小宇田智子

ヒト集団レベルでの健康像を把握する方法を教授した。特に人類生態学的手法によるフィールド調査の実際について具体例をもとに解説した。

看護基盤科学演習Ⅰ　1年次通年

今井秀樹

英語論文抄読を行った。対象とした文献は広く医学・生物学の分野から選択させるようにした。

看護基盤科学演習Ⅱ　2年次通年

今井秀樹

英語論文抄読を行った。対象とした文献は広く医学・生物学の分野から選択させるようにした。

小児看護学特論Ⅰ　　1年次前期

中島美津子、玄順烈

乳幼児期にある子どもの成長発達・生活環境・子どもと家族を取り巻く諸理論の探求と実際の援助に向

け、講義内容としては、各発達理論および理論家の背景および理論の源泉を理解すること、各発達理論の概要を理解すること、看護における発達理論の適用と課題を考えること、各発達理論の理論分析を行うことを目標としてアクティブラーニングを展開した。フィンク、クラウスとケネル、ドローター、マーガレット・マーラ、ウィニコット、ゲゼル、デュヴァル、ボーエン、ミルトン、エリクソン、ベイトソンなどの諸理論について文献レビューをし、経験症例をこれらの理論を使って分析することで、多角的理解を深めた。一症例について、複数の理論に基づき分析することで、当初見えていなかった解釈に気がつくことができ、今後の実践に活かすことで、さらに質の高い看護に結びつけながら、臨床現場での学生指導にも活かせる学びができたと評価を得た。次年度も患児を多角的に捉え、社会的単位としての家族を含めた理論分析を展開することで、高度な専門職としての実践家育成を図りたい。学生からは、今後、増加傾向にある発達障害や医療的ケア児までをも包含する学習による今後への示唆が得られたという評価を得ている。次年度もアクティブラーニングの展開を考えている。

小児看護学特論Ⅱ　１年次　後期

中島美津子、玄順烈

小児看護学特論Ⅰをさらに発展させることを目的とした。講義内容は、小児看護特論Ⅰで学んだ理論を使い、自分が経験した症例について、同じ事例を様々な理論で多角的に分析し、理論をツールとして実践的に使用する参加・演習型の講義内容とした。さらに時事問題に対してセンシング能力を高めるため、乳幼児に関する出来事、社会保障に関するテーマを自ら選択し、情報収集・データ化・分析・プレゼンテーションを実施した。次年度も患児を多角的に捉え、社会的単位としての家族を含めた理論分析を展開することで、高度な専門職としての実践家育成を図りたい。学生からは、今後、増加傾向にある発達障害や医療的ケア児までをも包含する学習による今後への示唆が得られたという評価を得ている。次年度もさらなる工夫をしてきたい。

成人・老年看護学特論Ⅰ　１年次前期

竹内朋子、松本和史

急性期、老年期医療における今日的課題を明らかにし、看護実践の質を担保するための対策を考察することを目標とした。関連する研究論文を講読し、学術的な動向を把握したうえで、各テーマに関する実践上の課題を抽出し、自己の見解を論述するワークをあわせて行なった。

成人・老年看護学特論Ⅱ　１年次前期　看護科学コース

竹内朋子、松本和史

慢性期、終末期医療における今日的課題を明らかにし、看護実践の質を担保するための対策を考察することを目標とした。関連する研究論文を講読し、学術的な動向を把握したうえで、各テーマに関する実践上の課題を抽出し、自己の見解を論述するワークをあわせて行なった。

小児看護学特論Ⅰ　１年次前期

中島美津子、玄順烈

乳幼児期にある子どもの成長発達、生活環境、子どもと家族を取り巻く諸理論の探求と実際の援助に向け、講義内容としては、各発達理論および理論家の背景および理論の源泉を理解すること、各発達理論の概要を理解すること、看護における発達理論の適用と課題を考えること、各発達理論の理論分析を行う

ことを目標としてアクティブラーニングを展開した。フィンク、クラウスとケネル、ドローター、マーガレット、マーラ、ウィニコット、ゲゼル、デュヴァル、ボーエン、ミルトン、エリクソン、ベイトソンなどの諸理論について文献レビューをし、経験症例をこれらの理論を使って分析することで、多角的理解を深めた。さらに時事問題に対してセンシング能力を高めるため、乳幼児に関する出来事、社会保障に関するテーマを自ら選択し、情報収集、データ化、分析、プレゼンテーションを実施した。学生からは、今後、増加傾向にある発達障害や医療的ケア児までをも包含する学習による今後への示唆が得られたという評価を得ている。次年度もアクティブラーニングの展開を考えている。

小児看護学特論Ⅱ　1年次後期

中島美津子、玄順烈

小児看護学特論Ⅰをさらに発展させることを目的とした。講義内容は、小児看護特論Ⅰで学んだ理論を使い、自分が経験した症例について、同じ事例を様々な理論で多角的に分析し、理論をツールとして実践的に使用する参加、演習型の講義内容とした。一症例について、複数の理論に基づき分析することで、当初見えていなかった解釈に気がつくことができ、今後の実践に活かすことで、さらに質の高い看護に結びつけながら、臨床現場での学生指導にも活かせる学びができたと評価を得た。次年度も患児を多角的に捉え、社会的単位としての家族を含めた理論分析を展開することで、高度な専門職としての実践家育成を図りたい。

放射線保健学特論Ⅰ　1年次前期

酒井一夫、小野孝二、草間朋子

放射線保健学の視点から、放射線の健康影響や被ばく管理に関する知識・技術の基本的事項について講義を通して学んだ。取り上げた項目は、(1) 放射線の特徴、(2) 放射線の線量と健康影響、(3) 放射線の被ばくの種類とその低減方策、(4) 放射線防護・安全の考え方と現行法令。さらに、チュートリアル方式で、放射線を受ける様々な状況（平常時の医療に伴う被ばくや事故時の緊急時被ばく等）や被ばく管理、健康管理のあり方・やり方につき考察し、放射線利用に伴う放射線保健学の重要性について認識を新たにした。

放射線保健学特論Ⅱ　1年次後期

酒井一夫、小野孝二、草間朋子

原子力、放射線事故への対応ならびに汚染地域での放射線リスク、マネジメントについて学び、大規模事故後の汚染地域の住民に対する支援のあり方について考察することを目的として講義と現地視察を行った。(1) 国際放射線防護委員会の報告書等を理解し、原子力事故後の放射線防護のあり方とくに住民対応について学んだ。(2) 福島原発事故関連施設を視察した。川内村食品検査所では現在も継続されている「地場作物」の汚染状況検査の現状を知ることができた。原子力安全研究協会、川内村事業所では、環境中の放射性核種の状況に関して調査した経緯を学ぶことができた。東京電力福島第一原子力発電所では、事故当時の状況についての説明を受けるとともに、汚染水対策ならびに廃炉に向けた現状につき説明を受けた。講義、現地視察を通し、原子力事故後の長期にわたる対応の中で放射線保健学の果たす役割について考察した。

保健統計学　1年次後期（高度実践公衆衛生学コース、看護科学コース）

高木晴良、佐藤潤

統計解析の基本的な知識を復習すると共に、国が公開している e-stat のデータから、必要な指標を検索し、分かりやすくグラフ化する方法や SPSS を使った統計解析演習（データの整理から多変量解析まで）を行った。

なお、今年度は NP コース1年生 7 名、看護科学コース2年生 1 名から希望があったため、聴講を許可した。

看護管理学特論Ⅰ　1 年次前期

竹内朋子、松本和史

看護管理に必要な基礎知識を学習し、看護管理者の役割と機能を理解することを目標とした。カリキュラムを 2 部構成とし、第 1 部では看護組織のマネジメントに関する事項、第 2 部では看護組織における人的資源のマネジメントを取り上げた。院生自身の就業経験を活用し、看護管理の視点から所属組織やリーダーを分析し、看護組織としての強みや課題を抽出したり、看護管理者としての自己の資質を考察する課題にも取り組んだ。

看護管理学特論Ⅱ　1 年次後期

竹内朋子、松本和史

看護管理における今日的課題を明らかにし、看護管理の向上に寄与する実践を考察することを目標とした。関連する研究論文を講読し、学術的な動向を把握したうえで、各テーマに関する実践上の課題を抽出し、自己の見解を論述するワークをあわせて行なった。

看護学研究科（博士課程）

【教育方針】

看護学のさらなる発展、進化および看護の一層の質の向上に「貢献できる教育研究者を養成することを目的とする。看護、看護学の発展のためには、EBN に基づいた研究活動，教育活動，実践活動が不可欠である。博士論文の制作を通して、教育研究者として、エビデンスを「つくり」「つたえ」「つかう」プロセスを理解し、それぞれのプロセスにおいて積極的に取り組み、看護界が抱える課題を的確に抽出し、解決していくことができる能力を醸成する。

博士課程の学生として、幅広い視点の洞察力が求められる。そこで、博士課程の全学生（1年次生から3年次生）を対象に、月1回（1回あたり約2時間）のコロキウムを開催した。コロキウムでは、各学生の特別研究の課題（テーマ）に関連した英語論文を紹介する文献抄読や話題に関連した重要事項等を取り上げて 15 分間で発表する 15 分レクチャー、特別研究の進捗状況の報告、特別研究の成果報告を取り上げ、指導教員を含めて議論した。コロキウムのコーディネーターは院生が輪番制で務めた。コロキウムでの発表を通して自らのプレゼンテーション能力を向上することができ、コロキウムへの参加を通してプレゼンテーションを聴講し、質疑応答に加わることにより、研究者としての関心領域を広げ、研究者としての資質の向上が図れたものと期待している。

環境保健学　1 年次通年

今井秀樹、小宇田智子

地域規模から地球規模まで、環境とヒト集団の健康像との関わり合いについて最新のデータを踏まえな

がら教授した。また、環境保健問題に関わりのある英語原著論文の抄読、発表、議論をさせた。

発達看護学　1 年次通年

中島美津子

講義内容としては、各発達理論および理論家の背景および理論の源泉を理解すること、各発達理論の概要を理解すること、看護における発達理論の適用と課題を考えること、各発達理論の理論分析を行うことを目標としてアクティブラーニングを展開した。フィンク、クラウスとケネル、ドローター、マーガレット・マーラ、ウィニコット、ゲゼル、デュヴァル、ボーエン、ミルトン、エリクソン、ベイトソンなどの諸理論について文献レビューをし、経験症例をこれらの理論を使って分析することで、多角的理解を深めた。次年度は、さらに発達段階に則した具体的支援方法の創出に関わる視点を入れながら、全体的にレベルアップする工夫をしたい。

放射線保健学 1 年次　通年

酒井一夫、小野孝二、草間朋子

放射線の健康影響に関する最新の知見を整理した上で、わが国における被ばくの実態を把握し、放射線管理、安全規制のあり方について検討することを目的とした。また、博士論文の課題に設定した事項につき、関連情報を収集、集約することを通して、研究全般にわたるスキルの習得、向上を図った。

研究

【課題研究・特別研究(修士課程 2 年)、博士論文(博士課程 3 年)】

課題研究：高度実践看護学コース

学生氏名	指導教員	研究課題
秋田　久美	酒井一夫、日高未希恵	4拍 1 呼吸は胸骨圧迫深度を維持させることができるか
今井　尚美	佐藤潤、髙橋智子 駒田真由子	ICU・ECU 入室中にチューブ・ドレーン類を自己抜去しない患者の入室時の特性
尾石　早織	田中留伊、小宇田智子 中村裕美、菅原裕美	災害現場での NP の活動の可能性について
金田　明子	草間朋子	大学院修士課程における診療看護師(NP)養成教育の必要性についての考察
狩野　真利	小野孝二、嶋谷圭一	ICRP 勧告に基づく職業被ばくにおける水晶体線量限度の取入れに関する国外動向調査
熊沢　貴史	小野孝二、嶋谷圭一	整形外科領域における Ballom kyphoplasty 施術中の術者およびスタッフの被ばく線量評価と放射線防護策についての考察
利光　恵利子	佐藤潤、髙橋智子 駒田真由子	診療看護師(NP)の病棟配置が看護師に与える影響に関する研究
長野　忍	田中留伊、小宇田智子 中村裕美、菅原裕美	大学病院における診療看護師の活動と活用の実際
濱野　智恵子	松本和史、原口昌宏	Rapid Response System を起動する看護師の認識と行動に関する研究
藤井　宣匡	草間朋子、別所遊子	病院勤務の診療看護師(NP)を対象とした所属部署のメリット・デメリットに関する調査

松山　大地	松本和史、原口昌宏	胸部圧迫の質の低下に関する実際と自覚の乖離　―看護系大学生と看護師の比較―
丸野　実佳	今井秀樹、加藤知子	地域病院の循環器外来に通院する患者のフレイルに対する介入調査

課題研究：高度実践助産コース（助産師免許取得コース）

学生氏名	指導教員	研究課題
栗山　桜	今井秀樹、加藤知子	東日本大震災前後の仙台市における出生状況について
岡野　佐紀子	齋藤益子、小嶋奈都子	子どもを持つ女性の更年期症状の要因に関する検討　―出産年齢、母親役割意識、心理・社会的背景との関連―
木島　楓	朝澤恭子、浦中桂一	有職女性の周産期におけるケアニーズとケアの満足度
小渕　夏海	玄順烈、加藤江里子	3 歳児をもつ母親の育児不安と SNS との関連
竹本　奈央	朝澤恭子、浦中桂一	産褥早期の母親への背部アロマトリートメントによるリラックス感と疲労感の改善効果
穂坂　日向子	平出美栄子	文献資料におけるわが国のバースプランの現状分析
村上　明日理	齋藤益子、小嶋奈都子	出産に立ち会った父親の出産に対する思い　～出産の印象,妻への思い,児への思い,夫・父親としての思いに着目して～

特別研究：高度実践助産コース(助産師プログラム)

学生氏名	**指導教員**	**研究課題**
加藤理恵	齋藤益子	分娩進行中に予期せぬ胎児死亡となった妊婦を受け持った助産師の思い

特別研究：看護科学コース

学生氏名	**指導教員**	**研究課題**
内野喜和子	**佐藤潤**	東京都特別区在勤看護職による地域包括ケアシステム・多職種連携に対する意識調査～地域包括ケアシステムにおける 外来部門（病院外来・診療所）の看護職の可能性の検討～

博士論文：博士課程

学生氏名	**指導教員**	**研究課題**
福田淑江	**草間朋子**	看護補助者の効果的・効率的な活用に向けての調査研究
日高未希恵	**今井秀樹**	中山間地域の人口移動と少子化に影響を及ぼす要因―宮崎県椎葉村を対象として―
山田恵子	**中島美津子**	看護職の well-being に関連する要因

2019 年度　臨床看護学コース業績一覧

【基盤看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

伊藤茂樹、稲田晋宣、浦田秀子、小野孝二、小野俊明、佐々木智成、佐々木雅之、佐瀬卓也、新川哲子、中島裕美子、中島覚、花房直志、桧垣正吾、福士雅広、藤淵俊王、松島亮人、松田尚樹、薮内英剛、横山須美、吉田浩二(2016).医療関係者のための放射線安全利用マニュアル　放射線安全管理のプロが語る６０章.（株）アドスリー,東京.

小野孝二　(2020).Biophilia 電子版 No32 ポータブル X 線撮影装置の安全利用（株）アドスリー,東京.

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

Cho K, Imaoka T, Klokov D, Paunesku T, Salomaa S, Birschwilks M, Bouffler S, Brooks AL, Hei TK, Iwasaki T, Ono T, Sakai K, Wojcik A, Woloschak GE, Yamada Y, Hamada N (2019) . Funding for radiation research: past, present and future. Int. J. Radiat Biol, https://doi.org/10.1080/09553002.2018.1558303

Copplestone D, Hirth G, Johansen M, Lazo E, Takala J, Sakai K, Yankovich T (2018).Implementation of the integrated approach in different types of exposure scenarios. Ann ICRP, 47 (3-4), 304-312.

Hirata Y, Fujibuchi T, Fujita K, Igarashi T, Nishimura E, Horita S, Sakurai R, Ono K(2019).Angular dependence of shielding effect of radiation protective eyewear for radiation protection of crystalline lens Radiological Physics and Technology, Radiological Physics Technology. https://doi.org/10.1007/s12194-019-00538-2

Koda T, Shirato K, Takanari J, Imai H (2019). Effects of a standardized extract od Asparagus officinalis stem on photoaging in the epidermal layer of the skin using cultured-keratinocytes. *Nat Prod Commun.* Vol 14. No.0. 1-5.

Koda T, Takanari J, Imai H (2019). Effects of AU-1803 on cholic acid induced-intestinal damage and liver weight gain in mice. Clin Nutr. Vol 38. Suppl 1. S311.

Mizuno Y, Konishi S, Imai H, Fujimori E, Kojima N, Yoshinaga J(2019). Cadmium exposure and blood telomere length in female university students in Japan. Biol Trace Elements Res. 2019 Feb 5. doi: 10.1007/s12011-019-1656-3.

Omori Y, Hosoda M, Takahashi F, Sanada T, Hirao S, Ono K, Furukawa M(2020). Japanese population dose from natural radiation. *J. Radiol Prot. 7.* 2020 Feb 7.

3. 学会における発表

日髙未希恵. 認知症当事者が「楽しい・来たい」と感じ求める場所.第 24 回日本老年看護学会学術集会,2019 年 6 月 7 日，宮城県仙台市.

日髙未希恵,今井秀樹. 中山間地域の少子化と人口移動に影響を及ぼす要因. 第 84 回日本健康学会学術集会，2019 年 11 月 2 日，長崎県長崎市.

堀田省吾,加藤知子,小山珠美,桜井礼子,小野孝二,酒井一夫,別所遊子,太田勝正,井上登美男、遠藤啓吾,沼宮内弼夫,草間朋子.看護職者の「放射線診療（業務）従事者」指定に関するガイドラインの適用のための調査 － 放射線部（科）に所属する看護職の人数調査 －. 日本放射線看護学会第８回学術集会,2019 年 9 月 28 日,仙台.

狩野真利,小野孝二,山口一郎,欅田尚樹,嶋谷圭一,熊沢貴司. ICRP 勧告に基づく職業被ばくにおける水晶体線量限度の取入れに関する国外動向調査.第 2 回日本放射線安全管理 学会・日本保健物理学会合同大会,2019 年 12 月 6 日,仙台市.

小林明子,浦中桂一,日高未希恵,酒井一夫. 人工呼吸器装着患者へのリハビリテーションにおける看護師の介入に関連する要因～救命救急領域において～. 第 22 回日本臨床救急医学会学術集会,2019 年 5 月 31 日, 和歌山.

Koda T, Takanari J, Imai H. Anti-inflammatory effect of AU-1803 on cholic acid induced-large intestine damaged in mice. 27th International Congress on Nutrition and Integrative Medicine, 2019 年 7 月 27 日, Sapporo.

Koda T, Takanari J, Imai H. Effects of AU-1803 on cholic acid induced-intestinal damage and liver weight gain in mice. 41th European Society of Clinical Nutrition and Metabolism Congress, 2019 年 9 月 2 日, Krakoe.

小宇田智子, 高成準, 今井秀樹. アスパラガス茎抽出物の光老化に対する影響. 第 23 回日本統合医療学会, 2019 年 12 月 7 日, 鹿児島.

小西祥子、吉永淳、西浜柚季子、水野佑紀、今井秀樹. 日本人大学生における初経年齢と月経周期の関連. 第 73 回日本人類学会大会、 2019 年 10 月１４日、佐賀.

熊沢貴司,小野孝二,山口一郎,欅田尚樹,嶋谷圭一,狩野真利. 整形外科領域における Balloon kyphoplasty 施術中における術者およびスタッフの被ばく線量評価と放射線防護策についての考察.第 2 回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会,2019 年 12 月 7 日,仙台.

中原未智,日高未希恵,酒井一夫. 東京都目黒区内における診療看護師(NP)の認知度と期待に関する調査～長崎県における診療看護師(NP)の発展に向けた活用法の検討～. 第 41 回長崎地域医療研究会,2019 年 10 月 13 日,長崎.

中原未智,日高未希恵,酒井一夫第. 診療看護師の認知度と期待に関する調査～看護師を対象として～. 73 回国立病院総合医学会, 2019 年 11 月 9 日, 名古屋.

Ono K.A-bomb survivor studies and their long-term implications to health and society. The 65Th Radiation Research Society Annual Meeting,2019 年 11 月 3-6 日, San Diego.

酒井一夫 「低線量・低線量率リスク推定法専門研究会の概要」 日本保健物理学会第 51 回研究発表会。 2018 年６月３０日、札幌。

Shirato K, Koda T, Takanari J, Ogasawara J, Sakurai T, Ohno H, Kizaki T. ETAS®50 aattenuates UV-B irradiation-induced IL-6 expression by suppressing Akt phosphorylation in normal human dermal fibroblasts. 27th International Congress on

Nutrition and Integrative Medicine, 2019年7月27日, Sapporo.

山口一郎,小野孝二,欅田尚樹. 5 keV以上10 keV未満のエックス線が発生しうる機器の放射線安全規制の課題.第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会,2019年12月6日,仙台.

Yokoyama S, Iwai S, Tsujimura N, Hashimoto M, Yoshitomi H, Kato M, Kurosawa T, Tatsuzaki H, Sekiguchi H, Koguchi Y, Ono K,Akiyoshi M, Kunuga N, Natsuhori M, Natsume Y, Nabatame K, Kawashima T, Ohno K.Development of Guidelines on Radiation Protection for the Lens of the Eye in Japan.第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会,2019年12月7日,仙台.

吉武貴康, 小野孝二, 北村正幸, 宮嵜治, 甲斐倫明. 複数回のCT検査を受けている小児の検査理由の分析― 同一ICDコードによる違い.第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会,2019年12月7日,仙台.

4. 研究助成および研究成果報告書

主任研究者 今村知明, 分担研究者　小野孝二・岡本左和子・内藤祐介. 新しいチーム医療における医療・介護従事者の適切な役割分担についての研究. 厚生労働省行政推進調査事業費補助金. 2019年度研究助成. 2018年度実績報告書

欅田 尚樹,山口　一郎・志村 勉・盛武 敬・千田浩一・森晃爾・小野孝二・古渡意彦. 不均等被ばくを伴う放射線業務における被ばく線量の実態調査と線量低減に向けた課題評価に関する研究. 労災疾病臨床研究事業費補助金. 2019年度研究助成. 2018年度実績報告書

古場裕介,甲斐倫明・小野孝二. CT被ばく線量評価システムWAZA-ARIの他のモダリティへの展開技術の開発.　日本学術振興会科学研究費補助金. 基盤C. 2018-2020年

甲斐倫明, 小野孝二・宮嵜 治 . 瀬回小児CT診断の検査理由と放射線被ばくの継時的分析による脳腫瘍罹患との関係.　日本学術振興会科学研究費補助金. 基盤C. 2018-2020年

小宇田智子. 閉経後の高脂肪食に対する食物依存性の形成と大豆タンパク質による抑制. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究（C）, 産婦人科学関連. 2019年度-2021年度

小宇田智子. 二次胆汁酸の大腸上皮および腸管漏出に対する影響とAU-1803の効果. 株式会社アミノアップ. 2019年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、社会貢献、非常勤講師）

今井秀樹

1) 長崎大学医学部非常勤講師
2) 環境省化学物質の内分泌かく乱作用に関する報告の信頼性評価作業班班員
3) 日本衛生学会評議員
4) 日本看護科学会和文誌専任査読員

酒井一夫

1) UNSCEAR最近の動向について　（一般社団法人）原子力安全推進協会、放射線防護課

題検討委員会. 2018 年 4 月 4 日（東京）.

2) 公衆被ばく管理と線量評価.東京大学大学院原子力専攻. 2018 年 4 月 24 日(東海)

3) 環境の放射線防護　東京大学大学院原子力専攻。2018 年 6 月 5 日（東海）

4) 原子力・放射線利用の概要および放射線の基礎.日本アイソトープ協会主催トレーナーズ研修. 2018 年 6 月 9 日（東京）および 2018 年 10 月 6 日（東京）

5) 原子力･放射線災害と看護職の役割」、放射線の基礎、放射線の影響.茨城県看護協会認定看護管理者教育課程研修. 2018 年 8 月 28 日(水戸)..

6) 環境影響研究と生物影響研究の現状と今後　国立研究開発法人　量子科学技術研究開発機構　放射線医学総合研究所　福島復興事業報告会 2018 年 9 月 11 日（千葉）

7) ICRP 第 1 専門委員会の活動　放射線影響協会　2018 年 12 月 26 日（東京）

8) 生物学と疫学の融合　原子力安全研究協会　放射線影響検討会　2019 年 1 月 22 日（東京）

小野孝二

1) 厚生労働省健康局参与

2) 原子力規制委員会原子力規制庁長官官房法務調査室技術参与

3) 日本アイソトープ協会放射線安全取扱部会関東支部委員

4) 一般社団法人日本保健物理学会編集委員

5) 一般社団法人日本保健物理学会臨時委員会委員

6) 国立研究開発機構法人量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所　WAZA-ARI 研究開発・運用委員会

7) 原子力規制庁令和元年度放射線対策依託費（放射線安全規則研究戦略的推進事業費)「円滑な規制運用のための水晶体の放射線防護に係るガイドラインの作成」の研究協力者.

8) 放射線業務従事者のための教育訓練講習会.日本アイソトープ協会. 2019 年 4 月 16 日

9) 日本赤十字社診療放射線技師会学術総会. 日本赤十字社. 2019 年 5 月 31 日

10) 看護教員・看護職のための放射線教育研修会. 文部科学省.　2019 年 6 月 9 日,2019 年 10 月 27 日

11) 平成 31 年度放射線健康管理・健康不安対策事業（福島県外における放射線に係る健康影響等に関するリスクコミュニケーション事業）. 環境省. 2019 年 9 月 2・3・6 日

12) 平成 31 年度放射線健康管理・健康不安対策地形（福島県外における放射線に係る健康影響に関するリスクコミュニケーション事業）.環境省.2019 年 10 月 7 日

13)がん放射線療法看護認定看護師養成課程. 東京医療保健大学. 2019 年 10 月 4 日、12 月 27 日

小宇田智子

1) 非常勤講師. 生命科学基礎実験Ⅰ/生命理工学実験Ⅰ. 東京電機大学理工学部. 2019年度前期
2) 非常勤講師. 生命科学基礎実験Ⅱ/生命理工学実験Ⅱ. 東京電機大学理工学部. 2019年度後期
3) 非常勤講師. 細胞生物学. 東京電機大学理工学部. 2019年度後期
4) 非常勤講師. 感染と免疫. 東都大学ヒューマンケア学部. 2019年度後期
5) 厚生労働省委託事業 職場における化学物質のリスク評価推進事業 有害性評価書原案作成グループ委員. テトラヒドロフラン担当. 2019年度

日高未希恵

1) 介護福祉士実務者研修『医療的ケア』講師
2019月9月1日、9月8日、株式会社ケアワーク弥生 ケアワークアカデミー主催
2019年9月14日　株式会社QOLアシスト　QOLアカデミー主催
2) 公開セミナースピーカー　「医療の非選択　ーその選択は誰のため（家族の立場から）ー」2019年9月22日　一般社団法人　生活を支える看護師の会主催

6. 上記以外その他(原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料以外の紙上発表等)

小宇田智子. 英語論文査読. Natural Product Communications. 2019年4月
小宇田智子. 英語論文査読. Molecules. 2019年8月
小宇田智子. 英語論文査読. International Journal of Molecular Sciences. 2019年10月
小宇田智子. 英語論文査読. Natural Product Communications. 2020年2月
日髙未希恵. 和田行男, 前田隆行, 日髙未希恵.奥野修司（編）, 家族の介護 プロが伝授 11の鉄則（介護を楽にする秘訣を専門家に聞く）. 文芸春秋 2019年7月号, 東京, 216-285.

【総合看護学】

1. 著書

なし

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

石川倫子,小村三千代,岩本郁子,児玉菜桜.診療看護師が抱いていた職務上の困難とその対応,日本NP学会誌,3(1)1-9

3. 学会における発表

岩本郁子,衣川さえ子,竹中泉. 医療安全教育を担当する臨床看護師の教育実践における困難と工夫の様相. 第23回日本看護管理学会学術集会, 2019年8月23日,新潟.

加瀬亜希子,岡村眞喜子,石橋咲子,澁澤盛子,朝澤恭子,竹内朋子,岩本郁子,高橋智子,酒井一夫,玄順烈,田野将尊,長島真由美,小島奈都子.看護技術の向上を目指した実習指導者と大学教員の連携会議の取り組み. 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019年12月1日, 石川.

衣川さえ子, 岩本郁子,竹中泉. 医療安全教育を担当する看護教員の教育実践における困難と工夫の様相. 第29回日本看護教育学会学術集会, 2019年8月4日, 京都.

Kinugawa S, Iwamoto I,Takenaka I.Developing a contents system of educational material for nursing teachers and nurses in charge of clinical safety education. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing

Science, 2020 年 2 月 28 日, Osaks.

浦中 桂一. 診療看護師とは（教育システムなど）. シンポジウム 10 「プライマリ・ケア領域で活躍する診療看護師」. 第 10 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019 年 5 月 18 日, 京都.

遠藤 覚子, 浦中 桂一, 草間 朋子. 救急外来を受診した腹痛患者のトリアージレベルに関する考察, 第 22 回日本臨床救急医学会, 2019 年, 和歌山.

小林 明子, 浦中桂一, 日高未希恵, 酒井一夫. 人工呼吸器装着患者へのリハビリテーションにおける看護師の介入に関する要因～救命救急領域において～. 第 22 回日本臨床救急医学会, 2019 年 5 月 31 日, 和歌山.

石橋 暁, 浦中 桂一, 草間朋子. 看護師等を対象とした診療看護師（NP）の院内研修の実態. 第 5 回日本 NP 学会学術集会, 2019 年 11 月 16 日, 東京.

Keiichi Uranaka, Fumiko Yamanishi. Enhancing comprehensive health ability of Japanese nurse practitioner students: An evaluation of a simulation-based education program. The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), 2020 年 1 月 10 日, Chiang Mai (Thai) .

浦中桂一. 診療看護師とその大学院課程について, シンポジウム「診療看護師セッション～クリティカル領域編～」. 第 20 回日本病院総合診療医学会, 2020 年 2 月 21 日, 福岡

４．研究助成および研究成果報告書

衣川さえ子, 岩本郁子, 竹中泉. 医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師の教育実践力を高める研鑽支援モデルの構築. 文部科学省科学研究費助成金, 基礎研究 C. 2018 年度～2019 年度.

浦中桂一, 高度実践看護師の包括的健康アセスメント能力を高める教育プログラムの開発と評価. 日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究, 2018-2019 年度

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、社会貢献、非常勤講師）

山西文子

1) 講義「医療安全学・医療安全管理」東京医療保健大学放射線看護研修センター主催「2019 年度がん放射線療法看護認定看護師養成課程」2019.7.6-7.26

2) 青森県立病院経営評価会議委員

3) 独立行政法人国立病院機構参与

4) 独立研究法人国立国際医療研究センターヒトＥＳ細胞研究倫理審査委員会委員

5) 日本ＮＰ教育大学院協議会監事

6) 学校法人東京医科大学評議員

7) 第 5 回日本 NP 学会学術集会 2019 年 11 月 16 日　企画委員

岩本郁子

1) 教育課程開発, 公益社団法人東京慈恵会教務主任養成講習会, 2019 年 6 月～11 月.

2) チーム医療論（特定行為実践）, がん放射線療法看護認定看護師課程, 東京医療保健大学,

2019 年 8 月.

3)未来をみすえたカリキュラムの開発方法ー開発の考え方とそのプロセスー.2019 年度石川県看護教員現認研修,2019 年 10 月 5 日.

4) 看護学教育におけるカリキュラム開発の考え方ーカリキュラム改正を見据えてー.全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部令和元年度看護教員研修,2019 年 11 月 4 日.

5)日本 NP 学会副会長,学会誌編集委員（査読）

浦中桂一

1)一般社団法人日本 NP 教育大学院協議会　社員

プリセプター研修フィジカルアセスメントを活用した新人指導. 国立病院機構横浜医療センター, 2019 年 7 月 2 日

2)第 5 回日本 NP 学会学術集会 2019 年 11 月 16 日　企画委員

3)東京医療保健大学 公開講座「知っていますか？災害時のこと 東京医療保健大学 災害医療センターの協働について」2019 年 10 月 26 日, 立川市

4)東京医療保健大学 公開講座「『まさか』より『もしや』で受診 脳卒中で困らないために」2019 年 12 月 7 日, 目黒区

早坂奈美

なし

6. 上記以外その他（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料以外の紙上発表等）

山西文子（2019.1.25）「ホスピタルアート」厚生福祉第 6463 号「打診」時事通信社

山西文子（2019.4.23）「ありのまま舎」厚生福祉第 6483 号・合併号「打診」時事通信社

山西文子（2019.8.20）「ダイバーシティ」厚生福祉第 6509 号「打診」、時事通信社

山西文子（2019.11.22）「三陸鉄道と復興」厚生福祉第 6531 号「打診」、時事通信社

竹中泉,衣川さえ子,岩本郁子.医療安全教育における看護教員と臨床看護師の連携～研鑽支援モデル「コンテンツ共有システム」活用の可能性～.第 50 回日本看護学ー看護教育ー学術集会チームサイエンス, 2019 年 8 月 8 日, 和歌山

【基礎看護学】

1. 著書

松山友子（2019）. 褥瘡予防ケア. 竹尾恵子監修. 看護技術プラクティス（第 4 版）. 480-496, 学研メディカル秀潤社, 東京.

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

髙橋智子, 川﨑香織, ハーネド明香, 古川彩子, 松山友子（2020）. 点滴静脈注射中の清潔援助における点滴滴下モデルの活用ー改良型点滴滴下モデルに対する学生評価からー. 看護展望, メヂカルフレンド社. 45(5), 75-81.

3. 学会における発表

橋本拓哉, 髙橋智子, 松山友子.下腿型弾性ストッキング着用が血圧及び脈拍に与える影響～端座位から立位に焦点を当てて～. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019 年 11 月 30 日, 金沢.

中山真子，飯尾彩加，木川果歩，小塚結香里，佐藤くるみ，多々良円香，原田楓，伊部有美子，久保田貴博，髙田菜々子，髙橋智子，松山友子．看護大学4年次生の看護技術習得に向けた自己学習方法の検討～「車椅子移乗のポイント」に基づく練習の効果～．第39回日本看護科学学会学術集会，2019年11月30日，金沢.

髙橋智子.急性期看護における日常生活ケアモデルの構築．第39回日本看護科学学会学術集会，2019年12月1日，金沢.

加瀬亜希子，岡村眞喜子，石橋咲子，澁澤盛子，朝澤恭子，竹内朋子，岩本郁子，髙橋智子，酒井一夫，玄純烈，田野将尊，長島真由美，小嶋奈都子.看護技術向上を目指した実習指導者と大学教員の連携会議の取り組み．第39回日本看護科学学会学術集会，2019年12月1日，金沢.

4．研究助成および研究成果報告書

なし

5．社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、地域貢献、非常勤講師等）

松山友子

1）日本赤十字看護学会査読委員．2019年5月1日～2022年4月30日
2）東京医療保健大学 放射線看護研修センター「がん放射線療法看護認定看護師課程」講師．実習のための基礎講座：看護過程の基礎．2019年8月20～21日
3）第50回（2019年度）日本看護協会－看護教育－論文選考委員．2019年9月10日～2020年2月28日
4）帝京科学大学 非常勤講師．看護教育学担当．2019年9月20日～2020年2月21日
5）第5回日本NP学会学術集会 査読委員．2019年9月
6）Experiences of New Faculty Members Assigned to Practicums on Nursing Skills in the Fundamental Nursing Department at a Nursing College— How to Learn “WAZA” to Teach Nursing Skills —. International Conference: How People Learn “WAZA” From the educational field of teaching and nursing, 30-33. 9-10 November 2019, Waseda University.

髙橋智子

1）日本看護歴史学会第33回学術集会協力委員．2019年8月31日～9月1日
2）葛飾医療センター看護研究会　招待講演　ポスター掲示（急性期看護における日常生活ケアの実践の明確化）．2020年2月22日

【成人・老年看護学】

1．著書

竹内朋子，桑原節子，上野尚雄（2020）．多職種から学ぶ：がん看護の基礎（がん患者の食事を支えるケア）．公益財団法人 がん研究振興財団，東京.

竹内朋子，松本和史，原口昌宏，松田謙一 他（分担執筆）（2019）．放送大学　オンライン学習支援ツール　看護師国家試験過去問解説 ．放送大学教育振興会，東京.

2．論文等

原口昌宏，竹内朋子（2019）．慢性疾患患児の父親の心理的特性および対処行動に関する国内外の文献レビュー．日本小児看護学会誌，28，240-247.

高津愛結，前田奈那子，安部茉里，玉井夏帆，小林美綺，齋藤このみ，松平明日絵，由井愛莉，横畑智洋，渡辺千華子，岩渕起江，前田竜耶，原口昌宏，竹内朋子（2019）．エアマットレスに対するずれにくいベッドメイキングの検討―三角法と結び法の比較

一. 日本看護技術学会誌, 18, 108-109.

井本由希子, 伊藤まゆみ, 酒井美絵子 (2019). 看護学教育におけるメタ認知学習方略が及ぼす教育的効果の検討―老年看護学演習の実践を通して―. 群馬医療福祉大学紀要, 6(7), 23-36.

3. 学会における発表

淡中亜美, 大垣美帆, 奥平美咲, 宰川智子, 白鳥真美, 高松利采, 寺本智香子, 英舞花, 原口昌宏, 竹内朋子. 女性が1人法で行うバッグバルブマスク換気による送気量の検討―EC法と頬部保持法の比較―. 第39回 日本看護科学学会学術集会, 2019年11月30日, 石川.

榎原ひな乃, 安藤佑衣, 奥江里奈, 嶋田春花, 沼田尚之, 廣海綾奈, 藤崎愛沙香, 山田瑠南, 松本和史, 竹内朋子. 足部へのシャボンラッピングと足浴の有効性の比較. 第39回 日本看護科学学会学術集会, 2019年11月30日, 石川.

淺田道幸, 田野将尊, 竹内朋子. 看護ケアによるN95微粒子マスクのフィットファクターの推移. 第39回 日本看護科学学会学術集会, 2019年12月1日, 石川.

西村基記, 田野将尊, 竹内朋子. ICUにおける患者の主観的疼痛評価と新人看護師の客観的疼痛評価の相関. 第15回 日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2019年6月15日, 大分.

加瀬亜希子, 岡村眞喜子, 石橋咲子, 澁澤盛子, 朝澤恭子, 竹内朋子, 岩本郁子, 高橋智子, 酒井一夫, 玄順烈, 田野将尊, 長島真由美, 小嶋奈都子. 看護技術の向上を目指した実習指導者と大学教員の連携会議の取り組み. 第39回 日本看護科学学会学術集会, 2019年12月1日, 石川.

Haraguchi M, Takeuchi T. Literature Review of the Father's Psychological Characteristics and Coping Behaviors in the Case of Children with Chronic Illnesses. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, February 28th-29th, 2020, Osaka.

原口昌宏, 仁尾かおり, 藤澤盛樹, 澤田唯. 先天性疾患患者の重要他者が認識する支援の現状. 第29回 日本小児看護学会学術集会, 2019年8月4-5日, 北海道.

原口昌宏, 三浦規雅. 盲目的およびマノメータを用いた換気精度の比較―職種間の相違―. 第15回 日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2019年6月16日, 大分.

松田謙一, 濱本洋子, 綿貫成明. 急性期内科系病棟の勤務帯リーダー看護師が発揮している高齢者せん妄ケア実践能力ーインタビューによる質的記述的研究. 第24回 日本老年看護学会学術集会, 2019年6月7日, 仙台.

岡村美帆, 松成裕子, 今村圭子. 原子力発電所立地県あるいはUPZ圏内を管轄する保健行政における原子力災害への取り組みの事態調査. 第8回 日本放射線看護学会学術集会, 2019年9月29日, 福島.

4. 研究助成および研究成果報告書

戸ケ里泰典，山崎喜比古，竹内朋子，神崎初美，本江朝美，井上洋士．看護実践に特化した健康生成論とストレス対処力概念 SOC に関する応用モデルの開発．日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究(B)．2019-2022 年度．

松田謙一，綿貫成明．急性期内科系病棟に所属する勤務帯リーダー看護師のせん妄ケア実践能力の解明．平成 30 年度 公益財団法人政策医療振興財団研究助成金，研究助成事業報告書．2019．

松田謙一，綿貫成明．急性期内科系病棟に所属する勤務帯リーダー看護師のための「せん妄ケア実践能力自己評価尺度」の開発－信頼性妥当性の検討のための全国調査－．国立病院看護研究学会研究助成．2019 年 7 月-2020 年 7 月．

5．社会貢献

竹内朋子

1）公益財団法人がん研究振興財団 がんサバイバーシップ研究支援事業運営委員

2）東京都看護協会，学術誌編集委員会委員

3）保健理論．駒澤大学　医療健康科学部．2019 年 5 月 20 日，6 月 10 日，6 月 17 日，6 月 24 日．

4）看護研究入門Ⅰ・Ⅱ．東京都看護協会．2019 年 5 月 14 日，22 日．

5）第 5 回日本 NP 学会学術集会 査読委員．2019 年 9 月．

松本和史

1)日本看護科学学会 和文誌統計担当専任査読委員

2)日本看護管理学会 和文誌査読委員

3)保健理論．駒澤大学　医療健康科学部．2019 年 4 月 8 日，4 月 15 日，4 月 22 日，5 月 13 日，5 月 27 日，7 月 1 日，7 月 8 日，7 月 22 日，7 月 29 日．

6．上記以外その他

高津愛結，原口昌宏，竹内朋子，他．エアマットレスに対するずれにくいベッドメイキングの検討－三角法と結び法の比較－．第 17 回 日本看護技術看護学会学術集会　卒業研究交流セッション優秀賞受賞．2019 年 9 月 7 日．

松田謙一，綿貫成明，濱本洋子．国立研究開発法人 国立国際医療研究センター　第 3 回清瀬看護学賞受賞．2019 年 5 月 15 日．

松田謙一，綿貫成明．要約 （公財）政策医療振興財団の助成による研究報告 急性期内科系病棟に所属する勤務帯リーダー看護師のせん妄ケア実践能力の解明．医療の広場，59 (8)，20-24．

野田恵美子 (2020)．うつ病のある要介護高齢者に対する訪問看護師の看護実践．訪問看護と介護，25 (3)，100-104．

【小児看護学】

1.著書

なし

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

岡部春香，中島美津子（2019）．地域包括ケアシステム内における情報共有に関する研究 急性期病院の退院時看護要約に焦点を当てて．日本医療情報学会看護学術大会論文集.20.155-156.

玄順烈．A 区における医療的ケア児とその家族の生活実態調査（2020）．日本小児看護学会誌、29.

3. 学会における発表

岡部春香，中島美津子．退院時看護要約の RPA 化に向けた地域包括ケアシステム内における情報共有に関する研究　訪問看護ステーションや介護老人保健施設、特別養護老人ホームに焦点を当てて．第 39 回医療情報学連合大会（第 20 回日本医療情報学会学術大会医療情報学連合大会.2019 年 11 月 21 日，千葉.

加瀬亜希子、岡村眞喜子、石橋咲子、澁澤盛子、朝澤恭子、竹内朋子、岩本郁子、高橋智子、酒井一夫、玄順烈、田野将尊 、長島真由美 、小嶋奈都子 、看護技術の向上を目指した実習指導者と大学教員の連携会議の取り組み、日本看護科学学会第 39 回学術集会、2019 年 12 月 1 日、石川.

山田恵子・中島美津子（2019）．看護専門職としての看護実践が社会的評価に及ぼす影響．看護研究学会学術集会.

山田恵子・中島美津子（2019）．看護職の社会的責任から導出される看護専門教育への新たな示唆．日本看護学教育学学会学術集会．2019 年 12 月 1 日、石川

山田恵子・中島美津子（2019）．看護専門職が抱く看護実践の目標と理想の特徴．日本看護管理学会学術集会．2019 年 12 月 1 日、石川

山田恵子・中島美津子（2019）．看護職の well-being 向上に影響する要因．日本看護科学学会学術集会．2019 年 12 月 1 日、石川

4. 研究助成および研究成果報告書

中島美津子：令和元年厚生労働省労働基準局医療分野の勤務環境改善マネジメントシステムに基づく医療機関の取組みに対する支援の充実を図るための調査・研究事業報告書

5. 社会貢献

中島美津子

1）厚生労働省医政局　医療経営支援課タスク・シフティング等勤務環境改善推進事業評価委員会委員長

2）厚生労働省労働基準局　医療勤務マネジメントシステムに基づく医療機関に取り組みに対する支援の充実を図るための検討会委員

3）厚生労働省労働基準局 医療勤務環境改善マネジメントシステム普及促進研修会講師

4）厚生労働省労働基準局　勤務環境改善支援センター支援教材開発及び実態調査・研究委員会委員

5）日本 POS 医療学会　評議員

6）日本看護管理学会学会誌査読委員
7）日本看護研究学会学会誌査読委員
8）家族保健研究会会誌査読委員
9）滋賀医科大学大学院　看護管理学研究科非常勤講師
10）神奈川県立大学　看護管理課程非常勤講師
11）名古屋大学　キャリア形成支援センター認定看護管理者教育課程講師
12）奈良県立医科大学　看護管理課程非常勤講師
13）国際医療福祉大学大学院　MBA コース非常勤講師
14）国際医療福祉大学　認定看護管理者教育課程セカンド、サードレベル講師
15）日本看護協会　認定看護管理者教育課程ファースト、セカンド、サードレベル講師
16）AMG　認定看護管理者教育課程ファースト、セカンドレベル講師
17）複数県看護協会　看護管理者研修講師
18）複数県看護協会　認定看護管理者教育課程修了式特別講演講師
19）複数都府県庁医療勤務環境マネジメントセンター　研修会講師
20）複数県医師会　医療勤務環境改善マネジメントシステム研修会講師
21）複数県病院協会　療勤務環境改善マネジメントシステム研修会講師
22）医療勤務環境マネジメントシステム研究会シンポジウム運営委員
23）東京都福祉保健局医療政策部　看護管理者研修会講師
24）全国自治体病院協議会　看護管理者研修講師
25）東京都立国分寺高校　医療系進路講演会講師
26）東京海上日動 RM 室医療勤務環境改善マネジメントシステム研修会講師
27）複数個所　看護職・看護管理者研修講師
28）目黒区立小学校カレーボランティア
29）看護研究・フィジカルアセスメント・看護記録等の複数病院及び日総研研修講師
30）看護職の採用と定着を考える会理事

玄順烈

1）トリオ・ジャパン定期総会　啓発活動
2）トリオ・ジャパン「Thanks for life」の企画役員
3）養育室　つばさ（児童発達支援）ボランティアにて障害児支援
4）足立区医療ケア児ネットワーク協議会　会長
5）足立区　障がい者福祉関連計画策定等委託　選定委員会　副会長
6）足立区　第 6 期障害福祉計画・第 2 期障がい児福祉計画プロポーザルの実施

６．その他

中島美津子

1）日本看護管理学会学術集会ランチョンセミナー講師
2）日総研　雑誌「看護部長通信」隔月連載

3) 日本看護協会出版会　雑誌「看護」毎月連載

4) メヂカルフレンド社　雑誌「看護展望」寄稿

5) 照林社　雑誌「エキスパートナース」寄稿

6) E ラーニング（エルゼビアジャパン）動画学習教材 3 単元講師

【母性看護学・助産学】

1. 著書

齋藤益子、加藤江里子、小嶋奈都子他（共著）(2019). 新体系　看護学全書　母性看護学　②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(第 6 版). 175-209, メジカルフレンド社, 東京.

齋藤益子, 加藤江里子, 小嶋奈都子、志村智絵他（共著）(2019). ここがポイント　助産師国家試験突破のコツ　助産師国家試験予想問題 2020.クオリティケア, 東京.

齋藤益子(分担).助産師基礎教育テキスト第 2 巻第 6 章.242-272.日本看護協会出版会,東京

齋藤益子(分担).助産師基礎教育テキスト第 6 巻第 3 章.343-365,日本看護協会出版会,東京

齋藤益子編著,加藤江里子,加藤知子,志村智絵,杜稀衣,松山妙子他(共著)(2020).助産師ものがたり 0-189,クオリティケア,東京.

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

平田礼子,志村智絵,齋藤益子.母性看護学実習前後における看護学生の「母性」に対する意識の変容.日本母子看護学会誌第 13 巻 2 号,111-119.2020 年

Asazawa K, Jitsuzaki M, Mori A, Ichikawa T, Shinozaki K. (2020). Effectiveness of a Spousal Support Program in Improving the Quality of Life of Male Patients Undergoing Infertility Treatment: A Pilot Study. *International Journal of Community Based Nursing and Midwifery,* 8(1), 23-33. 2019,January.

Asazawa K, Inamoto A, Suzuki M, Ashino Y, Ishihara Y, Oba Y, Endo M, Iwata A, Kishioka M, Tokunaga A, Sumino M, Kojima N, Shinohara E, (2019). Predictors of LGBT Recognition by Health Sciences University Students in Japan.*Open Journal of Nursing*, 9(5), 481-493. 2019, April.

朝澤恭子(2019). アロマセラピーと癒し, 保健の科学. 63(2). 174-178.

小嶋奈都子 (2020). 妊娠期の父親への支援と期待されている効果に関する文献研究. 日本母子看護学会学術誌, 第 13 巻第 2 号,45-55.

萩原仁美,宮﨑文子,朝澤恭子,菊池結衣,木村舞衣,中村明莉,松﨑夏美,山田由貴,加藤江里子,平出美栄子(2019).高齢者における性のマイナスイメージおよび恋愛行動の実態と関連性, 東京医療保健大学紀要, 14(1).

早川愛子,朝澤恭子(2019).　看護系大学生に対する性的マイノリティ教育プログラムの開発と評価, 東京医療保健大学紀要, 14(1).

平田礼子,志村智絵,齋藤益子.母性看護学実習前後における看護学生の「母性」に対する意識の変容.日本母子看護学会誌第 13 巻 2 号,111-119.2020 年

仲澤美都,朝澤恭子(2019).青年期の男女に対するライフプランニングを含む性教育プロ

グラムの実施と評価：パイロットスタディ，東京医療保健大学紀要，14(1).

岡本麻美子,宮﨑文子,朝澤恭子(2019). 高年初産婦と35歳未満初産婦の妊娠期の血圧および体重の相違，東京医療保健大学紀要，14(1).

竹本奈央,木島楓,岡本美波,上村茉由,小久保瑠奈,潮谷花野,高崎由利恵,田村梓,原七重,藤本彬宏,朝澤恭子,小嶋奈都子,篠原枝里子(2019).青年期男女における妊孕性知識の関連要因，東京医療保健大学紀要，14(1).

松山(山上)妙子,齋藤益子.英語論文にならう概念分析の進め方～Wolker and Avant の手法を用いて～.日本生殖心理学会誌,第5巻2号,47-50.2019年.

齋藤益子.日本助産実践学会の目指すもの～これからの助産診断名の開発と発展にむけて～.日本助産診断実践学会誌第2巻2号7-9,2020年

3. 学会における発表

Asazawa K, Jitsuzaki M, Mori A, Ichikawa T, Shinozaki K.(2019).Effectiveness of a Spousal Support Program in Improving the Quality of Life of infertile Men in Japan: A Pilot Study. European Society of Human Reproduction and Embryology, July, 2019. Wien.

朝澤恭子，齋藤益子，平出美栄子，加藤江里子，加藤知子，小嶋奈都子，杜稀衣，志村智絵,疋田仁美，乳児を育児中の母親に対する産後支援プログラム「まちの助産室」の開発と評価，第19回日本母子看護学会学術集会，2019年7月， 東京.

小林浩平，朝澤恭子，教職員に対する児童の急変対応プログラムの開発.
第39回日本看護科学学会学術集会学術集会，2019年12月.金沢.

加藤江里子，齋藤益子，平出美栄子，加藤知子，杜稀衣，志村智絵. 妊娠・出産・育児期における祈り第2報-母乳に関する祈りと助産師の育児支援. 日本「祈りと救いとこころ」学会第6回学術研究大会，2019年11月9日，東京.

加藤知子， 草間朋子. 女性医療スタッフの放射線安全・防護方策に関する実態と期待. 第8回日本放射線看護学学術集会，2019年9月29日，福島.

加藤知子， 加藤江里子， 齋藤益子. 助産学における産育習俗と祈りの実際. 第6回祈りと救いとこころの学会，2019年11月9日，東京.

加瀬亜希子， 岡村眞喜子， 石橋咲子,澁澤盛子,朝澤恭子，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，酒井一夫，玄順烈，田野将尊，長島真由美，小嶋奈都子，看護技術の向上を目指した実習指導者と大学教員の連携会議の取り組み.第39回日本看護科学学会学術集会,2019.12.1,石川県.

早川愛子，朝澤恭子， 看護系大学生に対する性的マイノリティ教育プログラムの実施と評価，第60回日本母性衛生学会学術集会，2019年10月，舞浜.

仲澤美都，朝澤恭子， 青年期の男女に対するライフプランニング強化性教育プログラムの開発と評価，第60回日本母性衛生学会学術集会，2019年10月，舞浜.

岸岡美希，大場友夢，鈴木美紗稀，稲本愛，石原百合菜，岩田歩，徳永有沙，芦野陽加里,住野深春，小嶋奈都子，篠原枝里子，朝澤恭子. 医療保健系学生におけるLGBT認識の関連要因. 第39回日本看護科学学会学術集会学術集会，2019年12月.金沢.

萩原仁美，加藤知子，中島美津子. 高校時代における性教育に対するニーズ. 第19回日本

母子看護学会学術集会，2019 年６月 30 日，東京.

堀田昇吾，加藤知子，小山珠美，小野孝二，酒井一夫，桜井礼子，別所遊子，太田勝正，井上登美夫，遠藤啓吾，沼宮内弼雄，下道國，草間朋子．看護職者の「放射線診療（業務）従事者指定に関するガイドラインの適用のための調査．第 8 回日本放射線看護学会学術集会，2019 年 9 月 29 日，福島.

藤吉梨沙，堤まどか，斎藤益子，稲葉汐音，工藤里奈，佐藤未来，田口千尋，照井沙耶，船橋奈津美，吉岡茉奈美，加藤江里子，加藤知子，平出美栄子．女性の月経随伴症状に対する外陰部の温罨法による効果-MDQ 及び鎮痛剤の使用状況の変化-．第 19 回日本母子看護学会学術集会，2019 年６月 30 日，東京.

鈴木美紗稀，大場友夢，岸岡美希，稲本愛，石原百合菜，岩田歩，徳永有沙，芦野陽加里,住野深春，小嶋奈都子，篠原枝里子，朝澤恭子．LGBT 認識尺度の信頼性と妥当性の検討.第 39 回日本看護科学学会学術集会学術集会，2019 年 12 月.金沢.

髙橋恵子，朝澤恭子，有森直子，亀井智子，麻原きよみ，新福洋子，大森純子，菱沼典子，田代順子，People‐Centered Care パートナーシップの関連要因 ―医療系大学が地域に開く市民健康情報サービス事業を対象に―.第 24 回 聖路加看護学会学術大会，2019 年 9 月，東京

堤まどか，藤吉梨沙，斎藤益子，稲葉汐音，工藤里奈，佐藤未来，田口千尋，照井沙耶，船橋奈津美，吉岡茉奈美，加藤江里子，加藤知子，平出美栄子．女性の月経随伴症状に対する外陰部の温罨法による効果-基礎体温及び月経期間、月経血の状態の変化-．第 19 回日本母子看護学会学術集会，2019 年６月 30 日，東京.

渡辺万宥，橋本美幸，小嶋奈都子．生後 4 か月までの子供を持つ父親のメンタルヘルス―抑うつとマタニティブルーの尺度を利用して―．母性衛生学会，10 月 11 日，千葉県.

齋藤益子.チーム医療推進助産師研修のこれまでとこれから.第 37 回東京母性衛生学会学術集会,2019 年 5 月 19 日,東京

松山妙子,齋藤益子.周産期における祈りと助産師の役割．日本「祈りと救いとこころ」学会第 6 回学術研究大会，2019 年 11 月 9 日，東京.

志村智絵,齋藤益子.高度生殖医療における看護に関する国内文献レビュー.第 17 回日本生殖心理学会学術集会.2020 年 2 月 23 日,鹿児島

東園子,齋藤益子.e-ラーニングを用いた女子大学生に対する妊孕性に関する教育プログラムの開発．第 17 回日本生殖心理学会学術集会.2020 年 2 月 23 日,鹿児島

4．研究助成および研究成果報告書

朝澤恭子．不妊治療中の男性における QOL 低下防止のための Web アプリケーションの開発.日本学術振興会科学研究費補助金 研究課題番号：19K11048，基盤研究(C)．2019 年度～2021 年度

平出美恵子(分担)．超音波エコーを活用した母乳育児支援のための妊娠・産褥期の乳房管理法の確立.日本学術振興会研究費補助金　研究課題番号：19H03944 ，基盤研究(B)．2019 年度-2022 年度

高橋恵子．新福洋子．大森純子．朝澤恭子(分担)．亀井智子．麻原きよみ．有森直子．市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」教材のグローバルスタンダード開発．日本学術振興会科学研究費補助金 研究課題番号：19H03966，基盤研究(B)．2019年度～2024年度

篠原枝里子．ICT を活用した助産師の心理支援教育プログラムの開発および技術検証．日本学術振興会科学研究費補助金，若手研究．2018年度-2020年度．

齋藤益子.助産外来で活用するために開発した助産診断名と診断指標の信頼性・妥当性の検討．日本学術振興会科学研究費補助金,研究課題番号:16k12182，基盤研究(C)．2016年度-2019年度.

渡邊淳子(代表) 齋藤益子(分担).実践力向上をめざした助産師外来担当者向け e-ラーニング開発と評価 日本学術振興会科学研究費補助金，課題番号 19k11049,基盤研究(C) 2019年度-2021年度.

三鴨廣繁(代表) 齋藤益子(分担).性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく政策の推進に関する検討 厚生労働科学研究費補助金 課題番号 H31-振興一般-004 2019年度

5．社会貢献

齋藤益子

1) 日本助産診断実践学会理事長
2) 日本母子看護学会理事長
3) 日本生殖心理学会副理事長
4) 日本母性衛生学会常任理事
5) 東京母性衛生学会副理事長
6) 日本女性心身医学会名誉会員
7) 日本思春期学会名誉会員
8) 日本性感染症学会名誉会員・認定士委員会委員
9) 日本分娩研究会理事
10) 日本分娩監視研究会副会長
11) 日本看護診断学会学術委員
12) 性の健康医学財団理事・性の健康カウンセラー養成講座コーディネーター
13) 埼玉医科大学短期大学専攻科助産学専攻における講義「性行動科学」1単位8コマ
14) 東京母性衛生学会主催の「チーム医療推進助産師研修」の企画と運営 2日間
15) 都内中学校における性教育授業
足立区立第13中学校、足立区立千寿青葉中学校、荒川区立原中学校、大田区立志茂田中学校、大田区立田園調布中学校
16) 都道府県助産師職に対する研修会講師
福島県看護協会「臨床推論と助産診断」

東京都チーム医療推進助産師研修にて「臨床推論」

東京母性衛生学会主催学術セミナー(WHC 研修)「妊娠期から育てる逞しいころ」

17) 性感染症予防教育

思春期からの性感染症予防教育の進め方　愛知県性感染症研修会

思春期からの性感染症予防教育　長野県医療職に対する性感染症予防対策

朝澤恭子

1) 日本生殖看護学会　総務幹事
2) 日本生殖看護学会　査読委員
3) 日本助産学会　専任査読委員
4) 看護科学研究　査読委員
5) 第 17 回日本生殖看護学会学術集会　実行委員，企画委員，査読委員
6) 看護研究指導．NHO 国立病院機構東京医療センター看護部　2019 年～2020 年
7) 研修会講師「論文の基礎」．NHO 国立病院機構東京医療センター看護部，2019 年 7 月 18 日
8) 独立行政法人国立病院機構　令和 1 年度看護師等実習指導者講習会講師，「助産師教育課程と実習指導」．2019 年 9 月 18 日
10) 世田谷区認可保育園，育児相談，2019 年 10 月
11) 日本助産師会 2019 年度研修会プログラム.助産師力を高めるウィメンズヘルス研修講師，2019 年 10 月 26 日（東京），2020 年 1 月 18 日（大阪）
12) ひがしがおかまちの助産室　企画運営，2019 年 4 月～2 月
13) ひがしがおかまちの保健室　ボランティア参加，2019 年 9 月
14) 学友会クラブ　ひーりんぐぽっと顧問　老人保健施設等ボランティア引率参加
15) 東京医療保健大学 放射線看護研修センター　がん放射線療法看護認定看護師課程講師．代替療法．2019 年 8 月
16) 第 5 回日本 NP 学会学術集会 査読委員

平出美恵子

1) 公益財団法人東京都助産師会　常任理事
2) 一般財団法人有馬育英会　助産師育成事業委員
3) 三多摩医療生活協同組合　保育園運営委員会有識者会議委員
4) 水天宮　助産師帯の会　活動　2019 年 8 月を省く 1 月～12 月の毎月 1 回の妊婦健康教育活動開催
5) 東京都看護連盟　関東地区研修会活動
6)「卒乳・断乳について」講演．公益社団法人国分寺市助産師会．2019 年 2 月 16 日
7) 助産サービスマネジメント特論．　聖路加看護大学大学院．2019 年 6 月 12 日
8)「理系女子のメンター教育プログラム」．東京農工大学女性未来育成機構．2019 年 6 月 28 日

9) 日本助産師学会.　ポスター発表座長　2019 年 6 月 25 日

10) 新人助産師教育プログラム.　島根県看護協会. 2019 年 9 月 14 日

11) 分娩期学講義・演習「フリースタイル分娩の分娩介助技術」. 山形大学医学部看護学科　助産師コース　2019 年 10 月 28 日

12)「助産院の概要および助産ケア」.東京都立府中看護学校. 母性看護学講義. 2019 年 11 月 1 日

13)「産後うつ　その現状と課題」.NPO 法人 ACT 子育て支援事業部研修会.2020 年 2 月 12 日

加藤江里子

1)　日本助産診断実践学会査読

2) 日本助産診断実践学会幹事

3) 日本母子看護学会幹事

4) 日本産婦人科乳腺医学会乳房エキスパート看護職認定制度委員、評議員

加藤知子

1) 日本放射線看護学会, 規約等整備 WG 委員.

2) 日本分娩監視研究会, 幹事.

3) 看護教員・看護職のための放射線教育研修会. 東京医療保健大学放射線看護研修センター. 2019 年 6 月 8 日, 9 日　2019 年 10 月 26 日, 27 日.

小嶋奈都子

1) 東が丘まちの保健室（9 月 13 日）に参加。

2) 東が丘まちの助産室の企画・運営　2019 年 4 月～2 月

3) 日本母子看護学会　査読委員

篠原枝里子

1) 日本助産師会　国際委員

2) 日本助産学会　専任査読委員

3) 新・ゼロからはじめる助産師超音波セミナー　実行委員

4) International Confederation of Midwives. Midwives in Action Video Coordinator. 2020 年 2 月

6. 上記以外その他(原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料以外の紙上発表等)

朝澤恭子　(2020). フードアロマ. からだにいいこと. 4 月号, p52. 祥伝社

平出美栄子 (2019). 安産の神様"水天宮"における「助産師 OBi の会」の活動　さらし腹帯体験チャレンジ. 助産雑誌, vol.73.06 June　p490-494. 医学書院

平出美栄子 (2019). 宝物,おしえてください 30 年間洗えないポーチ. 助産雑誌. vol.73.04 April p251 医学書院.

【精神看護学領域】

1. 著書

田中留伊 (編著), 村松仁, 田野将尊, 中村裕美, 菅原裕美, 小川賀恵 (2019). 看護師国家試験対策 2020 年 解いて、わかる！覚えて合格！精神看護学問題集. 株式会社 PILAR PRESS ピラールプレス, 東京.

2. 論文等

中村裕美，高橋幸，福井彩水，田野将尊，伊藤桂子，田中留伊（2019）．発達障害およびその疑いのある学生に対する看護系大学教員の関わりの現状と支援のあり方．看護教育研究学会誌，11（1），47-55.

3. 学会における発表

石崎有希，冨田綾冬，三浦翔，大久保千夏，田中留伊，菅原裕美．一般精神科医療でも活用しよう！セルフモニタリングシートとクライシスプラン作成の取り組み．日本精神保健看護学会第回集会，2019 年 6 月 8 日，名古屋.

宮木良，杉原正子，伊藤桂子，田中留伊．一般病院における依存症支援を考える．第 18 回日本アディクション看護学会学術集会，2019 年 6 月 30 日，東京.

宮﨑奈那，永久慶彦，菅原裕美．精神科看護師における急変時対応に対する意識．第 13 回看護教育研究学会学術集会，2019 年 10 月 26 日，東京.

小林芳会，永久慶彦，菅原裕美．統合失調症者における『ヨガ』のリラックス効果の検討．第 39 回日本看護科学学会学術集会，2019 年 12 月 1 日，金沢.

4. 研究助成および研究成果報告書

菅原裕美．統合失調症者の自己概念とその関連要因の検討．日本学術振興会学術研究助成基金助成金，研究活動スタート支援．2019 年度-2020 年度.

5. 社会貢献

田中留伊

1）目黒区自殺対策推進会議 議長
2）日本 NP 学会　監事
3）日本 NP 学会　査読委員
4）日本こころの安全とケア学会　編集委員
5）第 18 回日本アディクション看護学会学術集会　企画委員
6）代々木メンタルクリニック倫理審査委員会 外部委員
7）代々木メンタルクリニック治験審査委員会 外部委員
8）ゆたかクリニック治験審査委員会 外部委員
9）がん放射線療法認定看護師養成課程　科目(相談)担当
10）小澤高等看護学院　非常勤講師
11）第 50 回日本看護協会論文集看護教育　査読委員
12）「患者－看護師関係論と看護実践」研修，独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター，2019 年 12 月 4 日.

中村裕美

1）小澤高等看護学院　非常勤講師
2）「患者－看護師関係論と看護実践」研修，独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター，2019 年 12 月 4 日.

菅原裕美

1) 看護教育研究学会 査読委員
2) 小澤高等看護学院 非常勤講師
3) 「患者－看護師関係論と看護実践」研修，独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター，2019 年 12 月 4 日.

【地域看護学】

1. 著書（翻訳を含む）

なし

2. 論文等 （原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

Iwasaki Y, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Uemura H, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Okada R, Hishida A, Tanaka K, Hara M, Takezaki T, Shimatani K, Ozaki E, Koyama T, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Kuriki K, Miyagawa N, Kadota A, Ikezaki H, Furusyo N, Oze I, Ito H, Mikami H, Nakamura Y, Wakai K (2019). Associations of nutrient patterns with the prevalence of metabolic syndrome: Results from the baseline data of the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Nutrients. 2019 Apr 30;11(5). doi: 10.3390/nu11050990.

3. 学会における発表

中村 芽依， 若月 陽香， 新蔵 春菜， 高橋 茜， 高橋 佳奈子， 友田 理恵， 前田 仁美， 山口 静香， 駒田 真由子， 浜崎 曜子， 佐藤 潤. 高齢者におけるフレイルの有無と社会活動の参加との関連. 第 78 回日本公衆衛生学会， 2019 年 10 月，高知.

田中 美咲， 臼井 亜沙美， 鈴木 ちひろ， 持田 菜々美， 勝谷 秀美， デッケルト 博子， 長島 真由美， 佐藤 潤. 幼稚園・保育所を利用する未就学児の母親における子宮頸がん検診と受診要因との関連. 第 78 回日本公衆衛生学会， 2019 年 10 月，高知.

石田 千絵， 金坂 宇将， 岡田 理沙， 川添 高志， 多江 和晃， 佐藤 潤，久保 祐子. 訪問看護ステーションにおける災害時の事業継続計画（BCP)の現状と課題～熊本地震を経験した管理者へのインタビュー調査～. 第 9 回日本在宅看護学会，2019 年 12 月，東京.

Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Shimatani K, Nishimoto D, Maenohara S, Takezaki T. Advancement of hepatic fibrosis among general women with/without NAFLD. 12th European Public Health Conference, 2019 年 11 月 22 日，Marseille.

Shimoshikiryo I, Shimatani K, Ibusuki R, Nishimoto D, Takezaki T, Wakai K, the J-MICC Study Group. Comprehensive unhealthy lifestyle is associated with alcohol consumption as j-shaped curve. 12th European Public Health Conference, 2019 年 11 月 22 日，Marseille.

狩野真利，小野孝二，山口一郎，欅田尚樹，嶋谷圭一，熊沢貴史. ICRP 勧告に基づく職

業被ばくにおける水晶体線量限度の取入れに関する国外動向調査. 第52回日本保健物理学会, 2019年12月6日, 仙台.

熊沢貴史, 小野孝二, 嶋谷圭一, 狩野真利, 山口一郎, 欅田尚樹. 整形外科領域におけるBalloon kyphoplasty 施術中における術者およびスタッフの被ばく線量評価と放射線防護策についての考察. 第52回日本保健物理学会, 2019年12月7日, 仙台.

下敷領一平, 指宿りえ, 嶋谷圭一, 西本大策, 嶽崎俊郎, J-MICC Study Group. 日本人一般集団における種類別アルコール摂取と血清尿酸値に関する横断的研究：J-MICC Study. 日本疫学会, 2020年2月21日, 京都.

4. 研究助成および研究成果報告書

佐藤潤.保健指導の効果指標としてのPreference (選好)の変化の適用可能性の検討. 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C) (2015年度～2018年度)研究成果報告書.

駒田真由子. 妊婦・乳幼児を持つ親のインフルエンザワクチン接種の決定要因と促進への効果的な介入. 文部科学省科学研究費補助金 若手研究 (2019年度～)

5. 社会貢献 (学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、地域貢献、非常勤講師)

佐藤　潤

1) ひがしが丘保健室 主催 (目黒区共催), 2019年9月13日.

2) 厚生中央病院　アドバンスセミナー「地域包括ケア」講師, 2020年3月23日.

3) 目黒区社会福祉協議会　西部支え合いまち会議　メンバー

嶋谷　圭一

1) ひがしが丘保健室 主催 (目黒区共催), 2019年9月13日.

デッケルト　博子

1) ひがしが丘保健室 主催 (目黒区共催), 2019年9月13日.

6. 上記以外その他 (原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料以外の紙上発表等)

佐藤 潤. メディカコンクール　保健師国家試験対策テスト2019年 (メディカ出版)問題・解説作成

佐藤 潤. メディカ出版 e-learning Nプラス保健師国家試験解説　2019年

(災害看護学コース)

【看護基盤領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等　(原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料)

T. Takano, M. Akagi, H. Takaki, R. Inuzuka, Y. Nogimori, H. Ono, M. Kaneko, N. Hagiwara (2019) . Gender Differences in Congenital Heart Disease in Down Syndrome － Study Data Taken from Medical Records and Questionnaires in a Part of Japan. BMJ Paediatrics Open , 3 (1) , e000414.

高木晴良，草間朋子 (2019) . カリキュラム評価・開発の実際　一領域への取り組み　看護基礎教育における「災害看護学」教育の取り組み. 看護展望, 44 (9) , 908-913

Hirata Y, Fujibuchi T, Fujita K, Igarashi T, Nishimaru E, Horita S, Sakurai R, Ono K (2019). Angular dependence of shielding effect of radiation protective eyewear for radiation protection of crystalline lens. Radiol Phys Technol. 2019 Dec;12(4):401-408. Doi: 10.1007/s12194-019-00538-2

堀田昇吾 (2019) .【放射線診療の今】医療スタッフの放射線被ばくの現状と防護・安全方策. 保健の科学, 61(7) , 461-465.

佐藤朝美，小村三千代，堀田昇吾 (2019). ペア受持ち制″小児看護学実習における臨床実習指導者の認識. 看護教育研究学会. 11(1) , 57-65.

3. 学会における発表

今井淳子. 未就学児を持つ看護系大学女性教員が仕事と育児の両立において大切にしていること・工夫していること. 日本看護学教育学会第 29 回学術集会, 2019 年 8 月 4 日，京都.

堀田昇吾, 加藤知子, 小山珠美, 小野孝二, 酒井一夫, 別所遊子, 太田勝正, 井上登美夫, 遠藤啓吾, 沼宮内弼雄, 下 道國, 柴田 徳思, 草間 朋子. 看護職者の「放射線診療(業務)従事者」指定に関するガイドラインの適用のための調査　放射線部(科)に所属する看護職者の人数調査 第 8 回日本放射線看護学会学術集会 2019 年 9 月 29 日，福島.

向井明光，松永ゆみな，橋本千滉，堀田昇吾，今井淳子，高木晴良. 災害時の生活用水に関する意識と利用可能性 ーアンケート調査結果よりー. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019 年 12 月 1 日，石川

T. Takano, M. Akagi, H. Takaki. Sex differences in congenital heart disease in Japanese Down syndrome. 14th International Conference on Pediatrics & Neonatal Healthcare. March 11, 2020. Zurich, Switzerland.

4. 研究助成および研究成果報告書

今井淳子. 育児中の看護系大学教員のワーク・ライフ・バランス ―コンフリクトとエンリッチメントに着目して―. 私学事業団 2019 年度 若手・女性研究者奨励金，女性研究者奨励金. 2019 年度

堀田昇吾. アクティブ・ラーニング手法を用いた放射線看護教育プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金，若手研究. 2019 年度-2021 年度.

高木晴良，堀田昇吾，今井淳子. 特別治療食を必要とする人への災害時非常食支援のガイドラインの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究(C). 2019 年度-2021 年度.

久保恭子，坂口由紀子，倉持清美，鮎澤衛，岸田泰子，高木晴良，宍戸路佳．保育・教育施設等での心疾患児の健康管理・心事故の分析と予防対策プログラムの検討．日本学術振興会科学研究費補助金,挑戦的研究（萌芽）. 2019 年度-2021 年度.

5. 社会貢献 （学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

高木晴良

1) 生物統計学．早稲田大学教育学部. 2019 年 4 月-7 月
2) 統計学．大妻女子大学家政学部. 2019 年 4 月-6 月
3) 統合実習（医療情報）．帝京大学医学部. 2019 年 7 月
4) 健康管理論．岐阜県立看護大学. 2019 年 10 月-2020 年 2 月
5) 情報科学．帝京高等看護学院. 2019 年 4 月-6 月
6) 特別セミナー SPSS を使った統計解析 基礎編Ⅰ．杏林大学. 2019 年 9 月 30 日
7) 特別セミナー SPSS を使った統計解析 基礎編Ⅱ．杏林大学. 2019 年 10 月 2 日
8) 特別セミナー SPSS を使った統計解析 応用編Ⅰ．杏林大学. 2020 年 3 月 10 日（延期）
9) 特別セミナー SPSS を使った統計解析 応用編Ⅱ．杏林大学. 2020 年 3 月 12 日（延期）

堀田昇吾

1) 平成 31 年度原子力規制庁事業「医学部における放射線健康リスク科学教育の必修化を支える教育システムの構築」講義内容検討委員会委員
2) 日本放射線看護学会 広報・渉外委員会 委員
3) 日本放射線看護学会 学術推進委員会 委員
4) 平成 31 年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル安全管理 講師、 茨城県看護協会、2019 年 9 月 3 日
5) 看護教員・看護職のための放射線教育研修会 講師、東京医療保健大学 放射線研修センター、 6 月 9 日(日), 10 月 27 日(日).

6. 上記以外その他（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料以外の紙上発表等）

堀田昇吾, 高木晴良．災害看護学コースにおける災害看護学教育の取り組み．東京医療保健大学を語る会, 2019 年 10 月 23 日，東京

高木晴良（2020）．災害看護学に関連した卒業研究 卒業研究を発表する学生たちは輝いていました．こころ, 29, p7.

【基礎看護学】

1. 著書（翻訳書を含む）

齋藤益子編，松山妙子ら共著（2020）．助産師ものがたり．クオリティケア，東京.

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

Yoshiko F, Koji Y, Makiko O, Noboru T, Shunichi Y (2019). Factors relating to anxiety among medical teams dispatched to the Fukushima nuclear power plant disaster. *International Journal of Disaster Risk Reduction*. 2019 Sep 13. doi: https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2019.101330

松山（山上）妙子，齋藤益子（2019）．英語論文にならう概念分析の進め方～Wolker and Avant の手法を用いて～．日本生殖心理学会誌, 5 (2), 47-50.

3. 学会における発表

福島芳子．東京電力福島第一原子力発電所事故急性期:何が問題だったのか 看護師の立場

から．日本放射線看護学会第 8 回学術集会, 2019 年 9 月 28 日，福島市.

富永香奈，薄井優香，岩満裕子，山田英子，福島芳子，栗林好子，松山妙子，山田泰子.避難所における災害支援ナースの自律した活動の認識について．日本災害看護学会, 2019 年 9 月 6 日，北海道.

平谷真琴，兵頭里菜，小島佑梨，岩満裕子，山田英子，福島芳子，栗林好子，松山妙子，山田泰子．災害にむけたペット飼い主の備えに関する実態調査．日本災害看護学会学術集会, 2019 年 9 月 6 日，北海道.

松山妙子，齋藤益子．わが国の産育習俗・通過儀礼における助産師の役割と今後の可能性．日本「祈りと救いとこころ」学会, 2019 年 11 月 9 日，東京.

古川雄貴，大野真依，岡村侑香，小林圭輔，天野優美，増田彩華，松沼晴菜，三好佑芽，村井七奈佳，湯地司，林茉里，岩満裕子，松山妙子，山田泰子．避難所における効果的な清拭剤の検討～温湯・重曹・竹酢清拭を比較検討して～．日本災害医学会学術集会，2020 年 2 月 20 日，神戸.

筧咲希,坂本奈穂,中島麻莉乃,上原彩菜,大野夏澄,奥野真優,加藤菜々子,諏訪珠世,高橋瑠美,千葉瑶乃,千屋優里香,岩満裕子,福島芳子,栗林好子．避難所における手指衛生法の検討～手指衛生物品の除菌効果の検討～．日本災害医学会学術集会,2020 年 2 月 20 日,神戸.

4. 研究助成および研究成果報告書

栗林好子．シルバー人材センターの新規事業としての SP 養成の可能性の検討．日本学術振興会科学研究費補助金，挑戦的萌芽研究．2017～2020 年度

5. 社会貢献

岩満裕子

1) 非常勤講師「医療人材管理特論」，早稲田大学大学院, 2019 年 4 月-7 月（前期）
2) 非常勤講師「対人関係性支援研究法 02」，早稲田大学, 2019 年 4 月-7 月（前期）
3) 認定看護管理者ファーストレベル講師，グループマネジメント，埼玉医科大学職員キャリアアップセンター, 2019 年 9 月 20 日，課題レポート評価者
4) 認定看護管理者セカンドレベル講師，コンフリフトマネジメント，国際医療福祉 2019 年 11 月 8 日
5) 認定看護管理者ファーストレベル講師，チームマネジメント，埼玉県看護協会．2020 年 1 月 8 日,課題レポート評価者
6) 認定看護管理セカンドレベル講師，看護人事管理・労務管理，群馬県看護協会.2019 年 9 月 3 日
7) 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程講師，リーダーシップ，国立障害者リハビリテーションセンター, 2019 年 9 月 18 日
8) 東京福祉保健財団，認定看護管理ファーストレベル講師，グループマネジメント，2019 年 10 月 9 日
9) 医療機能評価事業評価部会員，公益財団法人日本医療機能評価機構 2007 年～
10) 公益財団法人東京都福祉保健財団　認定看護管理者研修教育課程委員 2018 年～

福島芳子

1) さすけなぶるファシリテーター養成講座 in 東京．福島大学・東京大学．2019 年 11 月-2020 年 1 月

2) お茶の水女子大学附属高等学校「福島フィールドワーク」. 福島県観光物産交流協会. 2019 年 11 月 9 日
3) 港区総合防災訓練 赤坂会場. 港区赤坂地区総合支所協働推進課. 2019 年 11 月 3 日
4) 日本災害看護学会ネットワーク活動委員会 令和元年台風 19 号被害への先遣隊派遣活動. 日本災害看護学会. 2019 年 10 月 14 日
5) 千葉県鴨川市内における被災者支援活動. 鴨川市社会福祉協議会. 2019 年 9 月 20 日
6) 東京さすけなぶる体験会. 福島大学・東京大学. 2019 年 8 月 4 日
7) 「災害医療・地域医療研修会＠川内村プロジェクト」における健康相談. 川内村社会福祉協議会. 2019 年 6 月-2020 年 11 月
8) 日本災害看護学会「2018 年度第 3 回ネットワーク活動・調査調整部会会議」. 2019 年 5 月 12 日
9) 国立大学法人東京医科歯科大学大学院 保健衛生研究科 共同災害看護学専攻 非常勤講師（災害看護活動論Ⅰ、 災害看護活動論演習Ⅰ）
10) 防衛医科大学校 看護学科 非常勤講師 （公衆衛生学）
11) 日本災害看護学会ネットワーク活動・調査調整部メンバー
12) 日本放射線看護学会誌査読委員
13) 日本放射線看護学会国際委員
14) 日本アイソトープ協会 第 30 期放射線安全取扱部会 広報専門委員会委員
15) 避難所防災教育ツール「さすけなぶる」ファシリテーター

松山妙子

1) JMECC（内科救急・ICLS 講習会），一般社団法人日本内科学会，インストラクター, 2019 年 7 月 21 日
2) JMECC（内科救急・ICLS 講習会），国立病院機構埼玉病院，インストラクター，2019 年 10 月 27 日
3) ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について（講義），東京西徳洲会病院，講師，2019 年5月7日、5月 14 日、6月 11 日、6月 18 日
4) ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について（演習），東京西徳洲会病院，講師，2019 年 7 月8日、7 月 11 日
5) ラダーⅡを対象とした看護過程の展開についての事例発表（講評），東京西徳洲会病院，講師, 10 月 29 日、12 月 13 日
6) 第 6 回 性の健康カウンセラー養成講座〈応用コース〉，公益財団法人性の健康医学財団，講師, 2019 年 11 月 24 日
7) 日本内科学会 JMECC（日本内科救急）功労賞受賞，一般社団法人日本内科学会. 2019 年4月 26 日

6. 上記以外その他（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料以外の紙上発表等）

山田泰子（2019）. プチナース国際看護ゼミ第 7 回安全な水とトイレを世界に. 照林社プチナース, 28(4), 60.

【成人・老年看護学領域】

1. 著書

福田淑江（共著）（2020), 看護の統合と実践② 災害看護学 要配慮者看護 高齢者への看護,メヂカルフレンド社, 164-169, 東京.

2. 論文等（原著、総説、研究報告、実践報告、資料）

折元美雪（2020). 高齢 2 型糖尿病患者が長期療養中に抱いている思い. 東京医療保健大学紀要第 14 巻(号).

3. 学会における発表

Fujimura A, Miura Y, Orimoto M. A Study of Literature on Delirium Prevention prophylactic Care for The Elderly in ICU. The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2020 年 2 月 29 日, Osaka.

福田淑江, アメリカ ハワイ州における認定看護補助者（CNA）の資格と業務に関する調査, 第 23 回日本看護管理学会学術集会, 2019 年 8 月 23 日, 新潟.

岩渕起江. 特別養護老人ホームにおける看取りケアに関する文献検討. 日本エンドオブライフケア学会, 2019 年 9 月 14 日 15 日, 名古屋.

三浦 由紀子, 藤村 朗子. 看護基礎教育における災害看護学の教育方法の検討 ― 英文文献レビューより ―. 第 25 回日本災害医学会総会・学術集会, 2020 年 2 月 21 日, 米子.

奥木莉央, 上原美知瑠, 秋葉紗理奈, 伊藤友唯, 小澤佑夏, 永山真優, 古川瞳、森澤恵美, 福田淑江, 櫻井敬子, 折元美雪, 苅田明子. 首都直下地震災害に備える高齢者の避難に関する認識および避難対策行動とSF-8との関連. 日本看護科学学会 2019 年 12 月 1 日, 金沢.

折元美雪, 藤村朗子. 救急医療における認知症患者のケアに関する文献検討. 第 47 回日本集中治療医学会学術集会, 2020 年 03 月 8 日, 名古屋.

佐藤みほ, 藤村朗子, 佐藤菜保子 ,看護系大学教員に必要なコンピテンシーとは. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019 年 12 月 1 日 ,石川.

島田千穂, 伊藤美緒, 藤村朗子, 超高齢者の治療選択に伴う医療者のジレンマ. 第 3 回日本エンドオブライフケア学会学術集会, 2019 年 9 月 14 日, 名古屋.

4. 研究助成および研究成果報告書

岩渕起江, 福田淑江, 折元美雪, 大場久美. 地域に住む高齢者を対象としたレクリエーションの企画および実施の指導. 令和元年度学長裁量経費, 2019 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、地域貢献、非常勤講師等）

福田淑江

1) 災害看護学 -病院災害-. 福井大学医学部看護学科. 2019 年 7 月 3 日
2) 災害看護. 国立病院機構新潟病院附属看護学校. 2019 年 11 月 25 日・12 月 16 日
3) ヘルスケアサービス 安全管理. 茨城県看護協会 認定看護管理者教育課程 セカンドレベル, 2018 年 8 月 20 日
4) 災害時の看護. 社会医療法人順江会 江東病院. 2020 年 3 月 10 日

藤村朗子

1) 日本クリティカルケア看護学会 専任査読委員
2) 日本アディクション看護学会 査読委員
3) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター客員研究員
4) 日本看護学会－急性期看護－ 論文選考委員.2019 年 8 月 20 日～2020 年 2 月 21 日.

5) 日本看護学会－看護管理－論文選考委員.2019 年 11 月 26 日～2020 年 6 月 9 日.
6) 第 21 回日本救急看護学会　倫理委員会ワークショップ　ファシリテーター2019 年 10 月 6 日. 千葉.

櫻井敬子

1) 日本看護協会　第 50 回(2019 年度)日本看護学会論文集「看護管理」論文選考委員

岩渕起江

1) 高齢者施設体験学習,明治薬科大学,講師,2019 年 7 月 25 日.

折元美雪

1) 糖尿病について. 特定非営利活動法人中国帰国者総合互助ネットワーク主催. 所沢一笑苑. 2019 年 9 月 28 日

三浦由紀子

1) 日本集団災害医学会 評議員
2) 第 25 回　日本集団災害医学会総会・学術集会. 抄録査読委員. 2020 年 2 月
3) 独立行政法人国際協力機構(JICA) 国際緊急援助隊医療チーム 診療1班 班員
4) 独立行政法人国際協力機構(JICA) 国際緊急援助隊医療チーム 中級研修 講師, JICA, 2019 年 10 月 19-20 日, 兵庫県
5) 独立行政法人 国際協力機構(JICA)国際緊急援助隊医療チーム 展開訓練 講師, JICA, 2020 年 1 月 25-14 日, 東京都
6) NPO 法人 HuMA(災害人道医療支援会) 2019 年台風 19 号被害支援活動 2019 年 11 月－12 月, 長野県

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

なし

【小児看護学】

1. 著書

久保恭子 (2020). 災害看護学 (第 3 版). メヂカルフレンド社, 東京. 担当部分 157-159.

2. 論文等 (原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料)

伊地栄美子・ 久保恭子 (2019). 臨地実習における教員が求める学生の患者への関心東京都立看護専門学校紀要, 印刷中.

久保恭子・ 坂口由紀子・ 宍戸路佳・ 倉持清美 (2019). 在宅で暮らす医療的ケア児の母親のワーク・ロスと就労の条件, 東京学芸大学紀要, 印刷中.

久保恭子 (2019). 児童虐待での対応で看護師・保健師に求められていることとは. 子どもと家族のケア, 14 (5), 67-75.

久保恭子・ 坂口由紀子・ 宍戸路佳 (2019). 在宅で生活する重症心身障害児 (者)の死をめぐる母親の体験と社会的課題. 日本重症心身学会誌, 印刷中.

松下年子・ 佐鹿孝子・ 久保恭子・ 坂口由紀子 (2019). 入院中の脳腫瘍の子どもを抱た母親のサポートグループの試み. アディクション看護, 16 (2), 1-12.

塩田津紀世・ 久保恭子 (2019). 患者への直接的援助場面で教員が学生の計画を変更する場面とその根拠. 東京都立看護専門学校紀要, 印刷中.

田中貴代・ 久保恭子 (2019). 看護学生の向社会的行動を育てる指導方法, 東京都立看護

専門学校紀要，印刷中.

3. 学会における発表

濱嵜信恵，久保恭子，及川裕子．不妊治療終結時の支援に関する課題-文献検討を通して．第 60 回日本母性衛生学会，2019 年 10 月 11 日，12，日 13 日，千葉.

小平明日香，久保恭子，及川裕子．高年初産婦の母乳育児継続に向けた課題-文献検討を通して． 第 60 回日本母性衛生学会，2019 年 10 月 11 日，12 日，13 日，千葉.

久保恭子，宍戸路佳．保育園児をもつ母親の子ども虐待の認識の虐待予防にむけた効果的な支援．第 25 回日本保育保健学会，2019 年 5 月 18 日，19 日，神戸.

久保恭子，宍戸路佳．福島第一原子力発電所事故後、避難解除地域への帰還を決めた母親の体験．第 66 回日本小児保健協会学術集会，2019 年 6 月 22 日，東京.

久保恭子，宍戸路佳．災害時、高度医療依存児の自宅外避難に向けた準備と課題．第 39 回日本看護科学学会，2019 年 12 月1日，金沢.

久保恭子，草間真由美，宍戸路佳． 高校生を対象に実施した子ども虐待防止講座の実践報告．第 25 回日本子どもの虐待防止学会，2019 年 12 月 21 日，22 日，神戸.

Kyoko K, Shishido M. Work loss for mothers having children needing special health care and living at home and conditions encouraging these mothers to work. 第 23 回東アジア研究者会議（23rdEAFONS）2020 年 1 月 10 日，11 日，タイランド.

Kyoko K, Shishido M. Mothers’ experience over death of their children having severe physical and intellectual disabilities and having lived at home and social concerns about those mothers. 第 6 回世界看護科学学会 2020 年 2 月 28 日，29 日，大阪.

森田淳，小池彩菜，齊藤果菜，川中栄子，小松祐香，鈴木亮，高橋裕美，柳川侑紀，武田智晴，久保恭子．医療的ケア児を療育する家族の首都直下型地震を想定した防災対策と課題，第 21 回日本災害看護学会，2019 年 9 月 5 日，北海道.

藤田早絵，内田涼平，勝木美樹，高橋舞帆，藤原桃子，益子佑唯，八重樫里佳，山口茜，山中唯，武田智晴，久保恭子：全国の重症心身障がい児（者）施設に勤務する看護師の防災対策と課題，第 66 回日本小児保健協会学術集会，2019 年 6 月 22 日，東京.

坂口由紀子，久保恭子．在宅介護支援を受けない進行性希少難病児の母親の思い． 第 39 回日本看護科学学会，2019 年 12 月1日，金沢.

宍戸路佳， 久保恭子， 鮎澤衛．都内にある学童保育所におけるAED の設置・一次救命処置に関する実態調査， 第 122 回日本小児科学会学術集会， 2019 年 4 月 19 日， 金沢.

宍戸路佳，久保恭子．障がい児通所支援事業所における災害訓練の現状と課題，第 66 回日本小児保健学会，2019 年 6 月 22 日，東京都.

宍戸路佳，久保恭子，鮎澤衛．障がい児をあずかる施設の一次救命・危機管理体制の現状と課題．第 55 回日本小児循環器学会学術集会，2019 年 6 月 28 日，札幌.

Shishido M， Kubo K. Roles of nurses working for childcare facilities in disasters, The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, 2020 年 1 月 10 日， Chiang Mai.

田崎知恵子，坂口由紀子，久保恭子．AYA 世代を迎えた希少難病児を養育する親の体験―移行医療の受け止め方，第 39 回日本看護科学学会，2019 年 12 月1日，金沢.

4. 研究助成および研究成果報告書

岸田泰子，久保恭子．倫理的問題を含む高度政局医療における看護教育及びケア指針．日本

学術振興会科学研究費補助金．研究（C）. 2019-2021 年.

久保恭子，宍戸路佳．保育・教育施設等での心疾患児の健康管理・心事故予防の分析と予防対策プログラムの検討．日本学術振興会科学研究費補助金．挑戦的研究(萌芽)． 2019-2021 年.

宍戸路佳．子どもに携わる専門職者を対象にした災害時レインフォースメント育成プログラムの開発．日本学術振興会科学研究費補助金，若手研究（B）. 2016 年度-2019 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、地域貢献、非常勤講師等）

武田智晴

1）赤ちゃんの泣き対応プチ講座と育児相談． NPO 法人音育プレママパーティー主催．2019 年 4 月 25 日.

2）子どもとおもちゃのお話と育児相談. NPO 法人音育プレママパーティー主催. 2019 年 6 月 27 日.

宍戸路佳

1)練馬区訪問看護師勉強会 医療的ケアのある障害者のグループホームでの支援．練馬区．2019 年 5 月 15 日.

2) 子育て支援 アロマセラピーと育児相談．うさちゃんカフェ. 2019 年 5 月 23 日.

3) CPR・AED 講習会. NPO 法人 SACHI. 2019 年 5 月 25 日.

4) 保育サポーター講習会．子どもの発育と病気. NPO 法人 手をつなご. 2019 年 6 月 25 日.

5) CPR・AED 講習会．筑波大学附属駒場中学校. 2019 年 7 月 3 日.

6) 子育て支援．アロマで虫よけスプレー作りと育児相談．うさちゃんカフェ．2019 年 7 月 25 日.

7) CPR・AED 講習会及び感染症対策について．NPO 法人グループホームとぅもろう．2019 年 10 月 5, 14 日.

8) ボランティア．心臓病の子どもたちの“初めての運動会” Challenging Heart Day. アッヴィ. 2019 年 10 月 6 日.

9) 障害者グループホーム看護部門アドバイザー兼顧問. NPO 法人グループホームとぅもろう. 2019 年 4 月-2020 年 3 月.

久保恭子

1）港区子育て支援イベント. NPO 音育山口りえ，久保恭子. 2019 年 4 月 25 日, 5 月 23 日, 6 月 27 日, 7 月 23 日, 2020 年 3 月 26 日.

2）CPR・AED 講習会. NPO 法人 SACHI. 2019 年 5 月 25 日.

3）保育サポーター講習会．子どもの権利と課題. NPO 法人 手をつなご. 2019 年 6 月 28 日.

4) CPR・AED 講習会．筑波大学附属駒場中学校. 2019 年 7 月 3 日.

5) ボランティア．心臓病の子どもたちの“初めての運動会” Challenging Heart Day．アッヴィ. 2019 年 10 月 6 日.

6）日本質的研究学会誌，日本小児看護学会誌，日本小児保健学会誌，日本災害看護学会誌の査読委員

7）海外で臓器提供を受けた（移植医療）子どもと家族を支援する団体と組み，当該子どもと家族への支援を行った。

6. 上記以外その他（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料以外の紙上発表等）

なし

【母性看護学】

1.　著書

特になし

2.　論文等

特になし

3. 学会における発表

Saeko KINUGAWA, Ikuko IWAMOTO, and Izumi TAKENAKA;Developing a contents system of common educational material for nursing teachers and nurses in charge of clinical safety education, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2020,Osaka International Convention Center in Japan

衣川さえ子,岩本郁子,竹中泉(口演); 医療安全教育を担う看護教員の教育実践上の困難.日本看護学教育学会第 29 回学術集会,2019 年 8 月 4 日, 国立京都国際会館(京都府京都市)

黒澤範子,衣川さえ子,吉田亜希子(口演);母性看護における基本的技術習得のための自己練習上の学習ニーズ.日本看護学教育学会第 29 回学術集会,2019 年 8 月 4 日,国立京都国際会館(京都府京都市)

吉田亜希子,衣川さえ子, 黒澤範子(口演);母性看護の基本的技術習得における自己練習のための動画教材の開発.日本看護学教育学会第 29 回学術集会,2019 年 8 月 4 日,国立京都国際会館(京都府京都市)

岩本郁子, 衣川さえ子,竹中泉(示説); 医療安全教育を担う看護師の研修実践上の困難.第 23 回日本看護管理学会学術集会,2019 年 8 月 24 日,朱鷺メッセ(新潟県新潟市)

梅津靖枝, 衣川さえ子(示説); 訪問看護師と病院看護師及び他職種との連携に起因して在宅療養者に起こった医療事故の実態.第 12 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 2019 年 9 月 29 日,文京学院大学本郷キャンパス(東京都文京区)

満井優菜,小井戸美紀,黒澤範子,吉田亜希子(口演);3･4 ヵ月児を育てる母親の地震への備えを促す要因.第 60 回日本母性衛生学会学術集会,2019 年 10 月 11 日,ヒルトン東京ベイ(千葉県浦安市)

衣川さえ子, 黒澤範子, 吉田亜希子(口演);若年女性の低用量避妊薬･緊急避妊薬の活用に関する横断調査.第 60 回日本母性衛生学会学術集会,2019 年 10 月 11 日,ヒルトン東京ベイ(千葉県浦安市)

梅津靖枝, 衣川さえ子(示説); 家族の在宅介護による医療事故とリスクマネジメントの現状と課題,訪問看護ステーションでの質問紙調査.第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019 年 12 月 1 日,石川県音楽堂(石川県金沢市)

4. 研究助成および研究成果報告書

衣川さえ子、医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師の教育実践力を高める研鑽支援モデルの構築. 平成 30 年度科学研究費助成 基盤研究(C).2018-2020 年度.

衣川さえ子、訪問看護における家族介護者への医療安全に関する教育プログラムの開発. 平成 30 年度科学研究費助成 基盤研究(C). 2018-2020 年度.

衣川さえ子,黒澤範子, 吉田亜希子、若年女性の低用量避妊薬･緊急避妊薬の活用に向けた

啓蒙事業,動画教材の開発と活用. 公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団平成 31 年度啓発事業等助成金研究.2019 年度.

衣川さえ子, 黒澤範子,吉田亜希子,母性看護学における触診スキルの習得に向けた教育方法の開発. 学長裁量経費研究, 2019 年度.

5. 社会貢献

衣川さえ子

1) 日本医療安全学会看護分野理事 (2017 年3月～2019 年 5 月)

吉田亜希子

1) ALSO プロバイダーコース 講師 特定非営利活動法人周産期医療支援機構 ALSO-Japan, 2019 年 9 月 28～29 日東京医療保健大学

6. 上記以外その他

竹中泉,衣川さえ子,岩本郁子(交流集会); チームサイエンス:医療安全教育における看護教員と臨床看護師の連携,研鑽支援モデル「コンテンツ共有システム」活用の可能性.第 50 回日本看護学会－看護教育－学術集会,2019 年8月9日,和歌山県民文化会館(和歌山県和歌山市)

吉田幸枝,森田みゆき,新井美保,倉林花美,衣川さえ子(2019).在宅療養者の入退院にかかわる病院看護師と訪問看護師による連携の現状に対する双方の認識,看護展望 Vol44,No10,48-53.

【精神看護学領域】

1. 著書

田中留伊 監修 村松仁, 田野将尊, 中村裕美, 菅原裕美, 小川賀惠 (2019). 看護師国家試験対策 2020 年第 94 回～108 回看護師国家試験問題収録 解いて、わかる！覚えて合格！精神看護学問題集, ピラールプレス, 東京.

2. 論文等 (原著、 総説、 短報、 研究報告、 実践報告、 資料)

淺田道幸, 西村基記, 田野将尊, 竹内朋子 (2020). 看護ケアによる N95 微粒子マスクのフィットファクターの推移. 結核. (印刷中).

中村裕美, 高橋幸, 福井彩水, 田野将尊, 伊藤桂子, 田中留伊 (2019). 発達障害およびその疑いのある学生に対する看護系大学教員の関わりの現状と支援のあり方. 看護教育研究学会誌 11 (1), 47-55.

田野将尊, 森千鶴 (2019). 統合失調症者の日本における「地域生活」の概念分析. 看護教育研究学会誌, 看護教育研究学会誌 11 (1), 3-14.

3. 学会における発表

淺田道幸, 田野将尊, 竹内朋子. 看護ケアによる N95 微粒子マスクのフィットファクターの推移. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019 年 11 月 30 日/12 月 1 日, 金沢.

加瀬亜希子, 岡村眞喜子, 石橋咲子, 澁澤盛子, 朝澤恭子, 竹内朋子, 岩本郁子, 高橋智子, 酒 一夫, 玄順烈, 田野将尊, 長島真由美, 小嶋奈都子. 看護技術の向上を目指した実習指導者と大学教員の連携会議の取り組み. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019 年 11 月 30 日/12 月 1 日, 金沢.

宮島多映子, 村松仁, 西山忠博. Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用 便秘患者への有効性の

検証，第 45 回日本看護研究学会学術集会，2019 年 7 月，大阪.

宮島多映子，村松仁，西山忠博．Miyajima 式腹部圧迫法（MAPM:Miyajima's Abdominal Pressing Method)の臨床応用-男性患者の有効性の検証，第 39 回日本看護科学学会学術集会，2019 年 12 月，金沢.

西村基記，田野将尊，竹内朋子．ICU における患者の主観的疼痛評価と新人看護師の客観的疼痛評価の相関．第 15 回日本クリティカルケア看護学会学術集会，2019 年 6 月 15 日/16 日．別府.

滝澤夕妃，田野将尊，小貫亜希子，畠山恵美．認知症勉強会の実施による透析室スタッフのケアと態度の変化．第 22 回日本腎不全看護学会学術集会，2019 年 11 月 9 日/10 日，札幌.

田野将尊，小川賀惠，村松仁．訪問看護師が認識する精神科救急・急性期病棟に必要な地域生活を見据えた看護の特徴．第 39 回日本看護科学学会学術集会，2019 年 11 月 30 日/12 月 1 日，金沢.

4. 研究助成および研究成果報告書

田野将尊．精神科救急・急性期病棟における地域移行支援のための多職種連携ガイドラインの開発．2015 年度-2018 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 (B)研究成果報告書.

田野将尊．精神科救急・急性期病棟看護師のための地域生活の視点を持った看護プロトコールの開発．日本学術振興会科学研究費補助金．若手研究．2019 年度-2021 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、地域貢献、非常勤講師等）

村松仁

1) 第 19 回日本アディクション看護学会，絵本朗読僕のこと忘れちゃったの？，座長，2019 年 6 月 29 日，東京.
2) 群馬パース大学保健科学部看護学科 非常勤講師
3) 群馬パース大学看護実践教育センター 摂食・嚥下障害看護 非常勤講師

田野将尊

1) 明星大学人文学部福祉実践学科 非常勤講師
2) 医療法人埼友会埼友草加病院 非常勤看護師（リエゾンアドバイザー）
3) 第 44 回日本精神科看護学術集会ワークショップ 講師「精神看護学実習における臨地実習指導者と教員の連携を考える」．2019 年 6 月 21 日/22 日/23 日，長崎.

6. その他

田野将尊 (2019)．メディカコンクール 第 109 回看護師国家試験対策テスト第 1 回，メディカ出版，大阪．問題・解説作成

田野将尊 (2019)．メディカコンクール 第 109 回看護師国家試験対策テスト第 2 回，メディカ出版，大阪．問題・解説作成

田野将尊 (2019)．メディカコンクール 第 109 回看護師国家試験対策テスト第 3 回，メディカ出版，大阪．問題・解説作成

【在宅看護学】

1. 著書(共著)

小井土雄一，石井美恵子編集(2020),新体系看護学全書　看護の統合と実践②　災害看護学 第3版、メヂカルフレンド社，東京　〈共著者:桜井礼子〉担当部分:障害者への看護　p169-172

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

Yuma Hirata, Toshioh Fujibuchi, Katsuya Fujita, Takayuki Igarashi, Eiji Nishimaru, Shogo Horita, Reiko Sakurai & Koji Ono (2019). Angular dependence of shielding effect of radiation protective eyewear for radiation protection of crystalline lens. Radiological Physics and Technology volume 12, p401-408.

3. 学会における発表

Eiko Taylor, Kayoko Kawahara, Using on the Job Training for Employee Development at Home Health Nursing Offices,　EAFONS 2020, 2020年1月10-11日, 59, Chiang Mai

堀田昇吾，加藤知子，小山珠美，小野孝二，酒井一夫，別所遊子，太田勝正，井上登美夫，遠藤啓吾，沼宮内弼雄，下　道國，柴田　徳思，草間　朋子．看護職者の「放射線診療(業務)従事者」指定に関するガイドラインの適用のための調査　放射線部(科)に所属する看護職者の人数調査 第8回日本放射線看護学会学術集会 2019年9月29日，福島.

齋藤碧，佐々木真帆，柴田実希，山崎満理奈，山下優香，若色希，篠崎真弓，小山珠美，テイラー　栄子，桜井礼子，聴覚障がい者のための避難所における情報提供の在り方～必要な情報と表記方法　～日本災害看護学会学術集会，2019年9月4-5日，北見

4. 研究助成および研究成果報告書

特になし

5. 社会貢献（学会以外の講演等、学会や行政関連の役員、地域貢献、非常勤講師等）

桜井　礼子

1) 大分県看護協会看護管理認定看護師セカンドレベル教育課程講師　2019年10月14日
2) がん放射線療法看護認定看護師教育課程 「指導」1単位(講義・8コマ　演習　2コマ)
3) 一般社団法人日本放射線看護学会理事、広報・渉外委員会委員長
4) 原子力人材育成等推進事業補助金(原子力規制人材育成事業),「医学部における放射線健康リスク科学教育の必修化を支える教育システムの構築」,講義内容検討委員会委員(看護)2019年
5) がん放射線療法看護認定看護師教育課程　教員会委員　2019年～
6) 立川市若葉町団地「健康の集い」 身体計測コーナー企画・開催　9月8日
7) 原子力規制庁 放射線安全規制研究推進事業放射線安全規制研究に参加

テイラー栄子

1)出張講義　都立南平高等学校大学模擬授業　10月29日
2)立川市若葉町団地「健康の集い」 身体計測コーナー企画・開催　9月8日

小山　珠美

1) 一般社団法人日本放射線看護学会　広報・渉外委員会委員.
2) 一般財団法人エマージェンシー・メディカル・レスポンダー財団　評議員.
3) AHA BLSプロバイダーコース. インストラクター　東京医療保健大学. 2019年8月19日, 23日, 24日

篠崎真弓

1)川崎市 NP 連絡会　役員

2)NP オープンセミナー講師（企画:川崎市 NP 連絡会　　対象:在宅医療従事者）

①筋骨格系フィジカルアセスメント　7 月 11 日

②呼吸器系のフィジカルアセスメント　9 月 12 日

③腹部のフィジカルアセスメント　12 月 12 日

④脳神経系のフィジカルアセスメント　2 月 13 日

3)立川市若葉町団地「健康の集い」 身体計測コーナー企画・開催　9 月 8 日

6. 上記以外その他(原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料以外の紙上発表等)

特になし